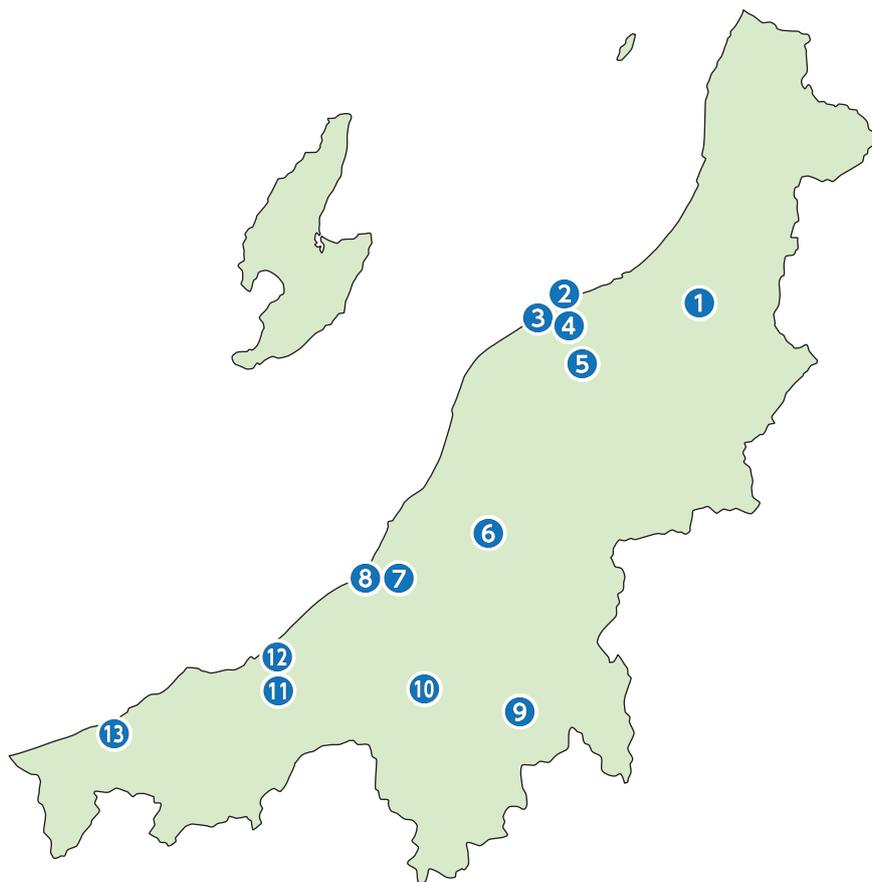


2021年度

新潟県専門研修プログラム

Niigata Prefecture
Specialized Training
Program



1 新潟県立新発田病院

新潟県新発田市本町1-2-8
TEL : 0254-22-3121
<http://www.sbthp.jp/>

2 新潟大学医歯学総合病院

新潟県新潟市中央区旭町通一番町754番地3
TEL : 025-227-2408 (総務課総務係)
<http://www.nuh.niigata-u.ac.jp>

3 県立がんセンター新潟病院

新潟県新潟市中央区川岸町2丁目15番地3
TEL : 025-266-5111
<http://www.niigata-cc.jp>

4 新潟市民病院

新潟県新潟市中央区鐘木463-7
TEL : 025-281-5151
<http://www.hosp.niigata.niigata.jp/>

5 下越病院

新潟県新潟市秋葉区東金沢1459番地1
TEL : 0250-22-4711 (代表)
kaetsu@niigata-min.or.jp

6 長岡赤十字病院

新潟県長岡市千秋二丁目297番地1
TEL : 0258-28-3600
<http://www.nagaoka.jrc.or.jp>

7 立川メディカルセンター 柏崎厚生病院

新潟県柏崎市大字茨目字二ツ池2071-1
TEL : 0257-22-0111
<http://www.tatikawa.or.jp/kousei/>

8 国立病院機構新潟病院

新潟県柏崎市赤坂町3-52
TEL : 0257-22-2126
<http://www.niigata-nh.go.jp>

9 魚沼基幹病院

新潟県南魚沼市浦佐4132番地
TEL : 025-777-3200
<http://www.uonuma-kikan-hospital.jp/>

10 県立十日町病院

新潟県十日町市高田町三丁目南32-9
TEL : 025-757-5566
<http://www.tokamachi-hosp-niigata.jp/>

11 県立中央病院

新潟県上越市新南町205
TEL : 025-522-7711 (代表)
<http://www.cent-hosp.pref.niigata.jp/>

12 上越総合病院

新潟県上越市大道福田616番地
TEL : 025-524-3000 (内線3701)
<https://joetsu-hp.jp/>

13 糸魚川総合病院

新潟県糸魚川市竹ヶ花457番地1
TEL : 025-552-0280
<http://www.itoigawa-hp.jp/index.php>

新潟県でよりよい キャリア形成を！

良医育成新潟県コンソーシアム

専門研修部会長 井口 清太郎



2020年春現在、新型コロナウイルス感染症の猛威は日本国内のみならず、世界全体で多大な影響を及ぼしています。様々な経済活動の停滞、停止を起こしました。特にスポーツなどではオリンピックの延期を始め、高校総体の中止、夏の甲子園の中止など、スポーツに青春をかけていた人、スポーツを生業としていた人々の落胆はいかばかりかと察します。これから夏を越えて冬には更なる第二波などの可能性も取り沙汰されています。医療においても一部の地域では医療崩壊の可能性を取り沙汰されるなどしました。更に教育関係では9月入学の可能性にも言及されるなどしていますが、そうなった場合、大学にあっても卒業時期や初期臨床研修制度、新専門医制度なども多大な影響を受けることが予想されます。しっかりと議論の行く末を見極めていく必要があります。

そのような中でも、専門医制度を巡る動きは遅々としてではありますが進んでいます。サブスペシャルティ領域専門医については2021年4月からの開始を見込んでいますが、新型コロナウイルス感染症の影響でこちらもさらに予定が遅れることも想定されます。基本領域との連動研修を認められる予定の23のサブスペシャルティ領域についても2020年3月13日に開催された医道審議会医師分科会医師専門研修部会では、「連動研修を行う領域」「連動研修を行わない領域」「少なくとも一つのサブスペシャルティ領域を修得した後に研修を行う領域」とに大別され、23の領域がそれぞれ上記のどれに分類されるか議論が行われています。

しかしどのような議論が行われているかに関わりなく、きちんとした研修を重ねることが重要なことはいくらでもありません。本県では、豊かな環境と医療の重要性を十分に理解している県民のもとで、医療スタッフや指導医はよりよい医師を育てていくために熱い心を持って指導に当たっています。医師偏在指標の低さを逆に捉えれば一人の専攻医がより多くの臨床経験を積むことができる環境にある、ということです。また関東に近い立地も生かし、様々な研鑽の機会も得ることができます。新潟大学、新潟県、新潟県医師会を始め専門研修に関わる多くの組織が一丸となって、まさにオール新潟体制で皆さんの指導に当たっています。本専門研修プログラム案内は、そのガイドとなるものです。皆さんの目的に添った専門研修プログラムが必ずあります。是非、本冊子をご一読頂き、記載してある連絡先にご一報頂ければと思います。新潟は皆さんのキャリア形成を大きくサポートします。

目次 Contents

県立新発田病院 5

病院概要.....	7
●内科.....	8

新潟大学医歯学総合病院 11

病院概要.....	13
●内科.....	14
【サブスペシャリティ専門医】	
・循環器内科.....	16
・血液・内分泌・代謝内科.....	18
・腎・膠原病内科.....	20
・呼吸器・感染症内科／心療内科.....	22
・消化器内科.....	24
・神経内科.....	26
・腫瘍内科.....	28
●小児科.....	30
●皮膚科.....	32
●精神科.....	34
●外科.....	36
【サブスペシャリティ専門医】	
・消化器・一般外科／乳腺・内分泌外科.....	38
・心臓血管外科／呼吸器外科.....	40
・小児外科.....	42
●整形外科.....	44
●産科婦人科.....	46
●眼科.....	48
●耳鼻咽喉科・頭頸部外科.....	50
●泌尿器科.....	52
●脳神経外科.....	54
●放射線科.....	56
●麻酔科.....	58
●病理.....	60
●臨床検査.....	62
●救急科.....	64
●形成外科.....	66
●リハビリテーション科.....	68
●総合診療.....	70

県立がんセンター新潟病院 73

病院概要..... 75

●内科..... 76

新潟市民病院 79

病院概要..... 81

●内科..... 82

【サブスペシャリティ専門医】

・循環器内科..... 84

・脳神経内科..... 86

・腎臓・リウマチ科..... 88

・呼吸器内科..... 90

・消化器内科..... 92

・内分泌・代謝内科..... 94

●小児科..... 96

●外科..... 98

●整形外科..... 100

●救急科..... 102

●麻酔科..... 104

●総合診療..... 106

下越病院 109

病院概要..... 111

●総合診療..... 112

長岡赤十字病院 115

病院概要..... 117

●内科..... 118

●総合診療科..... 120

立川メディカルセンター 柏崎厚生病院 123

病院概要..... 125

●精神科..... 126

国立病院機構 新潟病院 129

病院概要..... 131

●総合診療..... 132

魚沼基幹病院	135
病院概要	137
●産婦人科	138
県立十日町病院	141
病院概要	143
●総合診療	144
県立中央病院	147
病院概要	149
●内科	150
●麻酔科専門研修プログラム	152
●総合診療科	154
上越総合病院	157
病院概要	159
●内科	160
●麻酔科専門研修プログラム	162
●総合診療	164
糸魚川総合病院	167
病院概要	169
●総合診療	170

新潟県立新発田病院



所在地

新発田市本町 1-2-8

TEL

0254-22-3121

ホームページ

<http://www.sbthp.jp/>

標榜診療科目

内科、外科、消化器外科、乳腺外科、小児科、整形外科、脳神経外科、循環器内科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、精神科、脳神経内科、麻酔科、救急科、病理診断科、歯科口腔外科

病床数

478床

医師数

常勤：117人 非常勤：29人（2019年4月1日現在）

患者数

入院（H30年度）	年間延べ患者数	149,656人	1日平均患者数	410.0人
外来（H30年度）	年間延べ患者数	219,343人	1日平均患者数	898.9人

病院の特徴等

当院は新潟県北部に位置し、新発田・村上地区の救命救急医療と高度先端医療を担う広域基幹病院として大改築を実施し生まれ変わって十年を迎えた。医師臨床研修の基幹型病院として県内外の初期臨床研修医の応募も多く、さらには付属看護学校を併設し、他の医療系学生を含め多職種の医療スタッフ教育を実施している。災害拠点病院、DMAT病院としての備えも持っている。また、同一医療圏内に地域医療・地域保健の研修が可能な施設があり、プライマリケアを重視する新医師臨床研修制度としての研修環境に恵まれている。

アピールポイント

- 年間6,000台を超える救急搬送があり、結果的に1次から3次救急までの幅広い救急診療を経験できる。
- 地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、エイズ治療の関東・甲信越ブロック拠点病院の指定を受け、地域連携から高度医療まで行っている。
- 教育研修センターを設置し、医療者教育貢献を幅広く行っている。

施設等の紹介

- 図書：図書室で各ジャーナル、学会誌の閲覧が可能。インターネット接続環境があり、Medlineや日本語文献検索が可能。
- インターネット環境：各デスクより可能。
- 宿舍：借り上げ宿舍あり。住居手当あり（上限27,000円）。
- 食事：昼は院内の食堂からの出前や売店からの購入、朝・夜は院内のコンビニエンスストアの利用が可能。
- 敷地内に院内保育所があり、利用可能。

内科専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟県下越医療圏の中心的な急性期病院である新潟県立新発田病院を基幹施設として、新潟県下越医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として新潟県全域を支える内科専門医の育成を行います。

■ アピールポイント

- 内科系全領域のサブスペシャリティ専門医ないし指導医が在籍しきめ細かい指導を受けることが可能。
- 上記特色からサブスペシャリティ専門医への移行がスムーズに行える。

■ 特色

- 1) 新潟県立新発田病院を基幹施設として、新潟県下越医療圏、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設2年間+連携施設1年間の3年間になります。
- 2) 本プログラムでは、基本的に主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- 3) 基幹施設である新潟県立新発田病院は、新潟県下越医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であり、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- 4) 基幹施設である新潟県立新発田病院での2年間（専攻医2年修了時）で、「**研修手帳（疾患群項目表）**」に定められた症例をほぼ経験できます。
- 5) 新潟大学医歯学総合病院専攻医プログラムにおける連携施設となっていることで、大学から派遣される内科専攻医も在籍している。

指導医からのメッセージ

新潟県立新発田病院は、新潟県下越医療圏の中心的な急性期病院であり、内科全領域（脳神経内科、感染症科含む）の専門医、指導医による指導のもとで研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。

■ 連携施設の病院名

新潟大学医歯学総合病院・厚生連村上総合病院・県立坂町病院・あがの市民病院・県立リウマチセンター・南魚沼市民病院

研修期間 3年

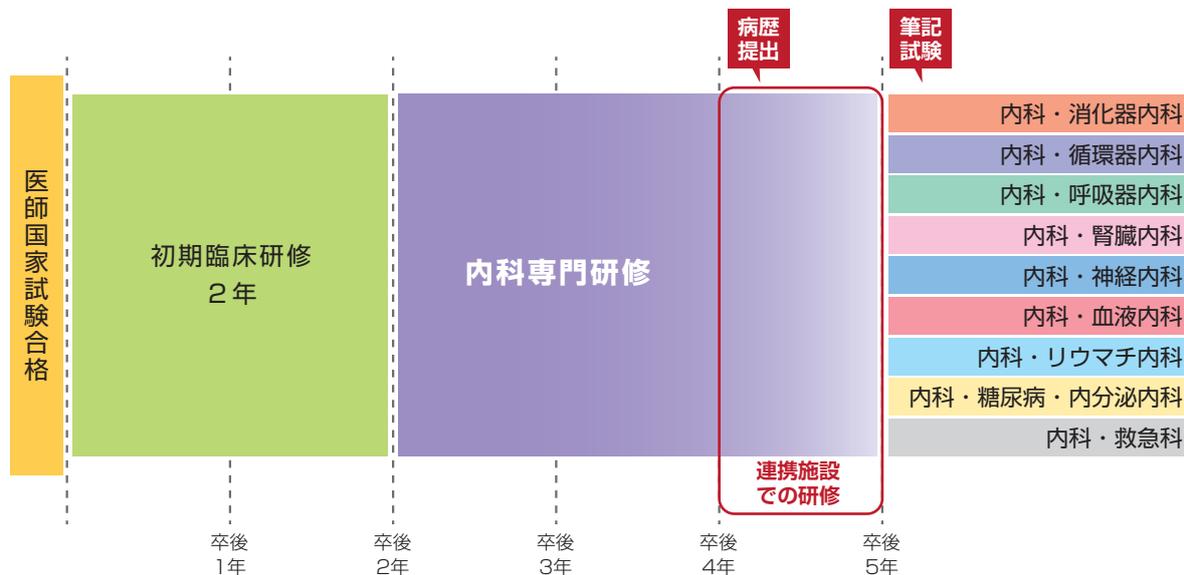
2021年度募集人数 4名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 診療部長 田邊 嘉也

■ 研修コース

①基本コース



②週間スケジュールの例

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
午前	モーニングカンファランス（救急対応のレクチャー・救急症例検討）						担当患者の病態に応じた診療／オンコール／日当直／講習会・学会参加
	入院患者診療						
	総合内科外来診療	内科検査	Subspecialtyの外来診療	内科検査	Subspecialtyの外来診療		
午後	入院患者診療						
	内科検査	内科検査	内科検査	入院患者診療	救命救急センターオンコール		
	入院患者カンファランス	内科検討会・抄読会、CPC		入院患者カンファランス			
夜間	担当患者の病態に応じた診療／オンコール／当直など						

問い合わせ先

担当部署 教育研修センター

TEL 0254-22-3121 (内線)2566 FAX 0254-26-3874

E-mail kensyu-center@sbthp.jp ホームページ <http://www.sbthp.jp/>

新潟大学医歯学総合病院



所在地

新潟市中央区旭町通一番町754番地

TEL

025-227-2408（総務課総務係）

ホームページ

<http://www.nuh.niigata-u.ac.jp>

標榜診療科目

内科、循環器内科、内分泌・代謝内科、血液内科、腎臓内科、呼吸器・感染症内科、診療内科、消化器内科、肝臓・胆のう・膵臓内科、神経内科、腫瘍内科、精神科、小児科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、呼吸外科、整形外科、形成・美容外科、小児外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう・頭頸部外科、産婦人科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科、病理診断科、歯科口腔外科、歯科、矯正歯科、小児歯科

病床数

827床

医師数

常勤：723人 非常勤：245人

患者数

入院（R1年度）	年間延べ患者数	266,088人	1日平均患者数	729人
外来（R1年度）	年間延べ患者数	565,393人	1日平均患者数	2,356人

病院の特徴等

新潟大学医歯学総合病院は、前身の病院から数えると創立100周年を超えた我が国数々の伝統をもつ病院であり、新潟県内外の多くの医療機関との密接なネットワークを持っています。

「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成する」を本院の理念としています。

また、「患者さん本位の安全で安心できる医療を提供する」、「研究成果を反映した高度で先進的な医療を実践する」、「地域連携を推進するとともに地域の医療水準の向上に貢献する」といった、患者さんに良質な医療を提供する特定機能病院としての目標とともに、「豊かな人間性と高い倫理性を備えた質の高い医療人を育成する」という県内唯一の医療機関としての目標も掲げており、様々な取組を行っています。



アピールポイント

- すべての基本領域、内科・外科のサブスペシャリティ領域の専門研修プログラムに対応。
- 高度先進医療から地域医療まで、多様な専門研修プログラムを提供。
- 各プログラムとも、経験豊かな指導医が豊富。

施設等の紹介

- あゆみ保育園 医師・看護師を含む職員の乳幼児の預託および保育利用を目的に、敷地内に保育園を設置しています。
- 新潟医療人育成センター 高度医療に対応した医師の育成を目的とし、内視鏡・腹腔鏡など、専門研修に必要な高度シミュレーターや、模擬病室なども備え、高度な医療技術習得をサポートします。様々な研修会も開催されています。
- アメニティモール 外来棟脇に建設された施設です。レストランdining ASAHI・LAWSON・TULLY's COFFEE・美容室 Sun-trap College
- 社員食堂・売店



新潟医療人育成センター



レストランdining ASAHI



LAWSON



TULLY's COFFEE



社員食堂



売店

内科専門研修プログラム

■ 研修概要

オール新潟（大学基幹）内科専門研修プログラム（以下、本プログラムと称する）は、内科を主専攻科として内科専門医を目指す後期研修医（以下専攻医）を対象とします。内科の領域を偏りなく学ぶ「内科基本コース」、希望するサブスペシャリティ領域を重点的に研修する「サブスペ重点コース」とがあります（詳細は各サブスペシャリティ領域のプログラム参照）。「内科基本コース」では専攻医は医師キャリア支援センターに所属し、サポートを受けます。一方「サブスペ重点コース」では専攻医はサブスペシャリティ領域診療科に所属し、その科と他の内科領域が密接に連携をとりながら研修を進めます。リサーチマインドを持った専攻医は大学院進学も早めに行えるよう構成しています。

■ アピールポイント

- 内科専門医を取得後、さらにサブスペシャリティ科専門医への取得を目指す方に！
- 豊富な症例、多彩な連携研修施設を用意し、専攻医の希望に沿うことも可能

■ 特色

- 原則として3年間で内科専門医を取得！最多の症例数！
- 内科専門医取得後のサブスペシャリティ科専門医までを見据えたキャリアプラン！
- 新潟県内56施設、県外7施設の豊富な連携研修施設群！
- 大学病院内科系診療科の垣根を越えた指導体制とフォローアップ体制！
- 過去3年間で100名の指導実績！（平成30年度は39名の登録実績！）
- 自分の志望が決まれば大学院進学も含め多様なキャリアパスをサポート！
- 新潟医療人育成センターにも近接し、高度シミュレーターも使用しやすい環境！

指導医からのメッセージ

「オール新潟（大学基幹）内科専門研修プログラム」は内科医師として働き、スキルを身につけたいと考えている人はもちろん、リサーチをしたいと考えている人にも対応できるよう、柔軟なプログラムとなっています。新潟県内の主立った医療機関はすべて連携施設として登録してありますので、奨学金を受給していた専攻医のキャリアパス形成もサポートできるようになっています。サブスペシャリティが決まっていない専攻医には医師キャリア支援センター担当者が対応しつつ、すべての内科系診療科と密接に連携し、多様なキャリアパスをサポートします。また、後述するように連携施設から研修を開始することもできます。

多くの専攻医がこのプログラムに参加してくれることを期待しています。一緒に内科医師として研鑽を積んでいきましょう！

■ 連携施設の病院名

〈県内〉 柿崎病院 県立中央病院 上越地域医療センター病院 新潟労災病院 妙高病院 糸魚川総合病院 上越総合病院 けいなん総合病院 小出病院 新潟病院 津南病院 十日町病院 松代病院 見附市立病院 魚沼基幹病院 ゆきぐに大和病院 南魚沼市民病院 柏崎総合医療センター 三条総合病院 済生会三条病院 長岡中央総合病院 長岡赤十字病院 小千谷総合病院 立川総合病院 あがの市民病院 津川病院 加茂病院 両津病院 新発田病院 リウマチセンター 吉田病院 燕労災病院 がんセンター新潟病院 新潟市民病院 西新潟中央病院 坂町病院 佐渡総合病院 豊栄病院 新潟医療

研修期間 3年

募集人数 50名

選考方法 サブスペシャルティ科により異なる

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 新潟地域医療学講座 井口 清太郎

センター 済生会新潟病院 村上総合病院 脳神経センター阿賀野病院 五泉中央病院 下越病院 新津医療センター病院
 亀田第一病院 総合リハビリテーションセンターみどり病院 新潟万代病院 新潟南病院 日本歯科大学医科病院 信楽園
 病院 新潟脳外科病院 木戸病院 桑名病院 新潟臨港病院 新潟白根総合病院
 〈県外〉 秋田赤十字病院 鶴岡市立荘内病院 山形県立中央病院 竹田総合病院 水戸済生会総合病院 埼玉県済生会川口
 総合病院 榊原記念病院

■ 研修コース

①基本コース

		1年目	2年目	3年目
内科基本コース	初期研修	連携施設での研修	大学で内科各領域を研修	
		↑	↑	↑
連携施設での研修は1～3年目のどの時点でも設定可能				
サブスペ重点コース	初期研修	サブスペ専攻科を決めて併行研修		
内科基本コース → サブスペ重点コース	初期研修	大学で内科各領域を研修	サブスペ専攻科で併行研修	
内科基本コース → サブスペ重点コース	初期研修	大学で内科各領域を研修		サブスペ専攻科で併行研修
		↑	↑	↑
どの時点でサブスペ重点コースに移ることも可能				

■ その他参考情報

本プログラムにおいては全研修期間3年のうち、新潟大学医歯学総合病院において1年間以上、かつ連携施設（特別連携施設を含む）で1年間以上の研修を満たせば、そのローテーション順序・期間については自由に設定することが可能となっています（例：大学病院以外で2年間も可能。また大学病院以外の連携施設から研修を開始することも可能）（上図参照）。専攻医は指導医と個別に相談しながら、それぞれのニーズに合った研修ができます。その際、将来のサブスペシャルティ領域を限定せずに、幅広く内科一般を経験しその中でサブスペシャルティを決めていきたい先生は、特定の診療科に所属することなく研修を進めることもできます（内科基本コース）。その場合、プログラム開始後は医師キャリア支援センターに籍を置き、センターが各専攻医の研修診療科・連携研修施設や研修の順序・期間に関する相談を受け付けます。また、プログラム途中でサブスペシャルティ専攻科が決まった場合には、内科基本コースからサブスペ重点コースへの移行も可能です。一方、既に専攻したいサブスペシャルティ専攻科が決まっている先生は、そのサブスペシャルティ領域を担当する専門診療科に籍を置き、その科と相談しながら連携研修施設を決めていくことになります（サブスペ重点コース）。

問い合わせ先

担当者 新潟大学医歯学総合病院医師キャリア支援センター

E-mail nar@adm.niigata-u.ac.jp

循環器内科専門研修コース

■ 研修概要

本コースでは、循環器内科の知識と技術を総合的に習得したうえで、より専門的・先進的な循環器医療に貢献できる人材を育成することを目的とします。新潟大学および関連病院の症例数は豊富で指導体制が整っているため、十分な症例について臨床経験を積むことができ、キャリアアップにつながります。専門医の取得に必要な症例数を経験できるよう、症例数の多い連携施設で2年間研修を行い、続いて大学病院で難治例を含め一例一例をしっかりと学べる体制としています。本コースを通して、虚血性心疾患、不整脈疾患、心筋症、心不全、肺高血圧症などの多岐にわたる循環器疾患の診療や手技を学ぶとともに、心エコーなど画像診断、心臓リハビリテーションについても専門的知識の習得が可能です。新専門医制度移行後も、速やかに循環器専門医を取得できることも特長です。

また、内科専門医を所得するために必要な内科症例については連携施設ならびに大学病院での後期研修中に経験することができます。その後は、希望に応じ主に大学院で研究に専念する大学院コース、もしくは専門施設で技術を磨くスペシャリスト育成コースとなり、いずれのコースでも専門医取得後の道も大きく開けるようにしています。また、ライフイベントなどに応じて進路について個別に相談することもできます。



■ 特色

コースの名前のとおり専門医養成が大前提であり、本コースを通常どおりに行えば、新内科専門医、循環器専門医は問題なく取得できる。これと並行して目標とするのは、現在の医療の限界を認識し、限界を突破するための探究心を育むことである。専門研修の早期で、多くの患者さんと接し、徐々に専門的、先進的な診療・研究を進めることで、専門医を取得したときには、生涯にわたり質の高い医療を実践しつづけられるようになる。

循環器内科専門医が追及すべき領域には、循環器疾患に専門特化した診療・治療はもちろんのこと、その背景である高血圧、脂質異常症、メタボリックシンドローム、動脈硬化なども含まれる。疾患の成因を分子レベルで解明したり、疫学研究をとおして疾患の背景をコントロールしたり、地域の診療に貢献したりすることもできるよう指導し、患者さんを中心に、分子や社会にまで広く視野に入れることのできる医師を育てる。

指導医からのメッセージ

循環器疾患は、急性期には重症であることも少なくありませんが、有効な治療法が多いため、退院時には自力歩行で退院される患者さんが多いことが特徴で、やりがいを感じるすることができます。循環器内科では、救急患者さんを診ることも多いので、自然に救急処置のスキルが身に付いていきます。カテーテル手術や植込みデバイス手術、薬物治療の他に、心エコーを始めとした画像診断や心臓リハビリテーションなどについても指導体制があるため様々な分野で専門性を発揮する進路があります。一方で、全身管理について知識も深まるため、将来的には一般内科医として、様々な疾患治療や地域医療を担うことも可能となります。また、教室の基礎・臨床研究のレベルは大変高く、学術面の活動にも力を入れています。ぜひ循環器内科で一緒に仕事しましょう！

研修期間 3年～

募集人数 制限なし

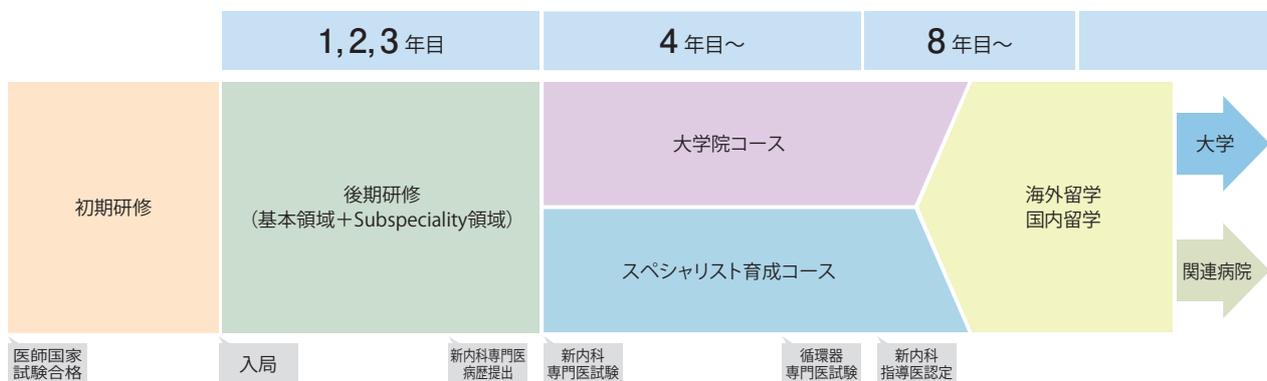
選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 循環器内科 准教授 尾崎 和幸

■ 連携施設の病院名

新潟市民病院 新潟医療センター 済生会新潟病院 信楽園病院 木戸病院 県立がんセンター新潟病院 桑名病院 新潟南病院 県立新発田病院 燕労災病院 立川総合病院 長岡中央総合病院 長岡赤十字病院 県立中央病院 柏崎総合医療センター 村上総合病院 佐渡総合病院 鶴岡市立荘内病院 榊原記念病院 国立循環器病研究センター病院 水戸済生会総合病院 埼玉県済生会川口総合病院

■ 研修コース



■ 各種学会認定専門医数

日本循環器学会認定循環器専門医：21人	日本内科学会認定総合内科専門医：19人
日本心血管インターベンション治療学会専門医：2人	日本心血管インターベンション治療学会認定医：5人
日本不整脈心電学会学会不整脈専門医：4人	日本高血圧学会専門医：1人
日本動脈硬化学会専門医：1人	日本超音波医学会超音波専門医：2人
心臓リハビリテーション指導士：4人	日本救急医学会認定救急科専門医：1人
日本臨床検査医学会臨床検査管理医：1人	

■ 各種学会専門医修練施設としての認定

日本循環器学会：認定循環器専門医研修施設	日本心血管インターベンション治療学会：認定研修施設
日本不整脈心電学会：認定不整脈専門医研修施設	日本動脈硬化学会：認定専門医認定教育施設
日本超音波医学会：認定専門医研修施設	
日本心臓リハビリテーション学会：認定心臓リハビリテーション実施施設	

問い合わせ先

担当者 総括医長 柳川 貴央

TEL 025-227-2185 **FAX** 025-227-0774

E-mail takao-ya@med.niigata-u.ac.jp **ホームページ** <http://www.med.niigata-u.ac.jp/car/>

血液・内分泌・代謝内科専門研修コース

■ 研修概要

【血液内科】

血液疾患診療を通じて内科全般の総合的な力を身につけることができ、内科専門医の取得は容易である。症例、指導医とも充実した大規模研修病院（大学病院、関連基幹病院）を複数経験することで、優秀な血液専門医を短期で育成するとともに、がん治療認定医、造血細胞移植認定医、輸血・細胞治療学会認定医など各種専門医資格も容易に取得できる。血液学は基礎研究と日常臨床が近接しているため、希望者は研究機会を得、physician scientistとして活躍することも可能である。最初の2年は大学あるいは連携教育病院で臨床研修を行い、3年目以降は、本学または連携教育病院での研修、または大学院進学など本人の希望と調整によって選択可能である。

【内分泌・代謝内科】

総合診療能力を有する専門医として、総合内科専門医、糖尿病専門医、内分泌代謝専門医、動脈硬化専門医、甲状腺専門医などの資格取得が可能である。そのために、糖尿病や内分泌疾患、脂質異常症、肥満症や高血圧症などの各種代謝・内分泌疾患のマネージメントを学び、合併症抑制と健康寿命延伸のための臨床経験を磨く。比較的、ゆとりのある研修体制を生かし、希望者は研究（臨床、基礎）も併行可能である。コース修了後、海外留学も可能である。新潟県社会医学系専門研修プログラムとも連携しており、社会医学系専門医を同時に目指す道もある。最終的には、臨床現場でエビデンスに基づく診療体系を組み立て、開業から大病院まであらゆる状況に対応可能な専門医を育成し、患者さんと社会へ貢献することを目標とする。

■ アピールポイント

【血液内科】

血液内科では診断から治療までを一貫して行う能力を有する医師を育てる。化学療法や造血幹細胞移植では感染症など様々な合併症の管理も必須であり、血液検査、画像検査、病理検査、染色体遺伝子検査などに対する深い知識を身につけることで総合的な医療を行う能力が自然に身に付く。また、国内外の様々な多施設共同研究に参加しており、質の高い最新の臨床研究にふれることが出来る。血液学会認定専門医、輸血・細胞治療学会認定医、造血細胞移植認定医、がん治療認定医、がん薬物療法専門医、総合内科専門医などの資格取得が可能な研修体制を組んでいる。基礎研究や臨床研究もさかに行われており、希望により海外留学も可能。血液学では細胞生物学・分子生物学免疫学などの手法を用いた基礎研究がそのまま臨床診断や治療に応用されるため、基礎研究と臨床医療との間に距離感を感じることがない。学問のためのみの研究ではなく、患者診療に有益な研究を行なっている。

【内分泌・代謝内科】

総合診療医としての知識・技術を体得した上で、総合内科専門医、内分泌代謝専門医、糖尿病専門医、甲状腺専門医、動脈硬化学会専門医などの資格取得を目指し、内分泌疾患と共にあらゆる代謝疾患（糖尿病、脂質異常症、肥満症、高血圧症、痛風、骨粗鬆症、メタボリックシンドロームなど）について、食事・運動などの生活習慣指導も含めてコントロールできる専門医を育てる。

特に動脈硬化や血管合併症を促進する各種リスクファクターのマネージメントについては、チーム医療を通じた療養指導体制の構築や地域医療、病診連携も含めて学び、地域の代謝内分泌疾患予防・治療の指導的役割を担える専門医を養成する。将来の進路により、開業から基幹病院部科長、大学教授、基礎研究者、行政担当者などあらゆる進路に対応できる個人別オーダーメイド研修体制を組んでおり、多彩な基礎研究や臨床研究も盛んに行われている。希望により海外留学ももちろん可能となっている。

【血液&糖尿病ダブル専門医を目指す方へ】

大学でも一般病院でも、内科は臓器別細分化の一途をたどっている。その中で私たちの教室は「生活習慣病も腫瘍性疾患も」幅広くカバーする数少ない総合内科といえる。

血液内科の中心を占める造血器腫瘍は、診断から治療までのすべてを内科医が管理できるほぼ唯一の癌であり、将来のがん治療の中心となる分子標的薬を含む新しい化学療法が、次々と導入されている臨床腫瘍の最先端分野である。幹細胞移植では、最重症の感染症や全身各臓器の合併症に適切に対処する力も身につく。

研修期間 4-6年

募集人数 12名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 血液・内分泌・代謝内科 教授 曾根 博仁

一方、膨大な数の患者さんがおられる糖尿病は、最も管理の難しい生活習慣病診療の最高峰である。チーム医療のリーダーとして、生活習慣指導と多彩な薬物療法を患者さんごとにデザインすることにより動脈硬化疾患や腎透析を予防し、健康寿命を最大化するプロセスは、まさに内科的管理の極致と言える。したがって両分野の専門医を取得した暁には、「極めて広い守備範囲を持つ理想的なホスピタリスト」や「診断だけでなく治療も自らこなせる本物の総合内科医」が実現できる。もちろんこれからますます重要となる地域医療や在宅医療の担い手としても最適と考えられる。当科は、両方の専門医が同時取得できるわが国の数少ない拠点であり、豊富なスタッフと症例に恵まれた大学ならではの集中的な研修コースとして、プライマリーケア、家庭医療、総合診療専門医のグレードアップ研修コースにも用いられる。究極を目指す、腕に自信のある全国の研修医の皆さんの挑戦をお待ちしている。

指導医からのメッセージ

当科で研修可能な【血液内科】と【内分泌・代謝内科】はいずれも、診断から治療まで自分でじっくり考えながら診療を行える分野です。感染症など他臓器の合併症も診る機会が多いので、幅広い総合内科専門医としての知識が自然と身に付きます。特別な手技に頼ることもありませんので、年をとってからも生涯仕事を続けられるやりがいのある分野です。また専門医が非常に不足している分野ですので、常に多くの病院の部長としての需要があります。当科の仲間に加わり研修を行うことで内科医としての醍醐味を味わいながら、しっかりした総合的な臨床の実力が身に付くことでしょう。真の内科医を目指す皆さんの御参加をお待ちしています。

連携施設の病院名

【血液内科】 県立中央病院 県立新発田病院 済生会新潟病院 新潟市民病院 長岡赤十字病院 柏崎総合医療センター 長岡中央総合病院 佐渡総合病院 魚沼基幹病院 県立加茂病院 新潟南病院

【内分泌 代謝内科】 県立中央病院 長岡赤十字病院 済生会新潟病院 長岡中央総合病院 新潟医療センター 佐渡総合病院 木戸病院 県立新発田病院 新潟市民病院 柏崎総合医療センター 魚沼基幹病院 あがの市民病院 万代病院 小千谷総合病院

研修コース

①基本コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
初期研修	大学病院12~24か月/連携病院12~24か月 内科専門医研修、専攻サブスペ研修:下記3パターン選択可能 専攻サブスペ:●血液のみ ●内分泌代謝のみ ●両方			臨床修練 (専攻サブスペ分野)			
	研究▶(希望者のみ。開始時期や力の入れ具合も自由に選択) 学位取得(最短卒後5年) 社会医学系専門医など						
	新潟大学内科専門プログラム(レジデント)			医員			
	新内科専門医取得			専攻サブスペ分野専門医取得▶		専攻分野に応じ、更に多彩な専門医資格を取得可能▶	

問い合わせ先

担当者 総括医長 瀧澤 淳

TEL 025-368-9026

FAX 025-368-9300

E-mail juntaki@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/emh/index.html>

腎・膠原病内科専門研修コース

■ 研修概要

本コースは卒後臨床研修を修了した医師を対象とし、内科専門研修プログラムと連携し、内科専門医取得を目指しながら、並行してサブスペシャリティとしての腎臓病専門医、リウマチ膠原病専門医などを養成する。原則として5～9年の研修期間の中で、各種腎炎と病理学的診断、酸塩基平衡・電解質異常、慢性腎不全、急性腎障害、透析療法、腎移植に至る腎臓病領域と、関節リウマチを初めとする各種自己免疫疾患に対して、幅広い知識と技能を有し、独立して、または医療チームのリーダーとして診療できる腎臓病専門医、リウマチ膠原病専門医などを養成する。

上記のサブスペシャリティ分野の研修は、カリキュラム制が主体である。したがって、基本的には下記の2コースを挙げることが、個々のライフプランや状況に応じた柔軟な研修が可能である。

Aコースでは臨床研修プログラムの期間の中で、腎・膠原病内科学分野の大学院生として臨床に即した基礎研究または臨床研究に専念する期間を設け、早期の学位取得を目指す。原則として専門研修1～2年目は新潟大学医歯学総合病院または内科専門研修連携病院で内科全般の研修を行う。専門研修2～3年目以降、希望に応じて大学院博士課程に入学し、基礎研究、臨床研究を行う。大学院博士課程入学後は2～3年間のベッドフリー期間を設け、腎・膠原病内科学講座あるいは学内外の基礎講座において研究に専念する。ベッドフリー期間終了後は当院の腎・膠原病内科医員として、大学院在学中に不足した内科専門研修プログラムを再開し、内科専門医取得に必要な症例も随時経験して内科専門医研修を修了し、内科専門医取得を目指しつつ、腎・膠原病内科研修も並行して行う。関連病院出向の際には各自が選択した腎臓学会、リウマチ学会等の認定連携施設において、腎内科、リウマチ膠原病内科の研修を専門医取得まで継続する。

Bコースでは、内科専門医研修および腎・膠原病内科研修を優先的に並行して行い、最短で5年（卒後7年目）で内科専門医を取得しつつ、サブスペシャリティとして腎臓専門医、リウマチ専門医取得を目指す。その後大学院に入学することも可能である。また同時に、希望に応じて透析、高血圧、糖尿病、老年病の各学会専門医取得を目指すことも可能である。

■ アピールポイント

- 内シャント設置、腹膜透析カテーテル埋込手術を修得できます。
- 各種血液浄化療法を修得できます。
- 多彩なリウマチ・膠原病疾患の診断・治療を修得できます。

■ 特色

伝統と先進性を誇る腎臓内科診療では、腎生検、酸塩基平衡・電解質異常から腎不全の透析治療、腎移植まで、腎臓内科専門医として要求されるすべてのケースに対応できるように研修することができます。特に、腎代替療法が必要な慢性腎不全患者に対し、ブラッドアクセスのための内シャント作成手術や腹膜透析カテーテル留置術の手法も当科で習得できます。また、急性腎不全・多臓器不全に関連する救急医療・集中医療でも数多くの経験を積むことができます。さらに、透析導入の原因疾患の第一位となる糖尿病性腎症に対し、当科では糖尿病に対する診療にも力を入れています。研究面においては、臨床病理学的な研究から遺伝子レベルの研究、さらには遺伝子治療・再生医療など新しい治療法の開発に向けた基礎研究も幅広く展開しています。膠原病内科診療では、多臓器に渡る多彩な合併症を呈する疾患を対象とするため、全身を診る全人的診療の基本を身につけることを目標とし、自己免疫疾患、リウマチ性疾患の診断・治療について専門的に研修できます。研究面においては、膠原病の臨床研究を中心とし、基礎研究では、免疫学的研究、遺伝子研究を展開しています。腎臓病、リウマチ膠原病のいずれの研究においても、希望に応じてベッドフリーで研究に専念できる期間を設けており、4年間の大学院博士課程修了までに学位を取得することを目標としています。また、新潟大学には国内唯一の腎研究センターがあり、臨床部門である当診療科の他、基礎部門およびトランスレーショナル部門が一体となり、互いに交流しながら研究を進めていることも特徴の一つです。

研修期間 5～9年

募集人数 毎年10名まで

選考方法 面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 腎・膠原病内科 教授 成田 一衛

指導医からのメッセージ

病理学的な確定診断のもとに完治を目指す糸球体腎炎、生命維持に直結し、ダイナミックな動きを見せる酸塩基平衡・電解質異常、多臓器不全の重症患者を救う血液浄化療法、生物学的製剤の登場で治療法において飛躍的な進歩を遂げたリウマチ膠原病など、腎・膠原病内科領域の疾患は、非常にやりがいと将来性のある分野であると同時に、高い専門性が要求される分野でもあります。また血圧、血糖、脂質の管理など、生活習慣病への対応から、全身管理に必要な総合力を培う面でも大変有利な知識と技能が身につきます。研修終了後には国外留学を含めて、多彩な活躍の場があります。腎臓病専門医、リウマチ膠原病専門医を目指して共に医療の現場を分かち合う皆さんをお待ちしております。

連携施設の病院名

新潟県立中央病院 新潟県立新発田病院 新潟県立リウマチセンター 新潟市民病院 長岡赤十字病院 済生会新潟病院
厚生連糸魚川総合病院 厚生連長岡中央総合病院 厚生連佐渡総合病院 厚生連小千谷総合病院 厚生連柏崎総合医療センター 立川総合病院 信楽園病院 新潟臨港病院 鶴岡市立荘内病院 新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院

研修コース

①基本コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
A コース	内科専攻医として ・内科全般研修 ・連携病院出向		大学院生として ・基礎研究/臨床研究 (大学院博士課程) →腎・膠原病内科 →基礎講座出向			腎・膠原病内科医員として ・内科全般研修 →内科専門医取得 ・腎・膠原病内科研修		関連病院出張医として ・腎・膠原病内科研修 →腎臓/リウマチ専門医取得など	
	大学院入学+専門医取得								
B コース	内科専攻医として ・内科全般研修 ・連携病院出向		腎・膠原病内科医員として ・内科全般研修 →内科専門医取得 ・腎・膠原病内科研修			関連病院出張医として ・腎・膠原病内科研修 →腎臓/リウマチ専門医取得など			
	専門医取得優先								

問い合わせ先

担当者 総括医長 中枝 武司

TEL 025-227-2193 FAX 025-227-0775

E-mail nakatsue@med.niigata-u.ac.jp ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/nephrol/>

呼吸器・感染症内科／心療内科専門研修コース

■ 研修概要

【呼吸器・感染症内科】

呼吸器・感染症内科コースは卒後臨床研修を修了した医師を対象とし、内科専門医取得のための内科研修を行いながら、その後の呼吸器専門医取得にスムーズ移行できるようなカリキュラムです。また本コースは呼吸器専門医をメインに案内していますが、要望に応じて、アレルギー専門医、感染症専門医を取得するコースも選択できます。コースの概略として、一般内科研修の履修状況に応じて、大学院コース（学位取得コース）、内科研修重点コース、専門研修重点コースの中から選択します。専門医所得に関しては、コースによって若干異なりますが、専門研修がスタートした4年目以降で取得可能となります。

【心療内科】

心療内科コースは、全人的医療の実践及びストレスと身体疾患との関係について調査し臨床に生かすことを目標とします。研修方法は、卒後臨床研修後一般内科後期研修、心療内科研修、および大学院での研究期間に分けられます。

Aコースは、内科専門研修を3年間行った後、大学院に正規入学し、呼吸器感染症内科あるいは基礎教室で2年間研究します。その後、呼吸器感染症内科、関連病院で心療内科の臨床研修を行い、心療内科専門医を取得します。Bコースは、内科専門研修を3年間行った後、呼吸器感染症医員として心療内科臨床研修を開始。医員に在職しながら社会人大学院特別選抜で入学、呼吸器感染症内科あるいは基礎教室で2年間研究、続いて呼吸器感染症内科と関連病院で専門研修をし、専門医資格を取得します。Cコースは、呼吸器感染症内科と関連病院で専門研修を行い、その後専門医資格を取得、この間臨床研修の傍ら臨床研究を行います。

■ アピールポイント

- 感染症、腫瘍、アレルギー、変性疾患、呼吸生理など、幅広く様々な疾患について学ぶことが出来ます。
- 基礎研究、臨床研究、translational researchのspecialistが揃っており、興味に応じた研究指導を受けることが出来ます。

■ 特色

【呼吸器・感染症内科】

一人前の呼吸器内科医になるには、画像読影、適切な気管支鏡スキル、非侵襲人工呼吸器を含めた呼吸管理と全身管理、適切な抗菌薬の選択、心理的ケアを含めた肺癌診療、等のすべてを習得することが必要です。臨床の現場では誤嚥性肺炎などは院内のどの病棟でも発症しますし、ICUには一年を通じてほぼいつでも呼吸不全の症例があります。さらに当施設では、腎臓原病内科と病棟を共有しているため、それら各種疾患に関連した肺病変（間質性肺炎、血管炎、日和見感染症など）の症例も多く、多方面の指導を受けることができます。肺癌、閉塞性肺疾患、稀少肺疾患の臨床治験にも積極的に参加しており、最先端の治療の経験もできます。

研究面では、各分野の教官による基礎研究（動物モデルを用いた）、臨床研究が盛んに行われています。主に研究は、大学院コースで研究専任として行われますが、他のコースにおいても、臨床研究の結果から論文作成し、学位を取得することは可能です。また研究施設は当科だけでなく、基礎系教室、他施設への国内留学も随時行っており、本人の希望を考慮しながら選択できます。

現在までに多くの先生が専門医・指導医を取得しており、その状況は下表のとおりです。つまり本コースを選ぶことにより、呼吸器専門医などの専門分野の専門医をスムーズに取得することができます。

【心療内科】

呼吸器内科、感染症内科、心療内科で心身医学の研修を行う特徴は、原則として身体疾患を持つ患者さんを研修対象としていることです。心身医学会の定義にある心身症を中心として研修していますが、外来診療では精神科医や心理療法士の協力も得て、精神的な問題の大きな症例についても研修教育を行っています。具体的な内容について説明します。指導医とともに外来診療を担当しますが、新患は週1～3例で、再来は週10～20例程度を指導医のもと受け持っています。疾患分類では、気管支喘息、過敏性腸症候群、高血圧、神経性食思不振症などの狭義の心身症以外に、感情障害、身体表現性障害や不安障害の症例も紹介され受診しています。治療としては、バイオフィードバック療法、自律訓練法、交流分析などの専門

研修期間 呼吸器・感染症6年 心療内科5年

募集人数 呼吸器・感染症20名 心療内科3名

選考方法 面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 呼吸器感染症内科 教授 菊地 利明

的な治療も行っています。なお、外来終了後の検討会で症例検討や文献抄読を行っています。以上より、心身医学会の認定医や心療内科学会の登録医・専門医として要求されるすべてのケースに対応できるように研修することができます。研究面においては、気管支喘息、COPD、呼吸不全、腎不全、糖尿病、歯科領域の疼痛などを対象とした計量心理学的な研究が行われています。最近では、睡眠・身体疾患の関係を含めた研究も進めています。

指導医からのメッセージ

呼吸器内科は、腫瘍、アレルギー、自己免疫疾患、感染症さらには機能的疾患と非常に多岐に渡る範囲をカバーしなければなりません。大変な分野ではありますが、その分やりがいがあります。また高齢化社会である現代ではもっとも必要とされる分野でもあります。研究においても分子生物・遺伝子解析から疫学調査などバラエティーに富んだ研究テーマが選べます。外来診療が主となる分野もあるため、女性医師などライフプランに合わせた診療を行うことができます。と思います。

連携・関連施設の病院名

【呼吸器・感染症内科】

新発田病院 がんセンター新潟病院 村上総合病院 豊栄病院 柏崎総合医療センター 佐渡総合病院 三条総合病院 あがの市民病院 上越総合病院 長岡中央総合病院 新潟医療センター 済生会三条病院 済生会新潟病院 信楽園病院 新潟市民病院 新潟臨港病院 長岡赤十字病院 木戸病院 立川総合病院 燕労災病院 西新潟中央病院 魚沼基幹病院 県立中央病院 五泉中央病院 十日町病院

【心療内科】

小出病院 十日町病院 松代病院 三条総合病院

研修コース

①基本コース

【呼吸器・感染症内科】

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
Aコース	一般内科研修 大学病院および連携施設			研究専任 大学院 研究進捗状況に応じて専門研修 大学病院および関連病院					呼吸器内科医として活躍 大学病院および関連病院
Bコース	一般内科研修 大学病院および連携施設			呼吸器専門研修 大学病院および連携施設					呼吸器内科医として活躍 大学病院および関連病院
Cコース	一般内科研修 大学病院および連携施設								呼吸器内科医として活躍 大学病院および関連病院

▲ 内科専門医取得可能なタイミング ▲ 呼吸器専門医取得可能なタイミング

【心療内科】

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目以降
Aコース	一般内科研修 大学病院および連携施設			基礎研究/臨床研究 (正規大学院) 呼吸器・感染症内科 基礎教室出向		心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員		心療内科研修 関連病院 (大学院修了・医学博士) 専門医取得	専門医として 活躍
Bコース	一般内科研修 大学病院および連携施設			心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員		基礎研究/臨床研究 (正規大学院) 呼吸器・感染症内科 基礎教室出向		心療内科研修 関連病院 (大学院修了・医学博士) 専門医取得	専門医として 活躍
Cコース	一般内科研修 大学病院および連携施設			一般内科・ 心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員		心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員 関連病院		心療内科研修 関連病院 (大学院修了・医学博士) 専門医取得	論文博士 取得可能

問い合わせ先

担当者 総括医長 大嶋 康義

TEL 025-368-9325

FAX 025-368-9326

E-mail kokyukansen@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/resp/>

消化器内科専門研修コース

■ 研修概要

本コースは、卒後臨床研修を修了した医師を対象とし、消化器の総合的な専門医“総合消化器内科医”を養成するコースを基本としています。総合的に消化器疾患を診るため消化器病・肝臓・消化器内視鏡専門医の取得とともに、がん治療、総合内科、再生医療、肥満症の各専門医の取得を目指し、大学病院及び各学会認定施設において研修を行います。

● 専門研修プログラムの概略

研修プログラムのコンセプト：当研修コースはカリキュラム制のため、卒後3年目以後の内科専門研修と並行することができます。また医学博士の学位取得のため大学院での研究も可能でClinician-Scientistの育成も目指しています。各自の希望に応じ、学問的志向・人生設計に基づいた希望に沿うようバリエーションを持たせたカリキュラムを組んでいます。人が食物摂取して体の恒常性を維持するためには、消化、吸収、代謝の制御が大切で、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、胆道、膵臓が複雑に連動して機能していることを理解する必要があります。

● 研修プログラム前半

専門研修1年目（卒後3年目）は、消化器疾患のみならず他領域の内科診療の経験を積むことも目的として、関連病院施設で臨床研修を行います。卒後4年目は消化器内科医員等として当院における最先端レベルの診断・治療手技を習得します。各々異なる施設で研修を行ってきた同期の医師達が交流を深め得ることは当施設の大きな利点であり、進むべき専門分野を決定できる重要な研修期間でもあります。

● 研修プログラム後半

卒後5～6・7年目で当教室や学内外基礎研究室の大学院生として基礎研究を行い学位を取得した後、臨床検査・治療手技等の研鑽、基礎研究、後進の指導等に従事するコースや、地域病院での診療を早くから希望する個人に適応した研修を行う目的で、大学病院で適宜研修を行いながら、連携病院を中心に臨床研修を行うコースを用意しています。当科では、次世代を担う総合消化器内科医およびClinician-Scientistを育成していきます。

■ 特色

このコースの最大の特色は、消化器病・肝臓・消化器内視鏡・総合内科専門医の取得が可能だけでなく、肥満症、再生医療、がん治療専門医も取得可能であり、臨床・基礎研究による学位取得や海外留学を含めたバリエーションの多い研修コースを個人の希望に合わせて選択できることにあります。

基礎研究は、“難治進行性消化器疾患”や現時点で診断のつかない“Undiagnosed Disease”に対する新規診断・治療法の開発を目指したテーマで、臨床へフィードバックできるよう取り組んでいます。

また、近年の消化器領域の診断法、治療手技は目覚ましく発展しているため、本研修コースにおいては高度かつ最新の専門知識・技術を有するスペシャリスト達が懇切丁寧な指導にあたっています。他大学病院や県外の内視鏡センター施設との交流も盛んです。

研修可能な主な専門的検査・治療

- 上部・下部消化管内視鏡検査
- 内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）
- 内視鏡的筋層切除術（POEM）
- 内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）
- 超音波内視鏡（EUS）、超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診（EUS-FNA）
- カプセル内視鏡
- 腹部エコー
- 腹部血管造影、経カテーテル的動脈化学塞栓術、B-RTO
- エコー下肝生検
- ラジオ波焼灼術（RFA）
- 経皮経肝胆道ドレナージ（PTCD）
- 化学療法
- 細胞・再生療法

研修期間 6年

募集人数 30名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 消化器内科 教授 寺井 崇二

指導医からのメッセージ

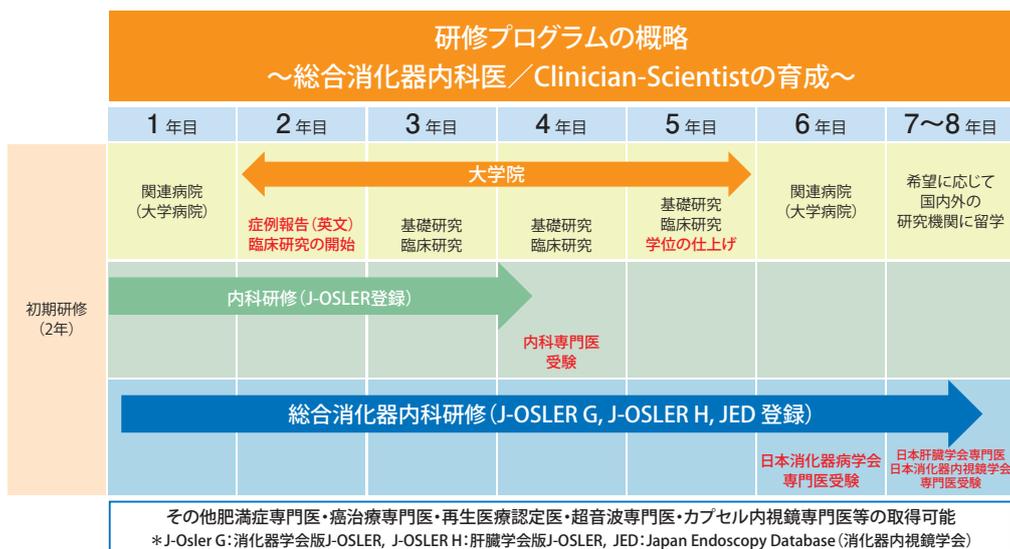
過去20年間の消化器内科分野における医療の進歩は著しく、1989年に見つかったC型肝炎ウイルスは、いまや内服薬だけでほぼ克服できる時代になりました。科学の進歩により、確実に医療が変わってきています。今後はさらに進歩が早くなりますので、柔軟に対応できる能力が必要とされます。さらに消化器内科で扱う疾患は、いわゆるcommon diseaseから難治性疾患まで幅広いため、基本的な診断・治療法の修得のみならず、専門的な知識と経験も必要です。当コースには、消化器病学会専門医21名、消化器内視鏡学会専門医20名、肝臓学会専門医14名を含む医師が専門的指導にあっており、充実した指導体制が構築されています。また入院患者数は年間1,000例前後あり、豊富な診療経験を積むことができます。次世代の優れた医師を育成したいと考えていますので、興味のある方、待っています！

連携施設の病院名

燕労災病院 県立中央病院 十日町病院 魚沼基幹病院 吉田病院 がんセンター新潟病院 新発田病院 新潟市民病院 長岡赤十字病院 済生会新潟病院 済生会三条病院 上越総合病院 柏崎総合医療センター 長岡中央総合病院 三条総合病院 新潟医療センター 豊栄病院 村上総合病院 佐渡総合病院 立川総合病院 木戸病院 新潟臨港病院 日本歯科大学医科病院 新津医療センター病院 五泉中央病院 竹田総合病院 済生会川口総合病院 あがの市民病院 けいなん総合病院

研修コース

①基本コース



問い合わせ先

担当者 総括医長 水野 研一

TEL 025-227-2207

FAX 025-227-0776

E-mail sunship@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/in3/> <https://mn-career.jp/posts/57/> 【Medical Note Careerの教室紹介】

神経内科専門研修コース

■ 研修概要

私たちが目指すところ

私たちは、General Neurologistを育成するとともに、脳疾患研究を推進し、神経疾患の克服を目指します。

本コースの概要

神経内科は、問診と理学所見が重要で、最も総合的な診察能力を必要とされる内科です。本コースでは、総合内科専門医、神経内科専門医の資格取得を前提とした研修を実践することができます。内科系の総合的な臨床力を養いながら、神経内科専門医研修を行うことができるように配慮しています。

当科は、サブスペシャリティ重点として、初期研修終了直後の3（4）年目に、新潟大学医歯学総合病院（以下本院）で神経内科臨床の基礎を習得します。この間に神経生理検査、病理検査、画像診断学を学びます。4～5年目は、連携施設で神経内科救急を含む神経内科診療の実践的なトレーニングと内科研修を積みみます。初期研修中に回りきれなかった診療科についても、この間にローテーションし、総合内科専門医の資格取得のために必要な経験を積みみます。5～6年目は、再び本院でより専門的な神経内科臨床研修を行います。屋根瓦方式で初期研修医や医学生の教育にも関わることにより、自身の臨床力の質を高めます。

総合内科専門医・神経内科専門医の資格取得後は、個々人の将来目標により様々な選択が可能です。大学院に進学し、神経疾患の基礎的、臨床的な研究を行うこともできますし、引き続き臨床力を高めることもできます。大学院での教育体制が、量、質ともに充実し、実績のある指導者のもとで研修できることも特徴です。

本院神経内科では、15名の日本内科学会指導医および日本神経学会指導医がコースの指導に当たっています。さらに、25を超える連携施設において、神経内科専門医および指導医が熱心に指導に当たっています。

■ アピールポイント

- 神経内科の王道を体得できます
- 神経内科の近未来の治療も経験できます（治験）
- 国内のみならず、海外の教室とも議論できます

■ 特色

私たちの教室は日本で最も伝統のある神経内科の一つです。当教室は、新潟大学脳研究所に所属しますが、本研究所は、臨床神経科学部門（脳神経外科と神経内科）を持つ日本で唯一の研究所で、発足当初より脳神経疾患の克服を目標とした研究を行ってきました。本研究所には多数の臨床資産があり、それを求めて、広く国内外より研究者が集い、共同研究を推進しています。この特色を生かして、脳研究所の各分野との連携により、臨床神経学のみではなく、臨床での“気づき”を最先端の研究手法を駆使して深く掘り下げていくことができます。経験した症例や研究については積極的に国内、国際学会で発表し、国際紙へ論文投稿を行い、多くの医師、研究者との交流の中で臨床・研究の能力を高めていくことを推奨しています。

神経内科で扱う疾患は多様で、膠原病内科、整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、眼科などとの関わりも多くあります。新潟大学は、伝統的に、他の診療科との連携も良く、多角的な視点から総合的な臨床力を鍛えることができます。当教室は、急性期病院から慢性期病院まで数多くの教育病院と連携しています。それらの施設の経験豊かな指導医とともに、私たちは、これからの超高齢社会に求められる、総合性と専門性の調和を保ったGeneral Neurologistの育成に取り組んでいます。また、研究所の臨床神経科学部門として、基礎および臨床面でのリーダーを育てていくことを目標にしています。

研修期間 3年

募集人数 6名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 神経内科 教授 小野寺 理

指導医からのメッセージ

新潟大学神経内科の特色は、神経疾患の患者さんやご家族に長く寄り添えることにあります。数十年にわたり、病気の患者さん、ご家族と関わるができるのは、当教室の歴史と、県内に張り巡らされたネットワークの賜物です。これによって、今まで、様々な難病の原因を解明してきた実績があります。また、病理学教室との連携が深く、神経疾患に関する臨床病理カンファレンスを毎月開催しています。このような恵まれた環境の施設は、多くありません。専攻医は、神経内科の地域医療を支える経験豊かな指導医のもとで、急性期から慢性期、小児から高齢者まで総合的な臨床力を養うことができます。同時に、最先端の知識を得ることができ、研究や留学の体制も充実しています。また、女性医師も働きやすい環境を心がけています。個々人の将来目標やニーズに対応して、柔軟な研修プログラムが可能です。私たちは、臨床面でも、研究面でも、トップクラスの研修プログラムを提供しています。

連携施設の病院名

西新潟中央病院 新潟病院 さいがた医療センター 燕労災病院 三之町病院 県立中央病院 十日町病院 新発田病院 新潟市民病院 がんセンター新潟病院 長岡赤十字病院 済生会新潟病院 上越総合病院 長岡中央総合病院 新潟医療センター 佐渡総合病院 立川総合病院 小千谷さくら病院 木戸病院 信楽園病院 総合リハビリテーションセンター みどり病院 下越病院 新潟白根総合病院 脳神経センター阿賀野病院 秋田赤十字病院 竹田総合病院

研修コース

①基本コース

		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
A コース	初期研修2年間	ジュニアレジデント(本院)	連携施設	内科研修	連携施設 シニアレジデント(本院)	大学院			指導医
B コース		ジュニアレジデント(本院)	内科研修	連携施設 シニアレジデント(本院)	大学院			指導医	
C コース		内科研修	ジュニアレジデント(本院)	連携施設	連携施設 シニアレジデント(本院)	連携施設	大学院		
D コース		ジュニアレジデント(本院)	内科研修	内科研修	連携施設	大学院			指導医
E コース		内科・専門研修 神経内科・専門研修			連携施設	大学院			指導医

▲ 総合内科専門医取得 ▲ 神経内科専門医取得

サブスペシャリティ重点コースとして、3年で総合内科専門医、4年で神経内科専門医取得を目指します。これらは案であり、研修先、コース設定に関して、個別に柔軟に対応していきます。

問い合わせ先

担当者 総括医長 石原 智彦

TEL 025-227-0665

E-mail ishihara@bri.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.bri.niigata-u.ac.jp/~neuroweb/>

腫瘍内科専門研修コース

■ 研修概要

本プログラムは、卒後臨床研修を終了した医師（以下、専科医）を対象として、がん薬物療法に関わる知識および技能を習得し、がん薬物療法専門医の資格を取得することを第一の目的としています。がん薬物療法は、5大がんを中心に固形腫瘍全般に加え、造血器腫瘍の経験も必要となるため、他診療科または他施設で研鑽を積むことを奨励します。

さらに、病院で実施されるカンサーボードに積極的に参加することで、腫瘍全般に関わる知識を深められます。最終的には、専門研修開始後5年をめどに、がん薬物療法専門医資格の取得を目指します。また希望者には、大学院生として悪性腫瘍や分子標的治療薬に関する研究に取り組んでいただき、博士号を取得することができるように構成しています。なお本プログラムの大学院に関わる部分は、2017年度から開始された次世代東北がんプロ養成プランに基づいて実施されます。

■ 特色

腫瘍内科では、臓器別診療の枠を超えたがん薬物療法を実践できる腫瘍内科医を養成します。主として、消化器腫瘍、乳腺・内分泌腫瘍、呼吸器腫瘍、頭頸部腫瘍におけるがん薬物療法を学びますが、希少がんや造血器腫瘍など、その他の腫瘍についても幅広く経験できます。また、分子生物学の学習および研究を通して、進歩が著しい分子標的薬の臨床研究を行っています。本プログラムは東北がんプロフェッショナル養成推進プランの一環として運営するため、多彩な教員陣による講義等を受けることができます。

指導医からのメッセージ

「新潟から世界最良の医療を！」を合言葉に日々頑張っております。洋々たる未来をもった専攻医のお役に立てるようお手伝いいたします。

研修期間 7年

募集人数 2名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 腫瘍内科 教授 西條 康夫

■ 研修コース

①基本コース

		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
A コース	卒後臨床研修	腫瘍内科前期臨床研修 (新大病院)	研究専従(大学院) 主として基礎的研究		腫瘍内科後期研修 (新大病院)		腫瘍内科 (新大病院・関連病院) 海外留学	
		腫瘍内科前期臨床研修 (新大病院・医員)			腫瘍内科後期研修 (関連病院)		腫瘍内科 (新大病院・関連病院) 海外留学	
B コース		腫瘍内科前期臨床研修 (新大病院・医員)			腫瘍内科後期研修 (関連病院)		腫瘍内科 (新大病院・関連病院) 海外留学	

問い合わせ先

担当者 総括医長 森山 雅人

TEL 025-368-9004

FAX 025-368-9005

E-mail oncology@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/onc/>

小児科専門研修プログラム

■ 研修概要

本プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく、幅広く小児科の研修を行います。専攻医は「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて3年間の研修を行い、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となることを目指してもらいます。

■ アピールポイント

- 症例数も指導医も充実しています。
- こどもの医療に携わる素晴らしさを実感できます。
- 各々の夢が実現できるよう最大限します。

■ 特色

①豊富な症例数、②豊富な小児科専門医育成実績（年平均7人以上）、③十分な指導体制に集約できます。各病院と新潟大学小児科の各専門領域（感染症、腎臓、血液・腫瘍、循環器、内分泌代謝、新生児、神経など）の医師との間には、顔が見える距離での緊密な連携が保たれており、‘気になる’症例について、専攻医から各専門領域の医師に直接コンサルテーション（メールや電話）が日常的に行われております。当然、重症例や稀少疾患などの緊急の搬送もスムーズに行われていますので、十分なバックアップの下に患者の診療に取り組むことができます。このような連携は、小児を取り巻く医療提供体制が複雑な都市部では実現しにくいものであり、地方ならではの特筆すべき点です。特に新潟県はその規模が大きく、本プログラムでカバーする医療圏の人口はおよそ250万人（小児人口30万以上）ですので、専攻医数と比較すれば、十分な症例経験を積むことができます。



指導医からのメッセージ

小児科の初期研修で最も重要なのが、確実な問診と身体所見から鑑別診断をあげ、適切な検査を行い、診断し、そして治療につなげる、この1連の思考過程を多くの症例を通じて、繰り返しトレーニングすることです。本プログラムでは、小児科医は、子どもの総合医であることを前提に、上記の思考過程を基本とし、豊富な臨床経験を積むことが可能です。また、若手小児科医のためのBasic Core Lecture（年4回）などを通じ、最新の実践的な小児科診療に役立つ知識の習得が可能です。

■ 連携施設の病院名

県立中央病院 魚沼基幹病院 長岡赤十字病院 長岡中央総合病院 県立新発田病院 新潟市民病院 済生会新潟病院
鶴岡市立荘内病院 佐渡総合病院

研修期間 3年

募集人数 13名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 小児科 教授 齋藤 昭彦

■ 研修コース

①基本コース

研修期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設で小児科一般の研修 (NICUでの研修含む)											
2年目	連携施設または関連施設で小児科一般の研修 (NICUでの研修及び地域医療など) 専門医取得のための論文作成											
3年目	大病院で総合小児科医としての研修6ヶ月 連携施設または関連施設での研修(成育医療研究センターでの救急研修も可)											

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金	土・日
～8:15	受持患者情報の把握、PALSのシミュレーション実習など					
8:15～8:45	モーニング・カンファレンス (学生も交えたインタラクティブな症例検討、抄読会、専門医による講義)					日当直業務 Basic Core Lecture (年4回) など
9:00～12:00	外来治療番・病棟業務。指導医と共に回診し、指導を受ける。					
12:00～13:00	昼食、ランチョンセミナー(不定期開催)					
13:00～17:15	外来治療番・病棟業務。診療班による検討会など			総合回診	病棟業務、 振り返り等	
17:15～	当直業務、自己研鑽(論文執筆、学会発表準備)など					

問い合わせ先

担当者 総括医長 今村 勝

TEL 025-227-2222 **FAX** 025-227-0778

E-mail mimamura@med.niigata-u.ac.jp **ホームページ** <http://www.med.niigata-u.ac.jp/ped/>

皮膚科専門研修プログラム

■ 研修概要

5年間の研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

■ アピールポイント

- 定期的な教育講演など、充実した教育システム。
- 初診および専門外来において皮膚科全般の臨床スキルを獲得することができる。
- 大学院生にはトップジャーナルを目指せる研究の指導を行い、博士取得後は積極的に留学を推奨している。

■ 特色

新潟大学医歯学総合病院皮膚科では、専門外来として、乾癬外来、腫瘍外来、薬疹外来、リンパ腫外来、アトピー外来、皮膚膠原病外来、遺伝性皮膚疾患外来を設けており、外来患者数は1日平均110名、入院患者数は1日平均20名にのぼり、外来および入院患者の診療を通じて豊富な経験を積むことが可能である。また、年間手術件数は600件を超え、皮膚科医として必要な手術手技の習得が可能である。研究面では、皮膚免疫学、遺伝性皮膚疾患学などの研究グループを作り、多様な研究結果を創出している。さらに連携施設では、施設ごとの役割に応じて、急性期疾患や皮膚悪性腫瘍への対応、一般的な皮膚疾患に対する診断・治療スキルを研修期間を通して身につけていくことで、皮膚科医としての総合的な診療能力を培うことができる。

指導医からのメッセージ

皮膚科学は、皮膚に病変がある疾患全てを扱う、病変にもっとも直接的にアプローチし診断治療する総合臨床医学です。

新潟大学皮膚科教室は、皮膚科専門医を目指す研修医に対し、充実したレベルの高い研修医教育を提供できるよう、日々努力しています。皮膚科専門医としての基本姿勢ならびに皮膚科サイエンスを体現して欲しいと考えます。

是非当教室で充実した研修を受け、将来の新潟の医療の、皮膚科学の発展のためにもともに頑張りましょう。

■ 連携施設の病院名

長岡赤十字病院 県立がんセンター新潟病院 魚沼基幹病院 県立新発田病院 済生会新潟病院 新潟医療センター 木戸病院 新潟市民病院

■ 研修コース

①基本コース

卒後臨床研修を修了して皮膚科の専門医を志す医師が、新潟大学医歯学総合病院皮膚科とその関連病院で専門研修を行う。全人的医療を実践するために、診療で遭遇する皮膚疾患およびその病態に適切に対応できる診療能力（態度、技能、知識）

研修期間 5年

募集人数 10名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 皮膚科 教授 阿部 理一郎

を身につけ、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医を取得する。専門研修と生涯教育のために伝統ある日本皮膚科学会新潟地方会があり、学術環境も充実している。関連課題で学位を取得し、臨床応用や皮膚科学の発展への貢献も可能で、さらに海外施設への研究留学も盛んである。皮膚疾患は多彩で、患者数や他科からのコンサルトが非常に多く、皮膚科専門医としての役割は重要である。とくに新潟県下では皮膚科専門医の需要がきわめて大きい。

■ a コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
卒後臨床研修	皮膚科前期研修 皮膚科 [医員]: 1年間	基礎研究または臨床研究 / 基礎研究へ出向あるいは皮膚科: 4年間 (基礎研究へ出向するか否かは本人の意向を考慮する。期間も本人と相談して決定する。) [学位取得・大学院修了] 皮膚科中期研修 / 皮膚科: 1~2年間				皮膚科後期研修 / 関連病院: 1年間 + 皮膚科 [医員]: 1年間 / または関連病院: 2年間 (皮膚科専門医取得) / [指導医として研修医指導]	

■ b コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
卒後臨床研修	皮膚科前期・中期研修 皮膚科 [医員]: 2年間 あるいは皮膚科 [医員]: 1年間 + 関連病院: 1年間		基礎研究または臨床研究 / 基礎研究へ出向あるいは皮膚科: 4年間 (基礎研究へ出向するか否かは本人の意向を考慮する。期間も本人と相談して決定する。) [学位取得・大学院修了]			皮膚科後期研修 / 関連病院: 1年間 / [皮膚科専門医取得] / [指導医として研修医指導]	

■ c コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
卒後臨床研修	皮膚科前期研修 皮膚科 [医員]: 1年間	皮膚科中期研修 関連病院: 1年間	皮膚科後期研修 および臨床研究 皮膚科 [医員]: 2年間 [大学院社会人入学]		皮膚科後期研修および臨床研修 関連病院: 2年間 [学位取得・大学院修了] [皮膚科専門医取得]		皮膚科研修 / 皮膚科 [医員]: 1年間 /[指導医として研修医指導]

■ d コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
卒後臨床研修	皮膚科前期研修 皮膚科 [医員]: 1年間	皮膚科中期研修 関連病院: 1年間	皮膚科後期研修 皮膚科 [医員]: 2年間 あるいは皮膚科 [医員]: 1年間 + 関連病院: 1年間 [皮膚科専門医取得]		皮膚科研修 皮膚科 [医員]: 2年間 あるいは関連病院: 2年間 [指導医として研修医指導]	

■ その他参考情報

専門研修プログラムの概略

皮膚科コースは原則として、皮膚科前期・中期・後期研修、および大学院医歯学総合研究科皮膚科学分野での研究期間に分けられる。

優秀な成績で皮膚科研修を修めた者は、6年目以降に所定の審査・試験を受けて、皮膚科専門医を取得できる。主な研修コースを図に示したが、各自の希望を考慮して、コースの変更も可能である。海外留学を希望する者には、留学の希望を最優先させている。皮膚科後期研修修了後（卒後10年目以降）は、大学病院皮膚科で後輩の指導と研究を行って皮膚科教員を目指す者と、関連病院で皮膚科指導医として研修医や後輩の指導にあたる者に分かれる。この選択は個人の将来構想による。現在、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医の他に、各種専門指導医のサブスペシャリティコースが日本皮膚科学会で検討されている。平成20年度からは、皮膚悪性腫瘍指導専門医、美容皮膚科・レーザー指導専門医の専門医制度が導入された。

問い合わせ先

担当者 総括医長 濱 菜摘

TEL 025-227-2282

FAX 025-227-0783

E-mail dermatol@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.niigata-derma.net/>

精神科専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟大学医歯学総合病院を基幹施設とし、魚沼基幹病院、県立精神医療センターを連携施設とした研修施設群を構成する。専攻医は3年の研修期間内にこれらの施設をローテートしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させる。

■ アピールポイント

- 多数の指導医、関連施設を擁し、専門分野ごとに柔軟な指導が可能
- 本人の希望に応じた研修スケジュールを組むことが可能
- 精神科領域の研究活動は全国でも上位

■ 特色

新潟大学医歯学総合病院の精神科は、大学病院精神科としては規模の大きい64床のベッドを有している。閉鎖病棟、隔離室、観察室も十分なスペースを確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応している。

専攻医は看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法などの治療を柔軟に組み合わせた最善の治療を行っていく。研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけることが可能である。

また、魚沼基幹病院、新潟県立精神医療センターといった新潟県内の主要医療機関に加え、地域密着型の専門性に富んだ単科精神科病院を連携施設として有しており、これらの施設をローテートしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させつつ、専門医取得に臨むことが可能である。児童思春期や認知症、物質関連精神障害の専門医療機関、単科精神科病院と連携しているため、希望に応じてこれらの施設での研修を行うことにより、さらに幅広い知識を習得することが可能である。

指導医からのメッセージ

大学での研修は、うつ病や統合失調症など代表的な精神疾患のみならず、児童・思春期疾患、認知症なども研修することができます。国際診断システムを用いた精神科診断やエビデンスに基づいた薬物療法について一生懸命指導します。

また、精神科診断学、発達障害の病態研究、臨床薬理学研究、分子遺伝学研究などの研究も行っています。興味があればこれらの研究に触れることもできますし、学会に同行することもできます。

臨床、研究活動ともに、上級医と気楽にディスカッションの場をもてる雰囲気です。皆さんと共に勉強できる日を楽しみにしています。

■ 連携施設の病院名

魚沼基幹病院 新潟県立精神医療センター 新潟県立新発田病院 南浜病院 田宮病院 河渡病院 三島病院 佐潟荘

研修期間 3年

募集人数 10名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 精神科 教授 染矢 俊幸

■ 研修コース

①基本コース

■ Aコース

1年目	2年目	3年目
大学	連携施設A群より1施設選択	大学 or 連携施設B群より選択(複数施設可)

■ Bコース

1年目	2年目	3年目
連携施設A群より1施設選択	大学	大学 or 連携施設B群より選択(複数施設可)

■ Cコース

1年目	2年目	3年目
大学	大学 or 連携施設B群より選択(複数施設可)	連携施設A群より1施設選択

連携施設A：魚沼基幹病院、県立精神医療センター

連携施設B：南浜病院、田宮病院、河渡病院、三島病院、佐潟荘

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
8:30~9:00	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
9:00~12:00	外来予診	症例検討会 病棟回診	外来予診	外来予診	外来予診
13:00~17:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	グループ回診 カンファレンス	病棟業務
17:00~18:10		研修医セミナー			

問い合わせ先

担当者 新潟精神科専門医研修プログラム事務局 須貝 拓朗

TEL 025-227-2213 (2214)

E-mail tsugai@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.niigata-dp.org>

外科専門研修プログラム

■ 研修概要

『外科領域のあらゆる分野の知識とスキルを習得した外科専門医を取得するためのプログラム』です。

- 初期研修修了後、専攻医として3年（以上）の専門研修を行います。
- 外科専門医はサブスペシャリティ（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺、内分泌外科等）の専門医取得に必要な基盤となる共通の資格です。

■ 特色

- ① 「Unter einem Dach：1つ屋根の下に」：新潟大学外科教室では、今回の制度が始まる以前から消化器、呼吸循環、小児外科領域について連携を取って研修を行ってきた実績があります。各領域における障壁のないスムーズな研修が行えます。
- ② 大学院（PhD）コース：専門医研修と併行して学位の取得が可能。卒業5年目の時点で『外科学会専門医』受験資格と『博士号』の取得を狙えます。将来の更なるステップアップのための最短コース!!
- ③ 豊富な症例、指導医：数多くの指導医の下、豊富な症例経験を積むことが可能です。若手は助手で我慢！などということはありません。積極的な参加を待ち望んでいます。
- ④ 研修施設を自分で選択することができる！：手術数の多いHigh volumeセンターを連携施設としています。各個人の希望に沿った研修プログラムと一緒に考えましょう。いつでも相談にのります。
- ⑤ 新潟医療人育成センター：シミュレーションセンター開設！スキルアップが図れます。
- ⑥ 同世代の研修医・若手医師が多い：同世代の同僚、先輩のアドバイスは心強い味方です。



指導医からのメッセージ

- 手術によって人命を救う外科医療は極めてやりがいのある仕事であると私は信じています。私はもう一度生まれ変わっても外科医になりたいと思っています。我々、外科教室は若者を大切に育てていきます。“気概のある諸君、来たれ、外科教室へ！”
(消化器・一般外科 教授 若井 俊文)
- 「和」を大切に、若い人がのびのびと、そして色々なことにチャレンジできる活気ある教室を目指しています。
(呼吸循環外科 教授 土田 正則)
- 「新潟から世界最良の医療を」を合言葉に日夜頑張っております。洋々たる未来をもった子供たちのお役に立てるのを楽しみにしています。

■ 連携施設の病院名

新潟市民病院 長岡赤十字病院 県立中央病院 秋田厚生医療センター 鶴岡市立荘内病院 県立新発田病院 県立がんセンター 済生会新潟病院 長岡中央総合病院 立川総合病院 魚沼基幹病院 水戸済生会総合病院 十日町病院 上越総合病院 村上総合病院 佐渡総合病院 燕労災病院 柏崎総合医療センター 新潟臨港病院 新潟南病院 秋田大学 山形大学 富山大学 山梨大学 昭和大学北部 琉球大学

研修期間 3年

募集人数 17名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 消化器・一般外科 若井 俊文

■ 研修コース

①基本コース

モデルスケジュール：個別にアレンジ可能です。

■ 大学院（PhD）コース

1年目	2年目	3年目
大学（社会人枠 or 基礎）		S/A
S/A		大学
大学（社会人枠）	S/A	大学

■ 外科全領域コース

1年目	2年目	3年目
大学	A/S	A/S
A	S	大学
大学	A/S	A/S
		大学

■ 領域発展コース

1年目	2年目	3年目
大学	S	A
S	大学	A
		大学

全領域研修

サブスペシャリティ領域など専門研修

* S、A、B/C群から施設を選択

S：500例/年、かつ4領域
新潟市民病院
長岡赤十字病院
県立中央病院

A：500例/年
秋田厚生医療センター
鶴岡市立荘内病院
県立新発田病院
県立がんセンター
済生会新潟病院
長岡中央総合病院
立川総合病院
魚沼基幹病院
水戸済生会総合病院
十日町病院
上越総合病院

B：200～499例/年
C：199例以下/年
村上総合病院 B
佐渡総合病院 B
燕労災病院 B
柏崎総合医療センター B
新潟臨港病院 C
新潟南病院 C

* 研修期間中にBまたはC施設での地域研修（必修）を含む

他大学連携施設：秋田大学、山形大学、富山大学、山梨大学、昭和大学北部、琉球大学

■ スケジュール例

専門研修1年目	基幹施設（新潟大学医歯学総合病院）または連携施設に所属し、研修を開始します。大学院（PhD）コース、外科全領域コース、領域発展コースのいずれにおいても下記の症例を担当してもらうことを目標とします。 ●一般外科／麻酔／救急／病理／消化器／心・血管／呼吸器／小児／乳腺・内分泌 ●経験症例200例以上（術者30例以上）
専門研修2年目	基幹施設（新潟大学医歯学総合病院）または連携施設に所属し、研修を行います。 ●一般外科／麻酔／救急／病理／消化器／心・血管／呼吸器／小児／乳腺・内分泌 ●経験症例350例以上／2年（術者120例以上／2年）
専門研修3年目	不足症例に関して各領域をローテートします。外科専門医達成項目を十分履修した専攻医においては、サブスペシャリティ領域の研修も開始可能です。大学院（PhD）コース履修者は、新潟大学医歯学総合病院で研究をまとめながらの研修も可能です。

問い合わせ先

TEL 消化器・一般外科 025-227-2228
呼吸循環外科 025-227-2243
小児外科 025-227-2258

E-mail 消化器・一般外科 su1admin@med.niigata-u.ac.jp
呼吸循環外科 su2sec@med.niigata-u.ac.jp
小児外科 pedsurg2@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ 消化器・一般外科 <http://www.med.niigata-u.ac.jp/su1/>
呼吸循環外科 <http://www.med.niigata-u.ac.jp/su2/>
小児外科 <http://www.med.niigata-u.ac.jp/psu/psu/Welcome.html>

消化器・一般外科／乳腺・内分泌外科専門研修コース

■ 研修概要

※当コースでは、外科専門医をすでに取得した者を対象として、サブスペシャリティ研修を行います。主に消化器外科学会専門医を目指すコースと乳腺外科専門医を目指すコースを用意しています。

当科の診療範囲は、食道・胃外科、大腸・肛門外科、肝臓・胆道・膵臓外科、移植外科、乳腺・内分泌外科など広範であり、外科全般の知識・技能を修得できることが当コースの強みとなっています。消化器外科領域の中でさらに専門性を高めてもらい、各領域の認定医・専門医・指導医を取得することが可能なコースになっています。内視鏡外科手術に興味がある人は内視鏡外科技術認定医を目指してもらい、消化器内科領域の勉強をしたい人は消化器病学会、消化器内視鏡学会専門医を取得することもできます。乳腺外科専門医を目指す方は、専門的に乳腺疾患に携わるコースも用意しておりますのでご希望があれば相談にのります。国内施設と連携をとり、移植外科医育成プログラムに参加しておりますので移植外科医を志す方にも対応しています。

近年のグローバル社会に対応するには、広い視野を持つことが重要と考えています。国内外を問わず、積極的に研修・留学をすすめています。教室として出来る限りのバックアップ体制をとり金銭面も含めたサポートを行っています。平成28年度はアメリカ（バッファロー、ニューヨーク、ボストン）、イギリス（ロンドン）など国外有名施設への留学・研修をはじめ、国内の施設へも積極的に出向き、研鑽を積み、互いに切磋琢磨しています。

研修中、研修後の大学院進学も可能で、大学院卒業とともに学位が取得できるよう支援体制をつくっています。新潟県内外に連携施設が多数あり、多様性のある研修が行えることも当コースの特徴です。

■ 特色

当コースにおける専門研修の特色は、①手術のレベルが高く、研修の質も高い、②マスターすべき手術手技を概ね定めており、一定レベルの手技習得を保証される、③研修病院が多く、多様な疾患、多数の手術を経験できる、④面倒見のよい先輩医師が揃っており、指導医層が充実している、⑤内視鏡外科学会技術認定医、日本肝胆膵高度技能専門医等の資格取得が可能、⑥臨床研修と併行して研究活動、学位取得が可能であること等です。

指導医からのメッセージ

一律の指導ではなく、個々の将来像にも対応した多様性のあるシステムになるよう常に考えています。「乳腺外科、移植外科に特化して研修したい」など希望がありましたらご相談ください。

手術によって人命を救う外科医療は極めてやりがいのある仕事であると私は信じています。私はもう一度生まれ変わっても外科医になりたいと思っています。我々、外科教室は若者を大切に育てていきます。“気概のある諸君、来たれ、外科教室へ！”

(消化器・一般外科 教授 若井 俊文)

■ 連携施設の病院名

村上総合病院 坂町病院 新発田病院 五泉中央病院 佐渡総合病院 がんセンター新潟病院 新潟市民病院 新潟臨港病院 日本歯科大学医科病院 信楽園病院 済生会新潟病院 新潟白根総合病院 吉田病院 済生会三条病院 三条総合病院 長岡赤十字病院 長岡中央総合病院 立川総合病院 燕労災病院 柏崎総合医療センター 県立中央病院 魚沼基幹病院 あがの市民病院 新潟南病院 新潟医療センター 豊栄病院 加茂病院 魚沼病院 上越総合病院 亀田第一病院 津川病院 新津医療センター病院 柿崎病院 潟東けやき病院 岩室リハビリテーション病院 桑名病院 新潟万代病院 水戸済生会総合病院 秋田厚生医療センター 鶴岡市立荘内病院

研修期間 3-5年

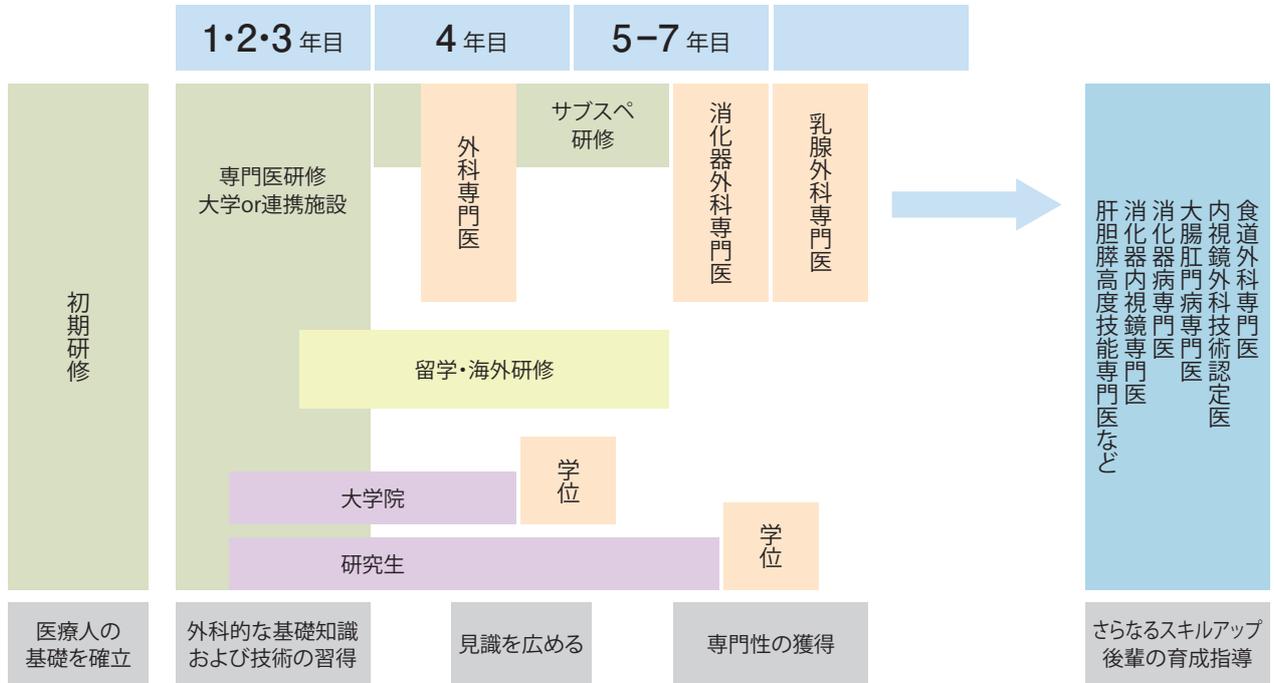
募集人数 15名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 消化器・一般外科 教授 若井 俊文

■ 研修コース

①基本コース



②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前	抄読会		検討会		検討会
	←	病棟	回診	診	→
	外来	手術	外来	手術	外来手術
午後		手術	検査 (透視・内視鏡)	手術	手術
	検討会	手術	がんサーボード	手術 エキスパートパネル	手術
	←	病棟	回診	診	→

問い合わせ先

担当者 総括医長 永橋 昌幸

TEL 025-227-2228

FAX 025-227-0779

E-mail su1admin@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/su1/>

心臓血管外科／呼吸器外科専門研修コース

■ 研修概要

心臓血管外科医を目指す研修医のために「新潟心臓血管外科修練ネットワーク」というコースを用意している。心臓血管外科手術例が多く、かつ、指導体制が整っている県内外の関連病院と大学病院が協力して研修を行うシステムである。専門医認定機構に認定されたプログラムにもとづき、外科専門医研修修了後3年で心臓血管外科専門医を取得できるコースである。ネットワークに属する病院は、新潟大学医歯学総合病院、新潟市民病院、立川総合病院、長岡赤十字病院、新潟県立新発田病院、新潟県立中央病院、水戸済生会総合病院である。成人心臓血管外科コースでは心臓胸部大血管疾患は元より、腹部大動脈から末梢の動脈疾患さらには静脈疾患に至るまで幅広い疾患を対象としている。このコースでは、心臓血管疾患全体に対して系統的で患者本位の対処法を実践できる専門医を養成することに力を入れている。

更に、小児心臓外科に関しては新潟大学医歯学総合病院において新生児の複雑心疾患から非チアノーゼ性先天性心疾患まで修練する。診断から治療戦略の確立、手術、周術期管理までを一貫して小児科と協力しながら修練し、より専門性を高める。

呼吸器外科医を目指す研修医のために「新潟呼吸器外科修練ネットワーク」というコースを用意している。呼吸器外科手術例が多く、かつ、指導体制が整っている県内の関連病院と大学病院が協力して研修を行うシステムである。専門医認定機構のプログラムにもとづき、外科専門医研修修了後3年で呼吸器外科専門医を取得できるコースである。ネットワークに属する病院は新潟大学医歯学総合病院、がんセンター新潟病院、西新潟中央病院、長岡赤十字病院、県立中央病院である。研修内容はプログラム委員会の討議にもとづき修練施設・レベルを設定し、到達度に応じて修練方法内容の修正を施行、更に専門領域での臨床研究能力の養成を心がけている。呼吸器外科の基本的手術に精通し、呼吸器疾患の適切な対応法を身につけることはもちろん、心臓血管外科の研修も行うため、胸部心臓血管外科全体に強い専門医を養成することに力を入れている。

■ アピールポイント

- 消化器外科、小児外科とも密に連携し、外科専門医に必要な手術経験を短期間で効率よく経験し、心臓血管外科/呼吸器外科サブスペシャリティコースに早期に移行することも可能である
- 手術症例が豊富であり、心臓血管外科/呼吸器外科専門医取得に必要な手術を短期間で経験することはもちろん、手術手技を向上する意味でも大きなメリットがある

■ 特色

専門研修は心臓血管外科と呼吸器外科とに分かれて行われる。プログラムにもとづき、外科専門医研修修了後3年で各専門医の到達目標を十二分にクリアできるコースを「新潟心臓血管外科修練ネットワーク」「新潟呼吸器外科修練ネットワーク」として用意している。プログラム委員会の討議にもとづき修練施設・レベルを設定し、到達度に応じて修練方法内容の修正を施行、更に専門領域での臨床研究能力の養成を心がけている。どちらの専門医をめざす場合でも、心臓血管外科・呼吸器外科の基本的手術に精通し、末梢動脈静脈への適切な対応法を身につけることで、胸部心臓血管外科全体に強い専門医を養成することに力を入れている。

心臓血管外科修練プログラム委員は白石修一、岡村竹司、三島健人（新潟大学医歯学総合病院）、青木賢治（新潟市民病院）、山本和男（立川総合病院）、菅原正明（長岡赤十字病院）、島田晃治（県立新発田病院）、名村理（県立中央病院）、倉岡節夫（水戸済生会総合病院）で構成されている。

呼吸器外科修練プログラム委員は土田正則、小池輝元（新潟大学医歯学総合病院）、青木正（県立がんセンター新潟病院）、渡辺健寛（西新潟中央病院）、篠原博彦（長岡赤十字病院）、斉藤正幸（県立中央病院）で構成されている。

研修期間 3年

募集人数 心臓血管外科 5名 呼吸器外科 5名

選考方法 面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 心臓血管外科・呼吸器外科 教授 土田 正則

指導医からのメッセージ

成人心臓血管外科ではネットワーク全体で低侵襲手術を推進しています。とくに大学病院では症例が豊富なおうえ、シミュレータの活用など早期かつ短期間に技術を習得できる環境が整備されています。小児心臓外科は高難度手術を次々と成功させ、症例も増加するなど、充実した修練を行える環境にあります。呼吸器外科はどの施設でも手術が多く、短期間で技術を習得できます。大学病院では癌治療、肺移植の研究体制が整備されています。

連携施設の病院名

心臓血管外科：県立中央病院 新発田病院 新潟市民病院 長岡赤十字病院 立川総合病院 水戸済生会総合病院

呼吸器外科：西新潟中央病院 県立中央病院 がんセンター新潟病院 長岡赤十字病院

研修コース

①基本コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
A コース	卒業 臨床研修		外科専門医研修 および胸部外科研修	心臓血管外科または呼吸器外科 専門医研修		
B コース			外科専門医研修	心臓血管外科または呼吸器外科専門医研修		

大学院での研究については個別に相談し専門研修中に実施可能
サブスペシャルティの実績カウントは3年目から可能(専門医機構)

問い合わせ先

担当者 総括医長 岡本 竹司

TEL 025-227-2243 FAX 025-227-0780

E-mail su2sec@med.niigata-u.ac.jp

小児外科専門研修コース

■ 研修概要

外科学会のサブスペシャリティ領域（小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科など）における専門医制度の方針が定まりました。小児外科においては、プログラム制（病院群を定め一定期間の研修で資格を取得できる制度）とカリキュラム制（従来のように期間を定めず必要な臨床カリキュラムの取得を行う制度）の並立ができます。カリキュラム制であっても、小児外科修練開始を宣言し、指導医が修練終了をデータベースに登録された症例はカウントすることができます。従って、小児外科に決めている場合は、卒後研修に小児外科研修を入れると専門医資格の取得が早くなります。卒後研修後の外科研修は3年が望ましいとされていますが、1年終了した段階で小児外科研修開始を宣言することができ、2-2-3制度（卒後研修2年、外科研修2年、サブスペシャリティ3年）を採用しているサブスペシャリティ領域もあります。外科専門医に必要な350例を経験した後にサブスペシャリティ領域に移行してゆくことも考えられています。未だ骨子が定まっただけの状態で今後の詳細は流動的で、メール等で疑問点はお尋ね下さい。

当小児外科では、生後まもない新生児の手術から15歳までの小児手術を行います。新生児外科は、食道閉鎖、十二指腸閉鎖、小腸閉鎖、鎖肛、Hirschsprung病などの消化器疾患から、先天性肺分画症、CGAM、横隔膜ヘルニア、腹壁破裂、臍帯ヘルニアなど呼吸器から体壁に及ぶ広い領域の手術をしています。また、悪性腫瘍として神経芽腫、腎芽腫、肝芽腫、横紋筋肉腫、奇形腫といった小児期独特の腫瘍の治療を小児科、整形外科、脳神経外科、放射線科などの先生方と専門的治療集団を作成し、新潟県内の症例を統一した治療方針で集学的治療を行っています。既に、Niigata Tumor Boardとして40年以上の歴史があります。また、小児外科領域においても内視鏡手術は不可欠で、現在では手術症例の三分の一に内視鏡が用いられ、整容性にも優れた低侵襲手術を心がけています。高頻度磁気刺激を用いた仙骨神経機能調節は、当科のオリジナルなプログラムで、排便機能障害や排尿機能障害に対する非侵襲的治療手技として、優れた効果を上げています。本年より新しい器機も導入され、外来レベルで多くの小児の治療を行っています。

■ 特色

小児外科学会では、年間手術症例100例に対し1名の研修生が適切と考えています。当科では毎年2名の研修が可能で、3年間の研修でカリキュラムを終了することができます。新生児は毎年15~20程度で、鼠径ヘルニア、停留精巣などの他に悪性腫瘍や胸部手術も多く、内視鏡手術も1/3の症例に用いています。3年の研修で主要な疾患を過不足無く経験できます。カリキュラム制のため、大学院進学や海外留学などを研修期間に適宜組み合わせる自由度もあります。

外科研修に必要な症例は術者として120例を含む350例で、大学病院では外科研修が効率よく行えるように消化器・一般外科、胸部呼吸器・血管外科と効率よく連携しています。これも大学研修の大きな利点です。

指導医からのメッセージ

新しい専門医制度の規範に沿って効率よく研修できる制度を構築しています。専門医取得は長い医師生活の一里塚です。教育と研究も早期から開始し、バランスのとれた小児外科医の養成を目指しています。

■ 連携施設の病院名

県立中央病院 長岡赤十字病院 鶴岡市立荘内病院

研修期間 3年

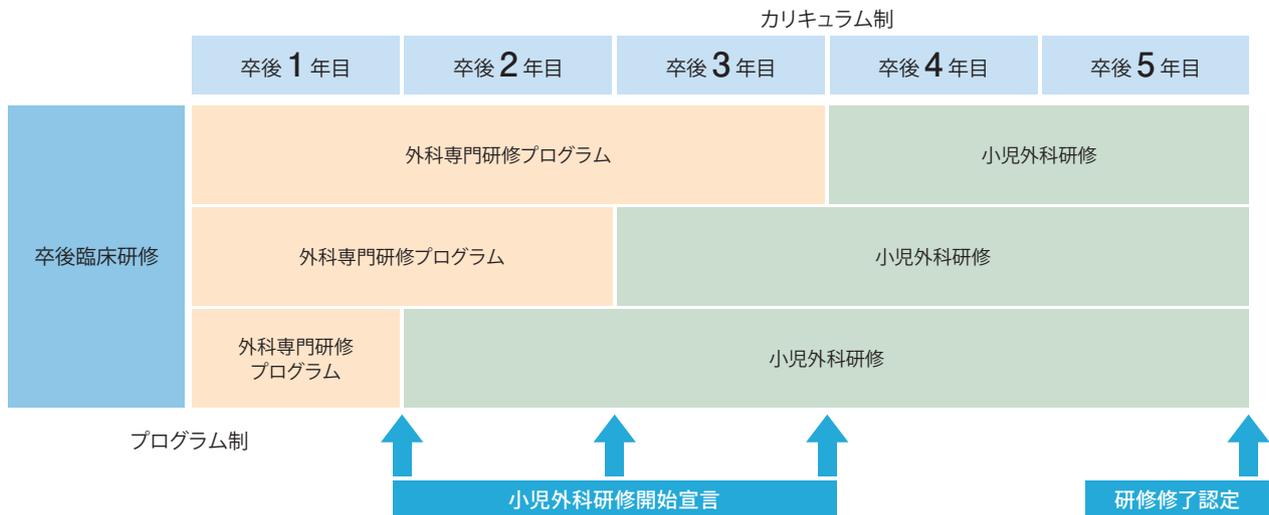
募集人数 3～4名

選考方法 面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 小児外科 教授 木下 義晶

■ 研修コース

①基本コース



*現時点での新専門医制度において、サブスペシャリティに関しては流動的なものであり、内容とは多少異なってくることもあります。

問い合わせ先

担当者 小児外科 総括医長 小林 隆

TEL 025-227-2258 **FAX** 025-227-0781

E-mail kobataka@med.niigata-u.ac.jp **ホームページ** <http://www.med.niigata-u.ac.jp/psu/psu/Welcome.html>

整形外科専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟大学医歯学総合病院は基幹施設として、県内外30の連携施設と共に本研修プログラムを構成します。運動器プロフェッショナルイズムの涵養により、人間性が豊かで全人的な医療と第一線の整形外科医療を実践でき、新潟県内のみならず国内全域や海外への飛躍をする整形外科専門医を育成することを目標としています。

■ アピールポイント

- 執刀医として多数の症例を経験できます。
- 最高の環境で経験豊富な指導医のもとで研修できます。
- あらゆる分野の研修が可能です。

■ 特色

本プログラムの特色は、何と言っても全国有数の臨床経験を積むことが可能な点です。実際、これまで当科にて研修した医師は、多くの連携施設で研修を行うことにより、専門医試験受験までに全員500件以上の執刀経験を積み、初期治療から最先端医療までの幅広い経験を積むことにより、頼もしい整形外科専門医へと成長しています。連携施設は、総合研修病院群、地域中核病院群、高度専門領域病院群、連携指定病院群に分け、大学病院を含む3～5施設での3年9か月の研修を行います。総合研修病院では、救急医療としての外傷に対する研修を中心に、サブスペシャリティに対しても経験豊富な指導医による研修を受けることができます。地域中核病院では、地域医療ならびに外傷に対する研修を幅広く受けることができます。高度専門領域病院では、それぞれ特化したサブスペシャリティに対する専門性の高い研修を受けることができます。全領域を満遍なく研修し、整形外科医としての総合力を身につけることを目的とした、総合領域コースのほか、各専門領域に重点をおいた研修を受けられるようにした専門重点コースや、専門研修終了後の大学院進学などを旨とする研究重点コースなど多彩なプログラムを用意しています。



3D-CTによるTKA術前計画

指導医からのメッセージ

新潟大学整形外科学教室は1917年の開講以来100年を超える歴史ある教室です。県内外に多くの連携施設があり、多彩でかつ非常に多くの臨床症例の経験ができます。さらに多数の経験豊かな指導医のもと、整形外科すべての領域についての高度な研修をまんべんなく受けることができます。東京近郊など都市部の施設に比較すると忙しい勤務状態になりますが、その分豊富な臨床経験を積むことが可能です。みなさんの参加をお待ちしています。

■ 連携施設の病院名

[新潟県内] 新潟市民病院 県立十日町病院 西新潟中央病院 県立中央病院 新潟労災病院 新潟手の外科研究所 魚沼基幹病院 県立がんセンター 長岡赤十字病院 立川総合病院 新潟臨港病院 済生会新潟病院 新潟医療センター 長岡中央総合病院 新潟中央病院 下越病院 県立新発田病院 柏崎総合医療センター 佐渡総合病院 新潟リハビリテーション病院 県立リウマチセンター 中条中央病院

[新潟県外] 聖隷浜松病院（浜松市） 水戸済生会総合病院（水戸市） 鶴岡市立荘内病院（鶴岡市） 会津中央病院（会津若松市） 板橋中央総合病院（東京都） 新東京病院（松戸市） 千葉県こども病院（千葉市） 八尾徳洲会病院（八尾市）

研修期間 3年9か月

募集人数 18名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 整形外科 教授 川島 寛之

■ 研修コース

①基本コース

■ 大学1年コース〔総合領域コース〕

1年目	2年目	3年目	4年目
大学	総合研修病院①	総合研修病院②	地域中核病院

■ 大学半年コース〔専門重点コース〕

1年目	2年目	3年目	4年目
大学	総合研修病院	地域中核病院	高度専門領域病院

■ 大学2年コース〔研究重点コース〕

1年目	2年目	3年目	4年目
大学	総合研修病院	地域中核病院	大学

■ 地域枠医師コース

1年目	2年目	3年目	4年目
総合研修病院①	地域中核病院	総合研修病院②	大学

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
7:30~	術前検討	術後検討 教授回診	術前検討		術後検討 教授回診
9:00~	手術	外来/手術	手術	外来/手術	外来/手術
19:00~	診療班検討会 脊椎・脊髄(第2) 手(第3) 股(毎週) 膝・スポーツ(毎週) RA(不定期)	小児 (不定期)	医局会 抄読会 研究検討会 CPC など	診療班検討会 腫瘍(毎週)	

問い合わせ先

担当者 研修プログラム担当 川島 寛之

TEL 025-227-2272 **FAX** 025-227-0782

E-mail inskawa@med.niigata-u.ac.jp **ホームページ** <http://www.med.niigata-u.ac.jp/ort/>

産科婦人科専門研修プログラム

■ 研修概要

本プログラムでは新潟大学医歯学総合病院産婦人科を基幹施設とし、連携施設とともに研修施設群を形成して専攻医の指導にあたります。大学病院では婦人科悪性腫瘍および合併症妊娠や胎児疾患、産科救急などがメインとなる一方、大学病院では経験する事が少ない性感染症、骨盤臓器脱（性器脱）、避妊指導、モーニングアフターピルの処方と服薬指導などの習熟は連携施設がメインとなります。連携施設には得意とする産婦人科診療内容があり、基幹施設を中心として連携施設をローテートする事で生殖医療、婦人科腫瘍（類腫瘍を含む）、周産期、女性のヘルスケアの4領域を万遍なく研修する事が可能です。産婦人科専攻医の研修の順序、期間等については、個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各施設の状況、地域の医療体制を勘案して、新潟大学産婦人科専門研修プログラム管理委員会にて決定されます。

■ アピールポイント

- 豊富な症例数
- 専門医取得に向けて熱心な指導体制でバックアップ
- 多岐にわたるサブスペシャリティ

■ 特色

新潟大学医歯学総合病院産婦人科のセールスポイントは、1) 周産期医療と婦人科がん診療においては国立大学では全国トップクラスの症例の豊富さ、2) 手術など技術の指導に熱心な指導体制、3) エビデンスを作るための臨床試験や治験への参加が多く、自然にEBMを身につけられる環境、です。後期研修4年目の秋に産婦人科専門医を取得することができ、さらに希望があればサブスペシャリティ（周産期（母体・胎児）専門医、婦人科腫瘍専門医、生殖医療専門医、女性ヘルスケア専門医、臨床遺伝専門医、細胞診専門医、超音波専門医、婦人科内視鏡技術認定医など）取得のための研修に移行可能です。また、大学院進学も積極的に支援しています。

指導医からのメッセージ

新潟大学医歯学総合病院産科婦人科は、年間分娩数が約450件、年間手術件数が産科婦人科併せて約500件であり、胎児疾患例、産褥出血、合併症妊娠、帝王切開術、婦人科悪性・良性腫瘍手術（とくに婦人科腹腔鏡手術）など、大学病院ならではの多彩で幅広い症例・手術を経験することができます。女性の一生涯を通じ、様々な場面で心身の健康を守っていただけるような産婦人科医を目指して研修されることを期待します。

■ 連携施設の病院名

魚沼基幹病院 済生会新潟病院 県立がんセンター新潟病院 新潟市民病院 村上総合病院 県立新発田病院 済生会三条病院 長岡赤十字病院 長岡中央総合病院 立川総合病院 県立中央病院 上越総合病院 佐渡総合病院 鶴岡市立荘内病院 富山赤十字病院 済生会川口総合病院 聖隷浜松病院

研修期間 3年

募集人数 10名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 産科婦人科 教授 榎本 隆之

■ 研修コース

①基本コース

1年目	基幹施設 → 連携施設
	産婦人科基礎：ハイリスク妊娠悪性腫瘍の経験 腹腔鏡助手 生殖医療経験
2年目	連携施設
	基礎から応用へ：ハイリスク妊娠分娩 悪性腫瘍の診断と治療 腹腔鏡助手から術者へ 一般生殖医療の実際
3年目	連携施設
	応用：母体搬送受け入れ ハイリスク妊娠分娩 悪性腫瘍の診断と治療 腹腔鏡手術術者 一般生殖医療の実際

②週間スケジュールの例

		月	火	水	木	金
産科	午前	医局会議	術前検討会		医局検討会 手術	
	午後	病棟 産科NICU 検討会	病棟・外来	病棟 手術	教授回診 手術	病棟
婦人科	午前	医局会議 病棟・手術	術前検討会 病棟・外来	病棟・外来 手術	医局検討会 病棟・外来	病棟 外来
	午後	病棟・手術 婦人科検討会	教授回診	病棟 手術	病棟 手術	病棟

問い合わせ先

担当者 総括医長 安達 聡介

TEL 025-227-2320 **FAX** 025-227-0789

E-mail sadachi@med.niigata-u.ac.jp **ホームページ** <http://obs-niigata.jp>

眼科専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟県（大学基幹）専門研修プログラムは、眼科学の進歩に対応した知識と技術をもつすぐれた眼科医を養成し、さらに生涯にわたる研鑽を積むことによって、国民医療に貢献する眼科専門医の育成を目的とします。本プログラムは新潟大学医歯学総合病院眼科を基幹施設とし、連携8施設と共に研修施設群を形成して専攻医を指導します。連携施設には、地域中核病院であるAグループと、地域医療を担うBグループがあり、それぞれの特徴を活かした眼科研修を行います。そこで研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験していただきます。

■ アピールポイント

- 診断から治療、手術までを一貫して行えます。
- 内科的治療から外科的治療まで広く選択できます。
- 赤ちゃんから、おじいちゃん、おばあちゃんまで診られます。

■ 特色

当プログラムは新潟県における唯一の眼科専門研修プログラムです。そのため県内の症例はすべて当プログラムの対象となり、このことは多様な症例を経験するために非常に有益です。またプログラム全体での手術件数は例年9,000件程度に及び、症例数も十分に確保されていますので、基幹施設および連携施設において到達目標を大きく上回る外来症例、手術件数を経験することができます。研修終了時には基本的疾患の治療に関して独り立ちしていることが可能となるカリキュラムです。

● 1年目

基幹施設の緑内障班、網膜・硝子体班、角膜・感染症班、斜視・弱視班、白内障班、神経眼科班、腫瘍・形成班全ての眼科診療グループにローテーションで配属されます。基幹施設は緑内障チューブシャント手術や角膜移植術といった専門的な疾患を多く担当し、また急性緑内障発作や視神経炎、網膜剥離などの眼科救急疾患に対応できる技術も習得でき、あわせて豚眼を用いた手術実習も行います。

● 2年目以降

基幹施設、もしくは連携施設（Aグループ、Bグループ）のいずれかで研修を行います。Aグループは都市の中核病院で症例数や疾患が豊富であり、特に硝子体手術や外眼部手術などの手技の習得が、Bグループでは特に地域に密着した白内障手術を含めた一般的な眼科医療の研修が可能です。基幹施設を選択すれば、眼科内のより専門領域に特化した研修が可能です。大学院進学も積極的に支援しています。

● 5年目（卒後7年目）

専門医認定試験

★地域枠学生の対応

県費修学生などの地域枠からの医師の受け入れ経験があり、ほぼ同様のプログラムを施行可能です。

指導医からのメッセージ

眼科は局所的な診療科ではありますが、外界からのほとんどの情報の入り口である眼を守るという非常に重要な医療を担います。診療班は細分化されており、眼科内においてもいろいろな疾患を経験することができます。ぜひ眼科のスペシャリストを目指して下さい。



研修期間 4年 募集人数 6名 選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 眼科 教授 福地 健郎

■ 連携施設の病院名

- [A] 新潟市民病院 済生会新潟病院 長岡赤十字病院
 [B] 新潟県立がんセンター新潟病院 長岡中央病院 魚沼基幹病院 佐渡総合病院 新潟南病院

■ 研修コース

①基本コース

■ 例1

1年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
2年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
3年目	Aグループにて研修
4年目	Bグループにて研修
5年目	Bグループの病院にて勤務 専門医認定試験受験 ◎認定

■ 例2

1年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
2年目	Aグループにて研修
3年目	Bグループにて研修
4年目	Aグループにて研修
5年目	新潟大学医歯学総合病院にて勤務 専門医認定試験受験 ◎認定

■ 例3

1年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
2年目	Aグループにて研修、並行して 新潟大学大学院に進学（社会人大学院）
3年目	Bグループにて研修
4年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
5年目	新潟大学医歯学総合病院にて勤務 専門医認定試験受験 ◎認定

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前 (9時～12時)	病棟診察、外来	病棟診察、外来	病棟診察、手術	病棟診察、外来	病棟診察、手術
午後 (13時～17時)	病棟業務、手術	手術、専門外来	手術	病棟業務、専門外来	手術
夜 (18時～)	網膜班回診		全体回診、症例検討会、 リサーチミーティング		

問い合わせ先

担当者 総括医長 桐野 哲哉

TEL 025-227-2296 FAX 025-227-0785

E-mail togacchi@med.niigata-u.ac.jp ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/oph/ophthal.html>

耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門研修プログラム

■ 研修概要

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、視覚以外の感覚、すなわち聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚というQOLに直結した感覚器、そして呼吸、嚥下といった生命にとって重要な器官を対象としています。小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、外科的側面とともに内科的側面も併せ持っています。そのため多くの社会的ニーズがあり、新潟県においても耳鼻咽喉科医師数は適正数には足りていません。本プログラムでは社会が要望するしっかりとした臨床医、耳鼻咽喉科医を育成すること、さらにグローバルな医療の進歩に寄与するために、学会発表や論文作成に関する指導、個人のスキルアップ、キャリアアップを支援し、科学者としての能力を習得することも目標としています。手術支援機器の発展に伴い誰もが安全に高度な手術が行えるようになっており、特に手先の器用さなどは要求されていません。また、当科は体力的に負荷が多い診療ばかりではなく、女性にとって働きやすい診療科です。出産、育児を行いながら医師としてのキャリアを続行できるよう女性医師支援にも力を入れており、実際に多くの女性医師が活躍しています。

■ アピールポイント

- フレンドリーなスタッフによる親切丁寧な指導で、早期から執刀経験が積めます。
- 共働き女性医師への手厚い支援が浸透しています。
- 臨床研究や論文作成指導も充実しています。

■ 特色

新潟大学医歯学総合病院は耳科手術の件数、成績とも全国でもトップクラスです。頭頸部癌に関しては、がん研究会有明病院へ国内留学、研鑽を積んだ頭頸部がん専門医による高度な指導による研修が可能です。その他、全体、各グループの症例検討カンファレンス、夏季解剖セミナーを通して、解剖、手術手技の習得ができます。地域中核病院群は、いずれも複数の医師が在籍する大規模病院であり、多くの症例、手術数があり、救急疾患も豊富です。本プログラムでは、他にはない充実した研修ができると確信しています。

先輩医師からのメッセージ

私は、平成21年に新潟大学を卒業後、臨床研修を経て平成23年に入局しました。学生実習の頃から医局の先生方の明るく指導熱心な雰囲気惹かれ、耳科学領域の手術に興味を持ち、迷わず入局をしてから、かれこれ8年が経ちますが、この科に入って良かったなと日々感じながら、楽しく働いております。子供が2人おり、途中お休みをいただいたり、勤務形態をかえたりする場面もありましたが、キャリアが継続できる体制を医局が快く整えてくれました。一人一人を大切にしてくれる、そんな環境で、是非一緒に働いてみませんか？

(新潟大学医歯学総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 八木 千裕)



■ 連携施設の病院名

新潟市民病院 新潟県立がんセンター新潟病院 長岡赤十字病院 立川総合病院 新潟県立中央病院 新潟県立新発田病院 魚沼基幹病院 済生会新潟病院 日本歯科大学新潟病院 JA新潟厚生連小千谷総合病院

研修期間 4年

募集人数 9名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 堀井 新

■ 研修コース

①基本コース

■ 臨床・大学コース

1年目	新潟大学医歯学総合病院
2年目	地域中核病院
3年目	地域中核病院
4年目	新潟大学医歯学総合病院

■耳鼻咽喉科・頭頸部外科の研修コースは主に3つに分かれています。

臨床・大学コースは4年目に大学へ戻るコースで、2年間地域中核病院で一般臨床を学んだ後に再度大学で高度な診療を学べるコースです。

臨床・地域コースは地域中核病院（前ページ連携施設参照）を先行して研修するコースで、一般臨床の診療技術を早く身に付けるのに最適なコースです。地域枠出身者にも対応しています。

途中で別のコースへ変更することも可能です。

大学院進学コースは4年目に大学院1年目を履修するコースで、学位取得を目指すには最短、最適なコースです。

■ 臨床・地域コース

1年目	地域中核病院
2年目	地域中核病院
3年目	新潟大学医歯学総合病院
4年目	新潟大学医歯学総合病院

■ 大学院進学コース

1年目	新潟大学医歯学総合病院
2年目	地域中核病院
3年目	地域中核病院
4年目	新潟大学医歯学総合病院（社会人大学院）

②週間スケジュールの例

■ 大学における週間スケジュール例

	月	火	水	木	金
午前	手術	外来 病棟業務	手術	外来 病棟業務	外来 病棟業務
午後	手術		手術	病棟回診 医局会 抄読会	

問い合わせ先

担当者 准教授 高橋 邦行

TEL 025-227-2306

FAX 025-227-0786

E-mail kuniyuki@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/oto/>

泌尿器科専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟大学泌尿器科専門研修プログラムは基幹施設である新潟大学医歯学総合病院を中心とした診療拠点病院（A群11病院）と、島嶼を含む地域完結型医療を担う地方中核病院（B群9病院）、外来診療を中心とする地域実地医療を実践する協力病院（C群11病院）の3群から構成されます。泌尿器科専門医に必要な知識や技能の習得と同時に、地域医療との連携や他の専門医への紹介・転送の判断も的確に行える能力を身につけることが可能です。学術的涵養を目指す大学院進学コース、より高い臨床実施能力の獲得を目指す臨床修練コース、新潟大学医学部地域医療枠の義務年限を前提とした地域医療枠コースの3つを用意しました。いずれのコースでも、研修期間中に国内・海外学会に積極的に参加し、泌尿器科疾患の最新の知見'cutting edge'に触れてもらいます。

■ アピールポイント

- DaVinci・腹腔鏡手術をはじめとする豊富な症例経験
- 腫瘍・移植・小児・排尿障害・結石治療まですべてをカバー
- 大学院・留学など研究も含めた多彩なキャリアパス

■ 特色

基幹施設である新潟大学では、泌尿器悪性腫瘍に対する拡大手術、腹腔鏡による低侵襲手術、Da Vinciロボット支援前立腺全摘術、分子標的治療、慢性腎不全に対する腎移植、小児泌尿器科疾患に対する尿路形成術などに加え、免疫チェックポイント治療薬等最新の薬剤の開発治験に触れることができ、泌尿器科領域の最先端医療の研修が可能です。

連携施設においても尿路結石症に対する内視鏡手術、前立腺肥大症に対するレーザー前立腺核出術などで国内有数の実績を上げている施設がある一方、多くの施設で地域医療に密着し、幅広く一般泌尿器科疾患を扱うため、泌尿器科専門医として必要な知識・技術をまんべんなく習得することが可能です。



Da Vinciロボット支援前立腺全摘術



脳死献腎移植手術



指導医からのメッセージ

4年間で腫瘍・移植・小児泌尿器科の最先端医療から結石、排尿障害、女性泌尿器科に至るまで泌尿器科学全般をまんべんなく学べます。プログラム全体で年間6,000件超の手術件数は全国でも有数です。国内学会・国際学会、研究会への出席の機会も豊富に用意し、大学院進学、臨床修練、地域医療枠など多彩なプログラムで専門医取得後のさらに未来のキャリアパスを見据えた充実した専門研修が可能です。

研修期間 4年 募集人数 6名 選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科 教授 富田 善彦

■ 連携施設の病院名

県立新発田病院 村上総合病院 県立がんセンター新潟病院 新潟市民病院 新潟医療センター 済生会新潟病院 県立吉田病院 新潟南病院 木戸病院 済生会三条病院 長岡中央総合病院 長岡赤十字病院 立川総合病院 柏崎医療センター 魚沼基幹病院 新潟労災病院 県立中央病院 佐渡総合病院

■ 研修コース

①基本コース

■ 大学院進学コース

	専門研修プログラム						
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
卒後臨床研修	新潟大学病院	連携病院	連携病院	大学病院	大学病院	大学病院	大学病院
				大学院1	大学院2	大学院3	大学院4

■ 臨床修練コース

	専門研修プログラム			
	1年目	2年目	3年目	4年目
卒後臨床研修	新潟大学病院	連携病院	連携病院	大学病院

▲ 専門医取得

▲ 学位取得

■ 地域医療枠コース

	専門研修プログラム					
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
卒後臨床研修	地域医療義務	地域医療義務	大学病院	大学病院	連携病院	連携病院

▲ 専門医取得

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前	手術ビデオ カンファレンス 手術	ジャーナルクラブ 抄読会 教授回診 外来診療	手術	抄読会 病棟回診 外来診療	腎移植 カンファレンス 教授回診 手術
午後	手術	病棟診療 手術 病棟回診 術前検討	手術 がんサーボード	病棟診療 術前術後 症例検討会	手術

問い合わせ先

担当者 准教授 齋藤 和英

TEL 025-227-2289 FAX 025-227-0784

E-mail kazsaito@med.niigata-u.ac.jp ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/uro/index.html>

脳神経外科専門研修プログラム

■ 研修概要

研修プログラムは、その基幹施設である新潟大学医歯学総合病院を中心に、連携施設・関連施設として県内外の28の拠点病院から構成され、プログラム全体での年間手術総数は4,500件を超えます。近隣の県の主要病院も関連病院に含まれ、専門医を取得するまでに脳神経外科疾患に対する幅広い、十分な知識、経験、診療技術を習得することが可能です。

1年目（医師3年目）は新潟大学医歯学総合病院の病棟担当医として、複数の疾患を年間通じて受け持ちながら、神経診断学、神経解剖学、画像診断学、神経病理診断学の基礎を身につけます。特殊な専門領域疾患を経験することで、様々な治療方針の考え方や術前術後の管理法を学びます。

2～4年目（医師4年目～6年目）には関連基幹病院に勤務し、頭部外傷や脳血管障害などの急性疾患を経験し、専門施設での症例経験を含め、第一線の脳神経外科に必須の手術手技を習得します。大学院進学希望者は、3～4年目より入学可能です。



■ アピールポイント

- 県内外の基幹病院で多くの症例を経験しながら専門医への研修が可能です。
- 多くの専門医・技術認定医を取得可能な体制が整っています。
- 臨床技能の取得と基礎研究の両立が可能です。

■ 特色

新潟大学脳研究所脳神経外科学分野は、「我が国の脳神経外科の父」と称される中田瑞穂先生が、日本で最初の脳神経外科独立講座として1953年に開設され、これまで脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、機能外科といった分野の診療・研究において日本をリードしてきました。全国の脳神経外科教室の中でも、脳研究所という神経研究を専門とした基礎医学教室と自由に連携が取れる環境で臨床・研究に当たることができることは大きな特色です。

指導医からのメッセージ

指導医から修練医までハードワークをスローガンに2016年春から脳神経外科の専門性の高い手術に医局スタッフが幅広く対応できるように医局内のシステムを改変し、非常に活気のある医局です。一緒に楽しくハードワークしましょう。

■ 連携施設の病院名

竹田総合病院 富山県立中央病院 長岡赤十字病院 長野赤十字病院 新潟労災病院 山形県立中央病院 新潟市民病院 新潟県立中央病院 新潟脳外科病院 桑名病院 三之町病院 長岡中央総合病院 佐渡総合病院 信楽園病院 燕労災病院 立川総合病院 新潟県立新発田病院 村上総合病院 秋田赤十字病院 西新潟中央病院 魚沼基幹病院

関連施設： 国立循環器病研究センター 県立がんセンター新潟病院 柏崎総合医療センター 北日本脳神経外科病院 諏訪湖畔病院 千曲中央病院 新潟医療センター

研修期間 4年

募集人数 7名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 新潟大学脳研究所脳神経外科 教授 藤井 幸彦

■ 研修コース

①基本コース

■ 専門医取得優先コース

1年目	2年目	3年目	4年目
新潟大学	関連基幹病院	関連基幹病院	関連基幹病院

* 初期研修2年終了後、脳神経外科学会入会4年終了後専門医試験受験可能

* 脳神経外科専門医取得後に、大学院進学可能

■ 大学院優先コース

1年目	2年目	3年目	4年目
新潟大学	関連基幹病院	新潟大学	新潟大学
大学院入学 →			
新潟大学	関連基幹病院	関連基幹病院	新潟大学
大学院入学 →			

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
Morning	週間Meeting 病棟報告 学生紹介 (隔週)	術後報告 1	IVR検討	術後報告 2	
AM	外来/病棟	手術	外来/病棟 (血管内)	手術	手術
PM	(外来)	手術	(外来) 血管内	手術	(手術)
Evening	教授回診 症例検討 術前検討	手術	症例検討 術前検討	手術	病棟総括
After			医局会		

問い合わせ先

担当者 総括医長 岡田 正康

TEL 025-227-0652 FAX 025-227-0892

E-mail masayasu_okd@bri.niigata-u.ac.jp ホームページ <http://neurosurg-bri-niigata.jp>

放射線科専門研修プログラム

■ 研修概要

実臨床における放射線科の役割は、超音波検査、X線撮影やCT、核磁気共鳴検査（MRI）および核医学検査などを利用する画像診断、画像診断を応用した低侵襲性治療（インターベンショナルラジオロジー:IVR）、および放射線を使用して種々の疾患の放射線治療を行うことにあります。

放射線科領域専門制度では、放射線診断専門医または放射線治療専門医の育成の前段階として、放射線診断専門医および放射線治療専門医のいずれにも求められる放射線科全般に及ぶ知識と経験を一定レベル以上に有する「放射線科専門医」を育成することを目的としています。

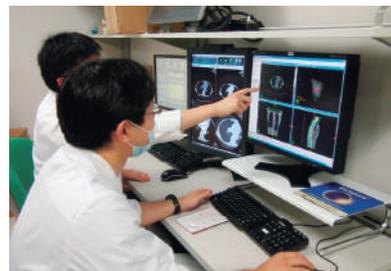
「放射線科専門医」取得後は「放射線診断専門医」または「放射線治療専門医」を目指すことになります（放射線診断専門医、放射線治療専門医は現在学会認定ですが、今後機構認定への移行が予定されています）。本プログラムでは、目標症例数の到達を前提に、希望に応じて早期から方向性を決めて、専門重点コースに移行することも可能です。また、社会人大学院生となり、研修をしながら医学博士を目指すこともできます（臨床業務を行わない場合は研修期間の延長が必要になる見込みです）。

■ アピールポイント

- 研修期間中に偏りのない豊富な症例を経験できます。
- 早期から診療・研究・教育業務を習得することができます。
- 十分な研鑽の上放射線治療・診断を選択することができます。

■ 特色

本プログラムに参加している施設はすべて新潟県内の中核病院であり、研修に必要な機器が整備されています。各施設で指導にあたる放射線科医は全員が新潟大学放射線科での勤務経験があり、施設間の情報交換が円滑に行われています。長年、医学生の実習、放射線科専門医の育成、さらには研究会の開催なども共同で行っており、本プログラムでもそれらの経験を踏まえ十分な体制を整備しました。後輩教育はもちろんのこと生涯に渡る自己教育の気風にあふれた新潟県下の放射線科医一同で皆さんをお迎えいたします。



指導医からのメッセージ

放射線科は放射線治療と放射線診断からなり、その魅力は守備範囲の広さと奥深さ、そして先端技術を駆使した多彩なモダリティにあります。全身に及ぶ解剖や疾患の知識を習得して日進月歩の診療機器・技術についていくのは簡単ではありませんが、チーム医療の要となる画像診断やがん治療のスペシャリストとして、放射線科医に対する期待と需要は、年々高まるばかりです。少しでも興味があれば是非一度見学に来てください。

■ 連携施設の病院名

県立がんセンター新潟病院 新潟市民病院 長岡赤十字病院 長岡中央総合病院 県立新発田病院 県立中央病院

研修期間 3年

募集人数 10名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 放射線診断科 准教授 吉村 宣彦

■ 研修コース

①基本コース

■ 放射線科専門医→放射線治療専門医コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
卒後臨床研修	大学病院医員1年 連携施設1年		大学病院医員または連携施設勤務（放射線治療）			
				放射線科 専門医受験		放射線治療 専門医受験

■ 放射線科専門医→放射線治療専門医+医学博士取得コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
卒後臨床研修	大学病院医員1年 連携施設1年		大学院入学	臨床業務兼任（放射線治療）		医学博士取得
				放射線科 専門医受験		放射線治療 専門医受験

■ 放射線科専門医→放射線診断専門医コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
卒後臨床研修	大学病院医員1年 連携施設1年		大学病院医員または連携施設勤務（放射線診断）			
				放射線科 専門医受験		放射線診断 専門医受験

■ 放射線科専門医→放射線診断専門医+医学博士取得コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
卒後臨床研修	大学病院医員1年 連携施設1年		大学院入学	臨床業務兼任（放射線診断）		医学博士取得
				放射線科 専門医受験		放射線診断 専門医受験

②週間スケジュールの例

■ 週間スケジュールパターン予定（1年目）

		月	火	水	木	金
診断	午前	外来	核医学	MRI	CT	US
	午後	CT 呼吸器疾患 カンファレンス	MRI	CT 診断カンファレンス カンサーボード	連携施設で超音波検査	CT
診断 IVR	午前	外来	連携施設で消化管造影	MRI	US	IVR
	午後	CT 呼吸器疾患カンファレンス	MRI	CT 診断カンファレンス IVR術前カンファレンス カンサーボード	IVR	MRI
診断 IVR	午前	消化管造影	PET検査	MRI	核医学	MRI
	午後	CT 呼吸器疾患カンファレンス	PET検査	CT 診断・IVR術前カンファレンス カンサーボード	IVR	まとめ（指導医）
治療	午前	症例検討会 病棟診察、外来	症例検討会 病棟診察、外来新患	リサーチミーティング 病棟診察、外来新患	症例検討会 病棟診察、外来	症例検討会 病棟診察、外来新患
	午後	放射線治療計画	放射線治療計画	入院患者検討病棟教授回診 カンサーボード	密封小線源治療	放射線治療計画

※放射線治療とIVRは実際にはそれぞれ時期をまとめて研修します。

問い合わせ先

担当者 総括医長 海津 元樹

TEL 025-227-2315 FAX 025-227-0788

E-mail nradio@med.niigata-u.ac.jp ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/rad/>

麻酔科専門研修プログラム

■ 研修概要

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。新潟大学医歯学総合病院麻酔科専門研修プログラムは、新潟市民病院、新潟県立がんセンター新潟病院、新潟県立新発田病院、済生会新潟病院、長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、新潟県立中央病院、魚沼基幹病院から構成される。本プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専門医教育を提供するとともに、3万例近い豊富な麻酔科管理症例のもと、高いレベルの臨床技術と専門知識を提供することができる。

本研修プログラム全体における2019年度合計麻酔科管理症例数：29,554症例

本研修プログラム全体における総指導医数：47人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	1,161
帝王切開術の麻酔	1,042
心臓血管手術の麻酔	888
胸部外科手術の麻酔	1,383
脳神経外科手術の麻酔	730

■ 特色

全国的に見ても症例数が非常に豊富なプログラムであるため、専攻医全員が偏りのない麻酔管理を経験することができる。特に超音波ガイド下神経ブロックおよび中心静脈穿刺、経食道心エコー（成人、小児）、誘発電位測定に関しては、優れた指導医が在籍している。加えて、疼痛学、神経科学に精通した指導医も多く在籍しているため、臨床麻酔を背景にもった基礎研究に早期から触れ、それらの基本的な知識について学習・指導を受ける機会がある。



指導医からのメッセージ

麻酔科というと、とても狭い分野だと思いませんか？しかし麻酔科の仕事には、呼吸・循環生理学、神経科学、疼痛学、薬理学などの幅広い知識と、外科系全科で行われる手術への理解が必要です。つまり「縦糸に横糸を通す」ように、特定の臓器にとらわれることなく、全身管理の基礎を学ぶことができます。新潟大学麻酔科は、皆さんを「一人前の麻酔科医」に育てるべく、厳しくも暖かい指導・教育を施すことをお約束いたします。

■ 連携施設の病院名

県立新発田病院 県立がんセンター新潟病院 済生会新潟病院 新潟市民病院 長岡赤十字病院 長岡中央総合病院 県立中央病院 魚沼基幹病院

研修期間 4年

募集人数 10名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 麻酔科 教授 馬場 洋

■ 研修コース

①基本コース

	A (標準)	B (ペイン)	C (集中治療)
初年度前期	新潟大学	新潟大学	新潟大学
初年度後期	新潟大学 (ペイン含む)	新潟大学 (ペイン含む)	新潟大学 (ペイン含む)
2年度前期	新潟県立中央病院	新潟市民病院 (ペイン重点)	新潟大学 (集中治療)
2年度後期	新潟県立中央病院	新潟市民病院 (ペイン重点)	新潟市民病院
3年度前期	長岡赤十字病院	新発田病院 (ペイン重点)	新潟市民病院
3年度後期	長岡赤十字病院	新発田病院 (ペイン重点)	新発田病院 (集中治療含む)
4年度前期	新潟大学	新潟大学 (ペイン、緩和)	新発田病院 (集中治療含む)
4年度後期	新潟大学	新潟大学 (ペイン、緩和)	新潟大学 (集中治療)

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金	土・日
午前	泌尿器科 手術の麻酔	脳外科 手術の麻酔	整形外科 手術の麻酔	小児外科 手術の麻酔	呼吸器外科 手術の麻酔	休み (術前術後回診、 当直など)
午後				婦人科 手術の麻酔		
当直		残り番		当直		

問い合わせ先

担当者 総括医長 大西 毅

TEL 025-227-2328 **FAX** 025-227-0790

E-mail masui@med.niigata-u.ac.jp **ホームページ** <http://www.med.niigata-u.ac.jp/ane/>

病理専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟大学を基幹施設とする病理専門研修プログラムは、豊富な指導教員・指導医による充実した指導と多臓器の多彩な症例を経験することにより、安定して確実な診断を行える技能を習得できます。一人の専攻医を常に複数の指導医が指導・評価を行うことにより、専攻医の技能習得状況を正確に把握しながら、適切な症例数を偏りのない内容で提供することが可能で、各専攻医を信頼に足る病理専門医に確実に育てます。

■ アピールポイント

- 過去約40年間に診断した症例を保管・管理しており、学習や研究に適した環境が整っています。
- 一般病理診断医が知っておくべき疾患の標本と肉眼写真のライブラリーがあり、診断力の向上の助けになります。

■ 特色

本専門研修プログラムでは、研修専門施設群で年間130例以上の剖検数、80,000件以上の組織診断、2,500件以上の迅速診、100,000以上の細胞診があるため、病理専門医受験に必要な症例数は余裕を持って経験することが可能です。解剖症例に関しては、経験症例数の少ない専攻医に優先的に割り当てており、基幹施設以外にも解剖を経験できる連携病院が多数あり、十分な症例数を用意できます。疾患の内容としても、複数の大学病院や隣県の中核病院と連携し、かつ県内各地域の中核病院など多くの病院と連携することで豊富な症例を経験できる環境が整っています。専攻医の年次や習得状況に応じてこれらの病院の中から適切な環境の病院に派遣することにより、基幹施設である新潟大学では十分に経験できない領域の症例の経験を積むことが可能です。更に、新潟大学の特色の一つとして附属脳研究所がありますが、脳研究所神経病理学分野と密な連携も組んでおり、豊富な脳神経系疾患症例を経験することができます。



研究検討会

指導医からのメッセージ

病理医は、臓器・組織・細胞レベルで患者さんと向き合い、診断・治療に貢献します。他の臨床科と違って全臓器を対象にしており、とてもやり甲斐があります。正常および病的な状態を顕微鏡的に評価しますが、学生時代に顕微鏡が苦手だった方も全然問題ありません。少しでも興味のある方は、末尾の「問合せ先」へ気軽に連絡ください。お待ちしております。

■ 連携施設の病院名

群馬大学医学部附属病院 東京慈恵会医科大学附属病院 新潟市民病院 県立がんセンター新潟病院 長岡赤十字病院 立川総合病院 済生会新潟病院 聖隷浜松病院 県立中央病院 鶴岡市立荘内病院 長岡中央総合病院 新発田病院 魚沼基幹病院 新潟医療センター 新潟労災病院 信楽園病院 燕労災病院 下越病院 あがの市民病院 済生会三条病院 県立吉田病院 五泉中央病院 日本歯科大学医科病院 西新潟中央病院 小千谷総合病院

研修期間 3年

募集人数 4名

選考方法 書類

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 病理部長 味岡 洋一

■ 研修コース

①基本コース

コース		1年目	2年目	3年目
基幹施設主体		新潟大学*		
基幹・連携施設 ローテート	a	新潟大学*		連携施設**
	b	新潟大学*	連携施設**	新潟大学*
	c	新潟大学*	連携施設**	
	d	新潟大学	連携施設	新潟大学
連携施設主体		連携施設**		

- 新潟大学*：週1回の連携施設での研修も可
 - 連携施設**：週1回は新潟大学で研修
 - ローテートd：新潟大学、連携施設それぞれフルタイム
- いずれのコースでも大学院生（社会人大学院生）との重複可

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前	外科切除例肉眼所見会		抄読会・研究検討会・ 病理診断カンファレンス 等		外科切除例肉眼所見会
			外科切除例肉眼所見会		
	病理検体切り出し（ローテーション）				
午後	部検例検討会 肝生検講習会		細胞診カンファレンス	婦人科病理カンファレンス	
	病理一次診断（ローテーション）+指導医による診断検閲				

問い合わせ先

担当者 総括医長 高村 佳緒里

TEL 025-227-2096 **FAX** 025-227-0760

E-mail takamura@med.niigata-u.ac.jp **ホームページ** <http://www.med.niigata-u.ac.jp/pa1/index.html>

臨床検査専門研修プログラム

■ 研修概要

1. 理念と使命

理念：臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療に欠かせないものである。臨床検査全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医である。臨床検査専門医数は全国的に明らかに不足しており、その普及は急務である。当プログラムでは、大学附属病院における（i）高度かつ先進的な医療（ii）学生および後進の教育（iii）研究を通して、幅広く深い知識や技能と偏りが無い人間性・高い倫理観をもって、臨床検査の専門家としてチーム医療に参画することができる人材の育成を理念とする。

使命：理念に基づき、臨床検査に関する卓越した知識や技能をもって、的確な臨床検査が遂行されるように検査室の管理・運営をすること、臨床検査値を適切に判読・解釈することでチーム医療に参画し、病院機能の向上を図る。常に研鑽し自らの臨床検査医としての能力を高め続けることで、臨床検査全体の水準をも高めて、国民の健康・福祉に貢献する。

2. 研修の到達目標と方法

専門研修の3年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と、日本臨床検査医学会が定める「臨床検査専門研修カリキュラム」（日本臨床検査医学会HP参照）に基づいて臨床検査専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、各分野研修修了の終わりに到達度を評価します。

3. 専門研修後の医師像（大学院進学・subspecialty領域への継続等）

- ① 大学病院もしくはそれに相当する病院的検査医：病院検査部の管理と検査判読、コンサルテーション対応に加え、研究や専攻医・医学部学生の教育を実践します。
- ② ①以外の一般病院的検査医：病院検査部の管理と検査判読、コンサルテーション対応を実践します。
- ③ 大手検査センター：全般的な指導や特定の検査判定業務を行ったり、健診業務を実践します。
- ④ 地域医療における内科および臨床検査領域の診療医（かかりつけ医）：稀ですが、OB・OGの中には、内科クリニックを開業し臨床検査医学の知識・経験を生かして、より的確な検査の選択や少ない検査情報からより多くの情報を読み取る検査医の特性を生かした診療を実践している方々がいます。
- ⑤ 臨床検査専門医（基本領域）のsubspecialty領域としては、まだ決定はしていませんが、候補としては超音波専門医、臨床遺伝専門医、人間ドック専門医など推定されています。

4. 臨床検査専門研修プログラムについて

本研修プログラムの基幹施設は順天堂大学医学部附属順天堂医院となっております。研修内容によって、基幹施設または連携施設での研修となります。相談の上、新潟での研修を主としたコースを考慮します。

■ アピールポイント

連携施設となっておりますが、新潟大学での研修を主としたコースも考慮します。

■ 特色

臨床検査専門医になるには、以下7分野（①臨床検査医学総論、②一般臨床検査学・臨床化学、③臨床血液学、④臨床微生物学、⑤臨床免疫学・輸血学、⑥遺伝子関連検査学、⑦臨床生理学）をすべて習得する必要があります。これらを偏りなく習得するために、以下の連携施設と専門研修施設群を形成しています。それぞれ違った特徴をもつ検査部を有する施設で臨床経験を積むことにより、様々な環境に対応できる臨床検査専門医が育成される体制を整えています。

もう一つの大きな特徴としては、臨床検査は入院患者を担当することがない分野である特性上、育児・介護・通院など種々の理由により常勤として勤務が困難な場合でも、週2-3日勤務で、研修期間を3年から5年に延長するなどの対応により研修を行うことが可能です。更に、通常この新専門医制度では2017年度の募集対象者は2015年4月に初期研修を開

研修期間 3年

募集人数 2名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 腎・膠原病内科 教授 成田 一衛

始した研修医ですが、臨床検査領域では、初期研修終了後すぐでなく卒後かなり年数を経た方も対象とすることが認められています。

また、大学院進学も積極的に推奨しており、研修2年目以降からは、研究との臨床検査専門医資格取得が両立できるよう、プログラムを適切に調整できるように個別に対応致します。

■ 連携施設の病院名

基幹施設：順天堂大学医学部附属順天堂医院

連携施設：A：順天堂大学医学部附属浦安病院

B：順天堂大学医学部附属練馬病院

C：順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター病院

D：新潟大学医歯学総合病院

■ 研修コース

①基本コース

臨床検査専門研修基本スケジュール												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹施設 (または新潟大学) (臨床血液学)			基幹施設 (臨床検査医学総論)			基幹施設 (または新潟大学) (臨床微生物学)			基幹施設 (または新潟大学) (救急迅速検査 他)		
2年目	基幹施設 (または新潟大学) (臨床化学)			基幹施設 (または新潟大学) (微生物学)			基幹施設 (または新潟大学) (一般臨床検査学)			基幹施設 (または新潟大学) (臨床生理学)		
3年目	基幹施設 (または新潟大学) (臨床免疫学・輸血学)						基幹施設 (または新潟大学) (遺伝子関連検査学)			予備 (症例不足分野 等)		
必修 プログラム要件	医療安全セミナー、感染対策セミナーの年2回の受講。											
3年間 共通研修	指導医の指導のもとで、 ①臨床検査の報告書を作成する。 ②施設内各種医療職や外部ネットワークからのコンサルテーションに対応する。											
地域医療の経験	種々団体が開催する臨床検査啓発事業に5回/3年以上参加・協力する。											
学術活動	臨床検査医学に関する論文報告(原著、症例報告など)を、筆頭者1編を含む3編/3年以上。											
ローテーションに ついて	各7分野の研修期間は本人の進捗状況により担当指導医と相談し多少前後する可能性があります。 基幹施設(順天堂医院)では1年以上の研修が必須です。 基本的に連携施設はすべて、ある時点の施設あたりの受け入れ専攻医数は1名です。そのため、専攻医が複数の場合は、連携施設での研修時期が重ならないようローテーションを組みます。 大学院やそれ以外で研究を並行して行うのは可能で、原則として2年目以降から研究を開始します。2年目以降のスケジュールは研究に応じて調整します。											
その他	原則3年間で修了するスケジュールですが、様々なライフイベント(妊娠・出産・子育て、介護、病気、他科専門医としての診療など)により常勤での研修が不可能な場合でも、週1-3日の5年間の研修など、個々に対応した研修スケジュールを組むことができます。											

問い合わせ先

担当者 検査部長 成田 一衛

TEL 025-227-2185

FAX 025-227-0774

E-mail naritai@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/department/center01.php>

救急科専門研修プログラム

■ 研修概要

「救急科専門医」は、急病、外傷、中毒など疾病の種類に拘らず、速やかに受け入れて初期診療に当たり、必要に応じて適切な診療科の専門医と連携して、迅速かつ安全に診断と治療を行う基本領域の専門医であり、重症度に加えて緊急度も優先することが特徴です。本研修プログラムは、県内すべての救命救急センターと連携して、3年間の専門研修により、良質で安心な標準的医療を提供できる救急科専門医を多く養成することを目的としています。救急科専門医取得後は、「集中治療専門医」等のサブスペシャリティ領域専門医の研修が可能です。

■ アピールポイント

- 高度救命救急センター（全国41施設のみ）で研修が可能です。
- 県内すべての救命救急センターで研修が可能です。
- ドクターカーやドクターヘリの研修が可能です。

■ 特色

- (1) 日本海側で唯一の高度救命救急センターである当施設、更に、横浜市立大学高度救命救急センター、東京医科大学救命救急センターにおいて高度な救急及び集中治療の研修が可能です。
- (2) ドクターヘリ基地病院（全国53施設）であり、ドクターヘリの研修が可能です（昨年度580出動件数）。
- (3) 県内基幹研修施設である新潟市民病院救命救急センターをはじめ、県内すべての救急救命センターと連携することで、各救命救急センターの特徴を生かした研修が可能です。謂わば、いいところの「オール新潟による救急科専門医養成プログラム」です。
- (4) 新潟医療人育成センターの高度シミュレーターの活用等により、臨床技能のスキルアップが可能です。
- (5) 新潟大学医歯学総合病院を基幹施設とすることにより、病院の臨床研究サポート部門、医学部基礎系講座の連携により、リサーチマインドを持つ専門医養成が可能です。
- (6) 臨床実績のある大学院（社会人入学）であれば、大学院在学中でも専門医研修が可能です。



指導医からのメッセージ

救急医学は“医の原点”であり、今後の超高齢化社会においても必須の領域です。救急医学の守備範囲は、災害医療、被ばく医療などの非日常的な医療に加え、ドクターカーやドクターヘリを用いた病院前医療、救急外来（ER）での初期医療、そして集中治療室での重症患者管理と多岐に渡ります。また、年間に国民20人に1人が要請する救急車での医療の質を担保するメディカルコントロール（MC）も重要な任務となっています。新潟県内には6救命救急センターがありますが、いずれも救急科専門医が不足しています。本プログラムでは、各専攻医の目指すキャリアパスに対応出来るように、県内の全救命救急センターを連携施設とし、オーダーメイドな研修を可能としました。



（新田 正和）

■ 連携施設の病院名

基幹施設連携：横浜市立大学高度救命救急センター 東京医科大学救命救急センター 新潟市民病院救命救急センター
 連携：県立新発田病院救命救急センター 長岡赤十字病院救命救急センター 魚沼基幹病院救命救急センター 県立中央病院救命救急センター 上越総合病院

研修期間 3年

募集人数 4名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 高度救命災害治療センター・集中治療部 副部長 新田 正和

■ 研修コース

①基本コース

■ 基本コース

(1) 救急科領域専門研修カリキュラムに沿って、15領域において、専門知識・技能、経験すべき症例・病態、経験すべき診察・検査、経験すべき手術・処置を研修します。

(2) 具体的には、①～⑥の6基本研修モジュールを基本として、研修期間の3年間で必須116例、選択121例以上の研修を行います(右表を参照)。

(3) 専攻医が選択して、基幹施設で1年間以上、連携施設で3ヶ月～1年の研修を行います。

■ 年次毎の研修計画(例)

年次	基本研修モジュール	研修期間
1年目	①基本的診察能力(コアコンピテンシー)	通年
	②救急外来(ER)における知識と技能	3ヶ月～1年
	③入院患者管理と集中治療における知識と技能	3ヶ月～1年
	④手術・内視鏡検査・IVRにおける知識と技能	3ヶ月～1年
	⑤ドクターカー・ヘリと災害医療における知識と技能	3ヶ月～1年
	救急科領域専門研修カリキュラム(目標:必須25例・選択50例以上の登録)	
2年目	①基本的診察能力(コアコンピテンシー)	通年
	②救急外来(ER)における知識と技能	3ヶ月～1年
	③入院患者管理と集中治療における知識と技能	3ヶ月～1年
	④手術・内視鏡検査・IVRにおける知識と技能	3ヶ月～1年
	⑥他科研修(選択)	3ヶ月
	地域医療・地域連携研修(必須)	最低3ヶ月(3年間)
救急科領域専門研修カリキュラム(目標:必須計50例・選択計100例以上の登録)		
3年目	①基本的診察能力(コアコンピテンシー)	通年
	②救急外来(ER)における知識と技能	3ヶ月～1年
	③入院患者管理と集中治療における知識と技能	3ヶ月～1年
	⑤ドクターカー・ヘリと災害医療における知識と技能	3ヶ月～1年
	救急科領域専門研修カリキュラム(必須計116例・選択計121例以上の登録)	

②週間スケジュールの例

■ 週間スケジュール例(基幹施設)

時間	月	火	水	木	金	土	日	
8時	ER症例・救命救急センター・ICU・病棟患者報告(8:30～9:30)							
9時	救命救急センター・ICU回診(9:30～10:30)					ER症例・救命救急センター・ICU・病棟患者報告(救命救急センター・ICU回診)		
10時	診療 (ER・救命救急センター・ICU・病棟)	診療 (ER・救命救急センター・ICU・病棟)	診療 (ER・救命救急センター・ICU・病棟)	診療 (ER・救命救急センター・ICU・病棟)		診療 (ER・救命救急センター・ICU)		
11時		ハンズオンセミナー		病棟回診	ハンズオンセミナー・レクチャー			
12時					診療 (ER・救命救急センター・ICU)			
13時		診療 (ER・救命救急センター・ICU)		診療 (ER・救命救急センター・ICU・病棟)				
14時		診療 (ER・救命救急センター・ICU)		診療 (ER・救命救急センター・ICU・病棟)				
15時	診療 (ER・救命救急センター・ICU)		診療 (ER・救命救急センター・ICU・病棟)					
16時	診療 (ER・救命救急センター・ICU)		診療 (ER・救命救急センター・ICU・病棟)					
17時	救命救急センター・ICU患者報告(当直医への引継ぎ)(担当者のみ)							
18時	抄読会 症例検討会 (隔週交互)				死亡症例検討会 (1回/月)			
19時								

ハンズオンセミナー・レクチャーは週に2回程度、基本モジュールの内容を中心に実施します。

問い合わせ先

担当者 総括医長 新田 正和(集中治療部 副部長)

TEL 025-227-2338 FAX 025-227-0791

E-mail masakazunitta@gmail.com ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/ecu/>

形成外科専門研修プログラム

■ 研修概要

形成外科学とは、先天性あるいは後天性に生じた変形・組織欠損や機能障害に対して主に外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ患者のQuality of Lifeの向上に貢献する外科系専門分野です。また、再建手術、先天異常、難治性潰瘍等、複数科でのチーム医療に形成外科医が参加する機会も増加しています。本プログラムは医師として必要な基本的診断能力と形成外科領域の専門的能力、社会性、倫理性を備えた形成外科専門医を育成することを目的としています。

■ 特色

県内より多数・多彩な症例が集まる新潟大学医歯学総合病院では複数科での再建外科、マイクロサージャリー、唇裂・口蓋裂、小耳症などの先天異常、手外科、熱傷、様々な外傷等、多彩で豊富な症例を経験することができます。大学病院のみでは件数が不足しがちな皮膚外科や難治性潰瘍、瘢痕・ケロイド、眼瞼下垂等の症例経験は連携施設にて数多く学ぶことができます。新潟大学グループには募集定員に対して多くの指導医が在籍しており、研修期間のうちに形成外科医としての優れた専門的能力を身につけることが可能な充実した指導体制が整っています。皆さんの応募、参加を心よりお待ちしております。



マイクロサージャリーを用いた再建手術

指導医からのメッセージ

形成外科の守備範囲は頭頂から足まで、全身に及びます。あらゆる部位で様々な原因によって失われた組織を再建し、あるべき「かたち」をつくることは患者さんの人生を守り、時に人生を劇的に変えます。また、形成外科医は様々な科との連携を通して医師をも助けることができます。Creativeな仕事ができる科です。当プログラムでは県内唯一の大学病院、そして中核病院にて多彩な症例をバランスよく経験できます。指導医一同、皆様の参加を心よりお待ちしております。

■ 連携施設の病院名

新潟市民病院 新潟中央病院 県立中央病院 長岡赤十字病院 新潟医療センター 県立がんセンター新潟病院 長岡中央総合病院 大阪大学医学部附属病院 大阪労災形成外科 大阪警察病院 大阪急性期・総合医療センター 地域医療機能推進機構大阪病院 大阪みなと中央病院 箕面市立病院 地方独立行政法人りんくう総合医療センター 大阪国際がんセンター 大阪母子医療センター 兵庫県立こども病院

研修期間 4年

募集人数 4名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 形成外科 教授 松田 健

■ 研修コース

①基本コース

研修期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	新潟大学形成外科											
2年目	新潟県立中央病院形成外科											
3年目	長岡赤十字病院形成外科											
4年目	長岡赤十字病院地域医療研修			新潟大学形成外科								

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
	午前・午後	午前・午後	午前・午後	午前・午後	午前・午後
一般外来		○		○	
特殊外来（再建外科）		○		○	
特殊外来（唇顎口蓋裂・小耳症）		○		○	
特殊外来（乳房再建）		○		○	
特殊外来（顎顔面外科）		○		○	
特殊外来（レーザー）		○		○	
特殊外来（リンパ浮腫）		○		○	
手術	○ ○		○ ○		○ ○
病棟回診			○		
医局カンファランス	○			○	

問い合わせ先

担当者 総括医長 曾束 洋平

TEL 025-227-2592 **FAX** 025-227-0795

E-mail sotsu@med.niigata-u.ac.jp **ホームページ** <http://www.med.niigata-u.ac.jp/prs/site/index.html>

リハビリテーション科専門研修プログラム

■ 研修概要

本プログラムは新潟県で唯一のプログラムであり、新潟大学を中心として、新潟県内の研修施設を広く網羅している。1年目は基幹研修施設である新潟大学医歯学総合病院、2年目は回復期リハ科病床で主治医となる研修施設で薬物療法、患者・家人へのインフォームドコンセント等を主体的に行い、3年目は小児疾患、地域医療、神経筋疾患、電気生理学的検査などを各施設で研修する。各施設の勤務は半年から1年を基本としているが、症例の偏りが無いように、専攻医の希望も考慮して決めることができる。

■ アピールポイント

- 多くの関連施設があり、希望にあった研修を受けられる
- 新潟大学のみ関連施設・医師のため、連携が取りやすい
- 新潟市に集中しており、距離的に通しやすい

■ 特色

本プログラムは関連施設がすべて新潟大学関連であり、指導医同士が顔見知りのため、症例が減少している切断等の症例があった場合の連絡を取り合うことで、臨機応変に症例を経験出来る特色を持っている。また、悠遊健康村病院、県立リウマチセンターと南魚沼市民病院以外はすべて、新潟市に位置しており、通いで研修も受けやすいなどの地理的なメリットもある。

指導医からのメッセージ

関連研修施設には、回復期病床をもつリハビリテーション専門病院・総合病院、脊髄損傷・切断・摂食嚥下・小児など専門性の高い研修を行うことができるリハビリテーション専門病院、肢体不自由児施設等が幅広く揃っています。このため研修プログラムの3年間で、大学病院における急性期リハビリテーション、回復期病床における回復期リハビリテーション、専門性のあるリハビリテーション等の研修が3本柱になっています。また関連施設では維持期（生活期）のリハビリテーション、訪問診療などを経験することができます。

■ 連携施設の病院名

〈連携施設〉

下越病院 新潟リハビリテーション病院 悠遊健康村病院 新潟県立リウマチセンター 亀田第一病院 桑名病院

〈関連施設〉

押木内科神経内科医院 国立病院機構西新潟中央病院 南魚沼市民病院

研修期間 3年

募集人数 4名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 リハビリテーション科 木村 慎二

■ 研修コース

①基本コース

研修期間		研修施設
1年目	通年～半年	基幹研修施設 新潟大学医歯学総合病院（急性期疾患一般、小児整形）
2年目	通年	連携施設 下越病院（回復期） 新潟リハビリテーション病院（回復期） 悠遊健康村病院（回復期）
3年目	各施設 3か月～1年	連携施設 下越病院 新潟リハビリテーション病院 悠遊健康村病院 新潟県立リウマチセンター（回復期、リウマチ性疾患） 亀田第一病院（電気生理学的評価等） 桑名病院（回復期、脳卒中） 関連施設 押木内科神経内科医院（訪問診療・リハ、神経難病） 国立病院機構西新潟中央病院（神経小児科） 南魚沼市民病院（一般急性期）

②週間スケジュールの例

基幹施設（新潟大学医歯学総合病院）

		月	火	水	木	金
8:30	整形回診（PT、OTと共に）					
8:35	モーニングカンファ					
	嚥下ミーティング（ST、リハ医、歯科医）					
8:45	新患紹介、ミーティング					
8:50	療法士毎のミーティング					
14:00	ケースカンファレンス					
	呼吸リハリハ外来					
14:30	抄読会					
15:00	神内カンファ					
16:00	ハンドミーティング（3週）					
16:30	呼吸リハミーティング					
16:00	摂食嚥下合同カンファ					

連携施設A（下越病院）

		月	火	水	木	金
8:30	医局朝会					
9:00	病棟回診					
9:00	外来診療					
	入院患者（新患）診察					
10:00	補装具診					
	ボツリヌス治療					
13:00	病棟カンファ					
13:30	VF/VE					
14:00	外来診療					
15:00	リハ栄養カンファ					
15:30	病棟リハカンファ					
16:30	外来リハカンファ					

院内全体で、NST回診、食のサポートチーム会議あり。
関連老人保健施設の回診、嚥下評価、関連通所リハ施設でカンファあり。

問い合わせ先

担当者 病院教授 木村 慎二

TEL 025-227-0308

FAX 025-227-2743

E-mail skimura@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/reh/rehabilitation/>

総合診療専門研修プログラム

■ 研修概要

総合診療専門医は、大学病院を含む地域の総合病院・中核病院や診療所・在宅診療において全人的な医療を行い、かつ、住民・行政・多職種と連携し「地域を診る医師」としても活躍が期待されています。この大きな期待に応えるために、あらゆる場面で活躍できるように、新潟大学医歯学総合病院を中心として、新潟県内の各医療施設と連携して家庭医療専門医を育成するプログラムです。

総合診療専門研修は、総合診療専門研修Ⅰ＋総合診療専門研修Ⅱ、必修研修（内科研修、救急科研修、小児科研修）、選択研修で構成されています。それぞれの研修は各連携施設において研修手帳をもとに行われ、総合診療医に必要なスキル①：医療機関内の研修だけでなく、出向く医療・集める医療、包括ケアの場への参加、地域コミュニティへの参加、行政機関との連携を通して「患者をみる、家族をみる、地域をみる」スキル ②：臓器別によらない入院患者の診療、病院内外からのコンサルトへの対応、初診患者の診療を通して「病院総合診療医（hospitalist）としてのスキル」を磨くことを目標としています。

■ アピールポイント

東京当プログラムはコンダクター施設としてのプログラムのため、基本的には大学病院以外の協力型病院で研修研修を行います。

■ 特色

新潟県という多様な風土・地理関係を実感できるプログラムで、4つのコース－SNOW－があります。

また、どのコースでも総合診療専門研修で求められている「へき地・離島の医療」の経験が少なくとも1年以上可能です。

S : Sado course

内科研修（専攻2年目）を佐渡総合病院で、総合診療専門研修Ⅰ（専攻3年目）を両津病院で行うコースです。

N : Niigata course

自治医科大学卒業、新潟県人卒卒業、新潟県県費就学卒業の専攻医のためのコースです。新潟県から要望された医療機関を考慮して研修を行います。

O : Original course

専攻医自らが研修施設を設定していくコースです。専攻1、2年目に総合診療専門研修Ⅱ、内科研修、小児科研修、救急研修を行い、専攻3年目に総合診療専門研修Ⅰを行います。

W (U+U) : Uonuma course 1 Uonuma course 2

全ての研修を魚沼地域、南魚沼地域で行うコースで、在宅医療から高度救急医療までの全てを地域の繋がりの中で研修することが可能です。

指導医からのメッセージ

総合診療専門医は「general mind」を持ち、患者さんと家族だけでなくコミュニティから地域まで幅広く診ることができるといえる専門医です。新潟県のように高齢化、医師不足、広い地域（離島までである）という特色を持った医療圏では、活躍の場は多種多様で一筋縄ではいきません。だからこそ「プライマリ診療のスキル」と「地域をみる目」、「hospitalistとして病院総合診療医のスキル」を身につけて一緒に新潟県を笑顔にしてみませんか。（できれば、初期臨床研修中に外科研修を経験しておきましょう）

■ 連携施設の病院名

〈総合診療専門研修Ⅰ連携施設〉

あがの市民病院 下越病院 柿崎病院 小出病院 済生会三条病院 坂町病院 津川病院 新潟南病院 松代病院 妙高病院 湯沢町保健医療センター 両津病院

〈総合診療専門研修Ⅱ、小児科研修連携施設〉

糸魚川総合病院 県立中央病院 新発田病院 上越総合病院 十日町病院 長岡赤十字病院 長岡中央総合病院 新潟市民病院

※上越総合病院では小児科研修ができないので別施設で行うことになります。

研修期間 3年

募集人数 2名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 医科総合診療部 准教授 長谷川 隆志

〈内科研修連携施設〉

新潟大学医歯学総合病院 魚沼基幹病院 糸魚川総合病院 佐渡総合病院 十日町病院 長岡中央総合病院 村上総合病院 新発田病院 県立中央病院

※新発田病院、県立中央病院で内科研修を行えるのは自治医科卒の専攻医に限ります。

〈救急科研修〉

新潟大学医歯学総合病院 魚沼基幹病院

■ 研修コース

①基本コース

【ローテーション例 Sado course】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	救急科研修（選択）			総合診療専門研修Ⅱ+小児科研修（選択）								
2年目	内科研修（佐渡総合）											
3年目	総合診療専門Ⅰ研修（両津）											

【ローテーション例 Uonuma course】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科研修（十日町）											
2年目	総合診療専門研修Ⅱ+小児科研修（魚沼基幹）									救急科研修（魚沼基幹）		
3年目	総合診療専門Ⅰ研修（松代/小出/南魚沼/湯沢）											

【ローテーション例 Original course】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	救急科研修（選択）			内科研修（選択）								
2年目	内科研修（選択）			総合診療専門研修Ⅱ+小児科研修（選択）								
3年目	総合診療専門Ⅰ研修（選択）											

■ その他参考情報

■ 専門医取得後の進路

専門医取得後には以下のような進路が考えられ、それぞれの進路に対してのフォローを行います。

- ①新潟大学医歯学総合病院医科総合診療部に在籍し、診療、学生教育、研修医や専攻医研修（指導医資格の取得）を行い、希望により臨床研究を行い学位の取得を目指します。
- ②新潟大学医歯学総合病院総合診療部以外の施設（本プログラム連携施設等）において診療などを行います。
- ③日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医療専門研修プログラム（当院のプログラムあり）に登録し、家庭医療専門医の取得を目指します。

■ 指導医

プログラム群において、総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱについては、新設される総合診療専門研修指導医が指導にあたります。内科研修、救急研修、小児科研修、選択研修についても各科の専門医のもとで研修が行えます

問い合わせ先

担当者 医科総合診療部 助教 馬場 晃弘

TEL 025-227-0718

E-mail ababa.6215@wing.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/mgm>

県立がんセンター 新潟病院



所在地

新潟市中央区川岸町2丁目15番地3

TEL

025-266-5111

ホームページ

<http://www.niigata-cc.jp>

標榜診療科目

内科、脳神経内科、小児科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、婦人科、頭頸部外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科、精神科、リハビリテーション科、緩和ケア科、歯科口腔外科

病床数

421床

医師数

常勤：91人 非常勤：6.7人（2020年2月1日現在）

患者数

入院（R1年度）	年間延べ患者数	122,345人	1日平均患者数	334.3人
外来（R1年度）	年間延べ患者数	247,389人	1日平均患者数	1,030.8人

病院の特徴等

がんの診療と研究に重点をおき、総合的診療機能も完備した病院です。

当院は“一人ひとりを大切にする医療を目指してがんを中心とした高度先進医療を広く県民に提供する”をモットーに、がんの予防・診断・治療、医療者の教育研修、臨床研究を使命とした総合病院併設型地方がんセンターです。新潟県の“がん診療連携拠点病院”の認定を受けており、過去50年間にわたって新潟県および甲信越におけるがん診療の中心的役割を担ってきています。

内科専門研修プログラム

■ 研修概要

本プログラムは、3年の内科専門医研修プログラムであり、

1. 内科分野研修として、臨床腫瘍内科学の基礎となる各分野の腫瘍性疾患の臨床研修を当院の内科3分野で実施する（研修期間：1-1.5年）。
2. 新潟大学医歯学総合病院・魚沼基幹病院において、救急診療、内科各分野診療研修を実施する（研修期間：2. と3. 合わせて1.5-2年）。
3. 新潟県立病院（中・小規模一般病院：県立中央病院、県立津川病院）にて一般内科研修・地域医療・在宅医療研修を実施する。（研修期間：2. と3. 合わせて1.5-2年）。

■ アピールポイント

内科専門医研修3年間終了後の選択としては、

1. 大学病院各分野の医局に入局し、腫瘍内科および各分野の専門医としての臨床技能の向上に努め（5年終了時点で各分野専門医、臨床腫瘍学会専門医の認定試験受験可能となる）、臨床大学院において臨床研究を実施し、博士号取得を目指す。
2. 大学院基礎分野に所属し、基礎研究に従事する。
3. 当院を含めた県立病院での臨床研修を継続する。この場合も社会人大学院に入学し、臨床研究をまとめて論文化し、博士号取得を目指す。

などが想定される。

■ 特色

全国がんセンター協議会加盟病院、地域がん診療拠点病院、日本臨床腫瘍学会認定研修施設である当院での集中研修によって、内科各サブスペシャリティ専門研修および臨床腫瘍学会専門医研修も可能であり、内科的がん診療を極めるに最適なプログラムである。

指導医からのメッセージ

今やがん診療は最も重要な医療分野であり、あまりに進歩した内科各分野サブスペシャリティ専門研修と同時進行での研修が必須です。日本人の死因第一である悪性疾患の早期診断・治療介入、さらには緩和ケア治療の全てを研修可能な本プログラムに多数の若き医師が参加することに期待します。

■ 連携施設の病院名

新潟大学医歯学総合病院 魚沼基幹病院 新潟県立中央病院 新潟県立津川病院

研修期間 3年

2021年度募集人数 2名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟県立がんセンター新潟病院 副院長 田中 洋史

■ 研修コース

①基本コース

卒後	Aコース	Bコース	Cコース
3年目	新潟県立がんセンター新潟病院	新潟大学医歯学総合病院 新潟県立中央病院	魚沼基幹病院
4年目	新潟大学医歯学総合病院	新潟県立がんセンター新潟病院	新潟大学医歯学総合病院 新潟県立中央病院
5年目	魚沼基幹病院 県立津川病院	魚沼基幹病院 新潟県立がんセンター新潟病院	新潟県立がんセンター新潟病院
6年目以降	大学病院医員、大学院での基礎研究、県立病院内科スタッフなど		

②週間スケジュールの例

曜日	時間	8:30	11:50	13:00	16:10
月曜日	回診 患者紹介、病棟研修			病棟研修、血液権者室研修 回診 入院症例カンファレンス	
火曜日	回診 骨髄穿刺検査 病棟研修			入院症例カンファレンス 病棟研修、病理検査室研修	
水曜日	回診 末梢血管細胞採取 無菌室研修			無菌室症例カンファレンス・スタッフミーティング 回診	
木曜日	回診 骨髄骨髄穿刺検査 病棟研修			入院症例カンファレンス 回診	
金曜日	回診 病棟研修 カルテのweekly summary			内科検討会	

問い合わせ先

担当者 副院長 田中 洋史

TEL 025-266-5111 FAX 025-266-5112

E-mail kensyu@niigata-cc.jp

新潟市民病院



所在地

〒950-1197 新潟市中央区鐘木463-7

TEL

025-281-5151

ホームページ

<http://www.hosp.niigata.niigata.jp/>

標榜診療科目

血液内科、内分泌・代謝内科、腎臓・リウマチ科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、小児科、新生児内科、産科、婦人科、救急科、総合診療内科、緩和ケア内科、感染症内科、腫瘍内科、乳腺外科、形成外科、麻酔科、ペインクリニック外科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、脳卒中科、放射線治療科、放射線診断科、リハビリテーション科、病理診断科、歯科口腔外科

病床数

676床

医師数

常勤：146人 非常勤：52.3人（2019年4月1日現在）

患者数

入院（H30年度）	年間延べ患者数	212,256人	1日平均患者数	581.5人
外来（H30年度）	年間延べ患者数	243,414人	1日平均患者数	997.6人

病院の特徴等

昭和48年（1973）10月、信濃川の東側（新潟市紫竹山）の地に市民の期待を受けて「新潟市民病院」として設立された新潟市を開設者とする自治体病院（公立病院）です。

平成19年11月、鳥屋野潟南部に新築移転いたしました。病院の理念は、「患者とともにある全人的医療」をめざすことで、ウイリアム・オスラーの言葉による「医学・医療は患者とともに始まり、患者とともにあり、患者とともに終わる」を基に、その信念を何時も全職員が忘れることなく毎日の業務に携わっています。

アピールポイント

- 救命救急、ならびに循環器病・脳卒中の両センターを併設しており、約20名のセンター所属医師が常勤して、専攻医の指導に当たります。3次救急を含む救急患者の豊富さがあります
- 地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、エイズ治療ブロック拠点病院の指定を受けています
- 医局において、1人1台の電子カルテあり、また、研修に必要な図書室とインターネット環境があります。

施設等の紹介

- 職員図書室
- 職員食堂
- 売店
- 病児保育



内科専門研修プログラム：オスラーと共に学ぶ

■ 研修概要

本プログラムの目指すところは、以下の1)～4)となります。

- 1) 超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、①高い倫理観を持ち、②最新の標準的医療を実践し、③安全な医療を心がけ、④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器専門性に偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 自己研鑽を継続する姿勢、常に最新の情報と技術を求め、標準的な医療を安全に提供できる能力を身に付け、内科専門医の認定を受けた後も市民に最善の医療を提供できる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を行い、地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のために、リサーチマインドを持ち、臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

上記を達成するため、期間3年コース（6名）と4年コース（2名）の2つがあります。3年コースは、新潟県新潟医療圏の中心的な急性期病院である当院を基幹施設として、同じ医療圏の新潟南病院、木戸病院、および新潟大学医歯学総合病院、さらに近隣の下越医療圏の新潟県立坂町病院を連携施設とし、研修期間は基幹施設2年間＋連携施設1年間の3年間となります。

4年コースは、新潟県地域枠専攻医のみを対象とし、前期2年間の研修を連携施設である中越医療圏の厚生連長岡中央総合病院、または上越医療圏の厚生連上越総合病院で行い、後期2年間で当院で行います。

■ アピールポイント

- 3年コースの連携施設研修は2年後半から3年前半（1年間）を2施設で行い、うち1施設でサブスペシャリティ科の並行専攻が可能です。但し、サブスペシャリティ研修は原則3年のうち1年以内とします。
- 4年コースの連携施設（前期2年間）でもサブスペシャリティ科の並行専攻が可能です。但し、サブスペシャリティ研修は原則4年のうち1年以内とします。
- 指導医は選択したサブスペシャリティ科医師が担当するため、内科専門医とサブスペシャリティ科専門医の受験資格を得るまで、アドバイスを受けることができます。

■ 特色

プログラム終了までに、専門医受験資格に必要な登録条件を満たすことを優先します。この内科専攻に並行して、サブスペシャリティ科の専攻も行います（図 参照）。サブスペシャリティ科が決定している専攻医の指導医は、サブスペシャリティ科の医師が担当するため、サブスペシャリティ科を含めた、よりきめ細かい指導が可能となります。内科系サブスペシャリティ学会の多くが3年間以上の指定／関連教育期間の専攻とカリキュラム達成が必要条件になると思われます。3年コースでは、内科専門医試験は6年目、サブスペシャリティ科専門医試験は7年目に、4年コースでは、両方が7年目となります（サブスペシャリティ科専攻は、遅くとも4年目からの開始が必要です）。

指導医からのメッセージ

良いプログラム選択ができたからといって、それは必ずしも目的の成就を導くものではありません。“科学、そして医療するところ”を持ち、いかに情熱を失うことなく行動できるかに依ります。皆さんの可能性は計り知れず、私たちは皆さんの飛躍を大いに期待し、サポートします。

■ 連携施設の病院名

3年コース：新潟南病院 木戸病院 新潟県立坂町病院 新潟大学医歯学総合病院

4年コース：厚生連長岡中央総合病院 厚生連上越総合病院

研修期間 3年コース 4年コース

2021年度募集人数 8名

選考方法 書類・面接・筆記：英語（英和辞書持ち込み可）

プログラム責任者 副院長 五十嵐 修一

■ 研修コース

基本のコース

医師経験年数	1	2	3	4	5	6	7
3年コース	初期研修 初期研修中の症例は80症例まで登録可能		研修認定 内科専門研修 ✓			専門医試験 	
	Subspecialty 研修					Subspecialty 研修	専門医試験

新潟県地域枠対象コース

医師経験年数	1	2	3	4	5	6	7
4年コース	初期研修 初期研修中の症例は80症例まで登録可能		研修認定 内科専門研修 ✓			専門医試験 	専門医試験 
	Subspecialty 研修					Subspecialty 研修	専門医試験

■ 当院におけるサブスペシャリティ学会

日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本循環器学会、日本糖尿病学会、日本腎臓学会、日本呼吸器学会、日本血液学会、日本神経学会、日本リウマチ学会、日本感染症学会、日本消化器内視鏡学会

■ 上記以外の内科に関する施設認定等

日本甲状腺学会、日本高血圧学会、日本輸血・細胞治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本透析医学会、日本脳卒中学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本脳神経血管内治療学会、日本不整脈心電学会

問い合わせ先

担当者 教育研修部長 和栗 暢生

TEL 025-281-5151 FAX 025-281-5187

E-mail kensyu@hosp.niigata.niigata.jp ホームページ <http://www.hosp.niigata.niigata.jp/>

循環器内科専門研修コース

■ 研修概要

日本循環器学会専門医の受験資格には、内科専門医であること、日本循環器学会が指定する教育施設/教育関連施設で3年以上の研修歴とカリキュラム達成が必要です。当院で専攻期間は3年間となります（尚、延長する相当の理由がある場合は、4年間まで認めます）。

本コースでは、国内どこの医療施設に出向しても循環器内科医師として職務が勤まるだけの、広範かつ専門的な知識・技術・態度を身につけることができます。

基本的には学会が定めるカリキュラムに従って研修を積んでもらいます。循環器専門医としてのより高度な知識と技量を身に付ける必要があり、カリキュラムではその検査法・治療法と各疾患の病態・各論に分けて習得すべきレベルが設定されています。実践の最終的判断は、個別評価の後に指導医と科部長の相談で決定します。

■ アピールポイント

- 循環器専門医5名在籍し、指導しています。
- 日本心血管インターベンション学会と日本不整脈学会の認定教育施設であるため、それらの専門医研修が可能です。
- 当院の専攻期間終了後の進路として、新潟大学医学部循環器教室、および県外の循環器専門医療施設への紹介が可能です。

■ 特色

- 入院治療はチーム制で行いますので、先輩医師らのアドバイスを受けられます。
- 緊急心臓救急の対応するために、正規医師と同様に拘束番になりますが、いつでもチーム応援を得ることができます。
- 知識と技術の習得のために、以下のことを行います。
 - ◇ 検討会の参加：回診、循環器内科抄読会、シネカンファレンス、外科合同カンファレンス、心エコー検討会、内科抄読会、CPC
 - ◇ 教育研究活動の参加：学会報告、論文執筆、日本循環器学会・循環器関連学会教育セッション、地域循環器研究会
- 3年目終了後の進路：責任をもって科部長および指導医がアドバイスします。

指導医からのメッセージ

当院の基本方針の一つに、“重症・専門・救急を中心に、質の高い医療をめざします”があり、救急救命・循環器病・脳卒中センターを併設しています。多くの重症心血管病・心臓救急例の経験は、循環器医師としてのあなたのキャリア・アップの基盤となります。

プログラム責任者 循環器内科 高橋 和義

研修コース

①基本コース

1年目

- 循環器内科指導医とともに入院患者の診療にあたり、循環器学の基本的な知識と技術を修得します。
- 救急科および循環器内科医指導医の指導のもと救急外来での救急診療の基本的な知識と技術を修得します。
- 循環器疾患の診断と治療方針を的確に行えるよう、循環器内科指導医のもとに以下のことを行います。

- ① 心電図診断
- ② 心エコー（経胸壁および経食道心エコー：心エコー検討会に参加します）
- ③ ホルター心電図の解析診断
- ④ 心筋シンチグラム
- ⑤ 運動負荷心電図

上記検査を修得するため、外来および入院患者に検査を行います。心電図／心エコー／ホルターと心筋シンチ／運動負荷心電図を6ヶ月間ずつ研修します。

- ⑥ 心臓カテーテル（左心カテーテル、右心カテーテル、冠動脈造影法、心臓電気生理学的検査法）は術者として参加し、穿刺法とカテーテル操作技術を修得をします。そして、シネカンファレンスに参加します。
- 高度医療技術（PCI、PTA、PTMC、PTAV、BPA、高周波焼灼術、ペースメーカー・ICD・CRTD 植え込み術、IABP など）を用いた治療法のトレーニングを受けます。

2年目

1年目の基本的な技術と知識をもとに、チーム制の担当医としての立場で入院の診療を行います。

循環器検査に積極的に参加し、その技術修得とレベルアップに、指導医のもとで努力をしてもらいます。4ヵ月間の救急科または心臓血管外科研修が可能です。

3年目

チーム制の担当医の立場で、入院と救急診療を行い、高度な医療技術のさらなる修得に努めてもらいます。自らの研鑽のみならず、後輩研修医の指導を積極的に行ってもらいます。

②週間スケジュール

曜日	8:30	9:00	13:00	16:30	17:00
月曜日	病棟・循環器センター チーム回診	カテーテル検査、治療	病棟 カテーテル検査、治療	心エコー検討会	
火曜日	病棟・循環器センター チーム回診	カテーテル検査	病棟 心エコー トレッドミル	心血管外科合同検討会 循環器科抄読会	
水曜日	病棟・循環器センター チーム回診	カテーテル検査、治療 デバイス植え込み	病棟	リハビリカンファランス	
木曜日	病棟・循環器センター チーム回診	カテーテル検査、治療	病棟 心エコー	心エコー検討会	
金曜日	病棟・循環器センター 全体回診	カテーテル検査、治療 デバイス植え込み	病棟 カテーテル検査、治療		

脳神経内科専門研修コース

■ 研修概要

【経験疾患群】

内科専攻医としての内科全般の研修とあわせ、脳神経内科の専門医をめざす実践的研修を行います。神経救急から難病診療まで、幅広くカバーでき、疾患領域は神経免疫性疾患、神経変性疾患、神経感染症、てんかん等の機能性疾患、末梢神経筋疾患、その他、脳神経内科全般にわたります。また、当院では脳神経内科医と脳神経外科医が協力して脳卒中科を設立し、専門的で機動力のある診療を行っていますが、脳神経内科専修プログラムのなかで脳卒中科をローテーションします。

【指導体制】

初年度は主に入院患者の主治医、担当医として患者を常時5～10人受持ち、問診、診察・神経局在診断、問題点の整理、病因診断・治療の実践などを学びます。他科入院患者や緊急外来患者のコンサルトにも対応し、実力をアップします。指導医はもとより、若手医師による屋根瓦式のバックアップが可能で、緩やかなグループ主治医性をとっています。2年目以降は、新患・再来の外来業務にも参加していただきます。

【脳神経内科医としてのスキルアップ】

脳神経内科診療に必要な神経救急、神経画像、電気生理、筋病理、高次機能、血管内治療への参加、リハビリについて学ぶ機会があります。当院は新潟市のみならず広く下越医療圏の基幹病院であり、周辺の病院やクリニックとの連携のため様々な研究会を通して情報交換を活発に行い地域医療の一端を担っています。症例を通じ、社会の中での神経学、神経疾患と倫理について、ともに考えます。

【学術活動】

臨床を通して深く学んだことについて、臨床病理検討会や研究会、学会発表や論文投稿を通して神経学の進歩に寄与する機会があります。

■ アピールポイント

- 多彩な神経疾患について高いレベルで診療できる
- 脳卒中科、脳外科等との院内連携、新潟大学脳研究所や他医療機関との協力体制が安定している
- 風通しがよく、自由度の高いカリキュラムをともに作る柔軟性がある

■ 特色

当科は、1973年の当院開設時から脳・神経・筋の専門科として地域の中心的役割を担ってきました。専門的知識に裏打ちされた豊富な実績があります。脳卒中科では、超急性期の脳血管内治療を行う体制が整っており、ダイナミックな医療現場に専攻医も携わることができます。当院には循環器・脳卒中センターがあり、脳卒中だけでなく、脳炎やけいれん重積などの神経救急の重症患者にも対応できるコ・メディカルスタッフがそろっています。また、神経難病診療においても長い実績があり、関連医療機関との密な連携により診断から慢性期までかかわることができます。

新潟という地は、全国屈指の長い歴史を持つ新潟大学脳研究所があることにより、全国から神経研究・臨床に携わる人材が常に集まっています。新潟に所縁のある方もそうでない方も、神経学を通して一人ひとりの医師が自分らしい仕事の在り方を追求しながら力を発揮することのできる地です。新潟大学脳研究所と新潟市民病院脳神経内科は、アカデミアと臨床実践と特性は異なりますが、人や情報の交流が盛んで、この地で学ぶことの恩恵は計り知れません。ここから若い医師の可能性は広がっていきます。

指導医からのメッセージ

当科では総合内科専門医、神経内科専門医としての技量を身に付けていただくことだけでなく、一人ひとりの医師が自分の使命感や興味を深め、充実した医師としての人生を送ることができるよう、最大限に応援します。神経内科専門医としての働き方は多様です。当科としても若い医師の発想を柔軟に取り入れ、成長していきたいと考えています。

■ 連携施設の病院名

新潟大学脳研究所神経内科学教室

プログラム責任者 脳神経内科 佐藤 晶

■ 研修コース

①基本コース

脳卒中科ローテートは半年～1年（要相談）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	脳神経内科 研修（後期トレーニング）									脳卒中科		
2年目	外来診療（1回/週程度）						新潟大学 神経内科					
	脳卒中科											
3年目	関連病院 内科						外来診療（1回/週程度）					
							脳神経内科（後期） トレーニング			症例総括		

①週間スケジュール

2年目以降は外来日（午前）があります。下記の外に、不定期に各種研究会、講演会、CPCなどがあります。

脳神経内科週間予定（2018年現在）

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8時半 新入院紹介・ラウンド				
		隔週 昼 症例検討会		
14:30 病棟ラウンド	15:00 Neuro Radiology Conf	15:00 リハビリ カンファレンス		15:00 チャートラウンド
16:00 スタッフカンファ レンス（1回/月）	下越神経懇話会 （1回/月）	15:30 研修医 チャートラウンド	17:00 勉強会	

脳卒中科週間予定（2018年現在）

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:40 新入院紹介 全体ラウンド		8:40 新入院紹介	8:40 新入院紹介 全体ラウンド	
	15:00 Neuro Radiology Conf			9:30 リハビリラウンド

予定アンギオ、経食道心エコーあり

グループ主治医制であり、グループミーティング、グループ回診を行い情報共有する緊急当番体制、バックアップ体制あり
血栓回収など緊急手術時はなるべく経緯を共有する



腎臓・リウマチ科専門研修コース

■ 研修概要

内科専攻医としての内科全般の研修に加え、腎臓内科、リウマチ膠原病の専門医を目指す実践的な研修を行います。腎臓専門医は、腎臓病の発見から治療、さらにはその予防に関する保健・医療活動を通じて、腎臓病の予防、啓発活動の中心として活躍が期待されており、具体的に取り扱う領域として、1) 慢性腎臓病の診断・治療と腎代替療法への導入 2) 腎代替療法を受けている患者のマネジメント 3) 急性腎障害の治療 4) 高血圧、腎血管疾患の診断・治療 5) 水電解質、酸塩基平衡異常の診断・治療などが挙げられる。本コースでは、地域の基幹病院として紹介される多くの腎疾患、国内どこの医療機関でも腎臓内科医師として職務を遂行できる、専門的な知識、技術を習得することを目標としています。リウマチ専門医は、内科専門医としてかかりつけ医の役割を持つと同時に、リウマチ専門医の知識・技能を生かして、リウマチ性疾患の重症例や救急患者の診療を実践すること、患者の治療、合併症予防を含めた健康管理や生活指導を日常診療として提供すること、リウマチ性疾患を専門としないかかりつけ医と連携して、地域でのリウマチ性疾患の診療の向上に貢献することなどが求められます。数少ないリウマチ指導医の常勤する施設として、近隣より集まる稀少症例、重症症例の診療を行うなど、高いレベルの診療技術を習得できます。

■ アピールポイント

- 総合内科専門医3名、腎臓専門医2名、透析専門医2名、リウマチ専門医1名が在籍し、指導しています。
- 年間100例前後のバスキュラーアクセス関連手術、処置
- リウマチ膠原病疾患に対する、生物学的製剤の導入も積極的に行っています。

■ 特色

- 病院全体の方針に則り、チーム性で入院治療を行っており、先輩医師や指導医のアドバイスを適時受けられます。
- 国立大学法人として唯一の腎研究施設を持つ新潟大学との交流が盛んで、大学腎膠原病内科との合同検討会なども行っており、幅広い知識を習得できます。
- 当院での研修後に、大学腎膠原病内科への入局、新潟大学大学院への進学、県内医療機関での勤務など、科部長、指導医と相談のうえ決定していきます。

指導医からのメッセージ

腎臓は全身を映す鏡といわれています。そのため腎臓内科という分野は、慢性腎臓病だけではなく、膠原病や血管炎、糖尿病、血液疾患など種々の原因による急性腎障害、電解質異常、輸液、栄養管理と非常に幅広い分野を扱っています。また、さまざまな病態に対する体外循環治療（血漿交換、血漿吸着、エンドトキシン吸着など）も担当しています。腎臓の専門分野のみならず内科医としての総合力が問われる科です。ただ、現時点で皆さんが腎疾患・膠原病に関する知識がなくとも心配ありません。一例一例の症例をよく勉強していく中で、少しずつ基本的な知識が身についていきます。当科での研修により、腎疾患、膠原病疾患全般の診断治療を経験でき、長期療養に伴う精神的、社会的、経済的な問題にも触れ、全人的な医療の必要性を感じることができます。皆さんも、私たちと一緒に腎臓の窓から全身をのぞいてみませんか。

研修コース

①基本コース

1年目

- 腎臓内科指導医、リウマチ指導医とともに、入院患者の診療にあたり、腎臓病、リウマチ膠原病内科学の基本的な知識と、技術を修得します。
- 腎臓病、透析症例、リウマチ膠原病症例の診断・治療が適切に行えるよう、下記の検査、治療等の修得を目指します。
 - ① 血液、尿所見の解釈
 - ② 水電解質、酸-塩基平衡の解釈
 - ③ 腎生検を含め糸球体腎炎の診断、鑑別、治療
 - ④ 腎不全の診断、治療
 - ⑤ 腎内分泌機能に関する検査、治療
 - ⑥ ステロイド治療、免疫抑制治療の方法
 - ⑦ 腎保護を目指した降圧療法
 - ⑧ 腎保護を意識した利尿薬の使用法
 - ⑨ 急性血液浄化療法（血液透析、血液吸着、血漿交換、血漿吸着等）
 - ⑩ バスキュラーアクセス設置（中心静脈カテーテル挿入、内シャント設置、人工血管移植術）
 - ⑪ 腹膜透析カテーテル移植術
 - ⑫ リウマチ、膠原病、血管炎疾患患者の診察
 - ⑬ 抗リウマチ薬の使用法
 - ⑭ 生物学的製剤の使用法
 - ⑮ 治療薬に関するリスクマネジメント

2年目

1年目に修得した基本的な知識と技術をもとに、チーム性の主担当医として入院の診療を行います。また、興味深い担当症例について、フォローアップする外来診察も経験します。他科または他院からのコンサルテーション業務にも対応できるように知識を深めていきます。

3年目

チーム性の主担当医の立場で、入院診療を行い、高度な医療技術の修得に努めてもらいます。同時に後輩専攻医の指導にも積極的に携わってもらいます。

②週間スケジュール

時間 曜日	8:30	9:00	11:00	12:30	13:30	16:30
月曜日	病棟チーム回診	透析室業務 → ICU	病棟		二部透析開始	
火曜日	病棟チーム回診	透析室業務 → ICU	病棟総回診		フォローアップ外来 シャント手術など	
水曜日	病棟チーム回診	透析室業務 → ICU	病棟		二部透析開始	
木曜日	病棟チーム回診	透析室業務 → ICU	腎生検		腹膜透析外来 シャントPTAなど	症例カンファレンス、 抄読会
金曜日	病棟チーム回診	透析室業務 → ICU	病棟		シャント手術など	
土曜日 (当番医)		透析室業務 → ICU	病棟			

呼吸器内科専門研修コース

■ 研修概要

当院の臨床では、病棟業務・救急対応は指導医とマンツーマンで行います。患者さんを診て、スタッフと協働することにより、医師として成長することを目指します。また、症例報告から多数例のまとめまで、学会・研究会での発表、投稿を行い、論理的・学術的な考え方を学びます。学会・研究会への参加、治験・臨床研究への対応は積極的に行います。指導医が種々の分野で講義を行い、検討会では症例呈示の方法を学びます。

初期研修医・学生へ指導することで、自らも学びを深めます。

他専門科と協力して、研修期間内に各科の症例を経験できるよう配慮しますが、連携施設の臨床でも内科専門医取得にむけて症例を受け持ちます。

■ アピールポイント

- 指導医とマンツーマンで臨床経験をつみます。
- 学会・研究会へは科内の治験費で参加可能です。
- 休診日は交替で勤務し、月5日以上は完全休日がとれます。

■ 特色

当科には、年間1,000例以上が入院し、そのうち半数程度が緊急入院です。担当患者さんを診るだけで多くの経験をつめますが、余裕があれば、自分チーム担当以外の患者さんについて、画像・経過をフォローすれば臨床経験は格段に広がります。採血検査・画像検査などは救急対応が迅速で、各科への相談の敷居が低いことは特筆すべきところです。初期研修医・学生への指導機会が多いところも特徴的です。

指導医からのメッセージ

3次救急病院ならではの多彩な症例を経験し、200人もの医師と人脈を形成でき、一生役にたつことが多いと思います。大都会でもなく、田舎すぎず、海も山も近く、酒も魚もうまい新潟市で、QOLを維持しつつ皆さんと一緒に働けることを期待しています。

■ 連携施設の病院名

新潟県立坂町病院 木戸病院 新潟南病院 新潟大学医歯学総合病院 厚生連上越総合病院 厚生連長岡中央総合病院

プログラム責任者 呼吸器内科 伊藤 和彦

■ 研修コース

①基本コース

1年目	当院呼吸器内科で初期トレーニングをしながら、他科の症例を適宜主治医団に加わって経験する。
2年目	前半は同上 後半は連携施設1
3年目	前半は連携施設2 後半は当院呼吸器内科で専門研修（後期トレーニング）

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟
午後	気管支鏡	外来/病棟	外来/病棟	気管支鏡	外来/病棟
夕方		多職種会議	検討会	検討会	

消化器内科専門研修コース

■ 研修概要

基本的には内科専門医を取得するための内科全科の研修を行っているが、専門領域（サブスペシャリティ）希望により、消化器内科医として十分な症例数を入院主治医、再来外来、救急対応を通じて経験していただく。ルーチン検査（胃内視鏡・大腸内視鏡・超音波検査）を多数行うことにより基本手技を高水準・確実に身に着ける。消化器内科医に欠かせない緊急手技である内視鏡的消化管止血術、緊急胆道ドレナージ（内視鏡的・経皮的）を身に着ける。その他、高難易度治療である内視鏡的粘膜下層切開剥離術（ESD）、内視鏡的・経皮的胆膵IVR、経カテーテル的血管内治療まで豊富な症例数、経験豊富な指導医の元で経験できる。その中で各種学会発表等も多数行っていただく。

■ アピールポイント

- 癌から救急医療まで幅広く豊富な症例
- 内視鏡検査・治療からIVRまで幅広く高度な手技が多数行える
- 気さくで楽しい消化器内科スタッフ陣（もちろん熱い）

■ 特色

当院は新潟県随一の救急医療を提供する病院であるため、消化器内科への診療依頼は非常に多い。当科は腹部救急診療のプロフェッショナルになるための最短コースともいえる。また各種癌の先端治療手技から化学療法、緩和医療まで多くを学ぶことができることも特徴の一つである。

指導医からのメッセージ

指導医スタッフへ相談しやすい環境（症例ごとに完全バックアップ体制）を用意しています。当科はその充実した診療内容を国内外に多数発信しており、多数の経験を積むことと並行して学会・論文発表をしていただけます。楽しいツアーも含めて、充実の後期研修を保証します。



■ 連携施設の病院名

新潟大学消化器内科 新潟南病院 木戸病院 新潟県立坂町病院

プログラム責任者 消化器内科 和栗 暢生

■ 研修コース

①週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前	大腸内視鏡	超音波	急患対応病棟	上部内視鏡	上部内視鏡
午後	肝生検血管撮影	ERCP関連	血管撮影病棟	外来（再来）病棟	大腸内視鏡
夕方			内視鏡検討会	病棟症例検討会・抄読会	

内分泌・代謝内科専門研修コース

■ 研修概要

新潟市民病院内分泌・代謝内科を研修の基軸に置き、新潟大学医歯学総合病院血液・内分泌代謝内科分野、新潟南病院内科、木戸病院糖尿病・内分泌内科、坂町病院内科など県内4つの連携施設と協力して研修を行います。実践的な医療を修学することによって、全人的な地域医療が行える内科専門医を育成します。

■ アピールポイント

- 多彩かつ豊富な症例を研修できる
- この上なく優しいスタッフと仕事できる
- 生涯の友になるのであろう仲間と出会える

■ 特色

新潟市中核病院として近隣の医療機関のみならず広範囲の医療圏を有し、急性期から慢性期の診療が行えます。糖尿病、甲状腺が診療疾患の8割を占めますが、内分泌・代謝異常についても十分な経験を積むことができます。特に糖尿病診療においては糖尿病医療学の概念に基づいたアプローチでより深く患者と関わりながら治療目的を達成します。甲状腺疾患は診断、内科的治療のみならず、PEITも積極的に取り組んでおりますので多くの手技習得ができます。

指導医からのメッセージ

急性期病院の性質上、急な糖代謝失調、周術期管理、甲状腺クリーゼ、電解質異常の症例が毎日のように新患が来ます。忙しさがある反面、知識、経験、臨床医としてのセンスを磨く機会に恵まれています。ぜひ、ご参加ください

■ 連携施設の病院名

新潟大学医歯学総合病院 新潟南病院 木戸病院 坂町病院

プログラム責任者 内分泌・代謝内科 宗田 聡

研修コース

①基本コース

1年目		2年目		3年目	
初期 専攻科トレーニング	専攻科トレーニング	中期 専攻科トレーニング	連携施設1	連携施設2	後期 専攻科トレーニング
必要な他内科症例担当					他内科症例担当

②週間スケジュールの例

曜日	外来		緊急対応当番	糖尿病教室	甲状腺診療	検討会	その他
	午前	午後					
月		外来	当番制	担当		症例検討	第二月曜日DM チームミーティング
火			当番制	担当	エコー・細胞診	症例検討	
水			当番制	担当	エコー・細胞診	症例検討	
木	外来		当番制	担当	PEIT	耳鼻科合同 検討会	糖友会イベント (不定期)
金		外来	当番制	担当		症例検討	

小児科専門研修プログラム

■ 研修概要

本プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく、幅広く研修します。専攻医は「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて3年間の研修を行い、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となることを目標とします。

■ アピールポイント

- ①豊富な症例数があるため小児科専門医としての十分な経験が積めます。
- ②NICU、救急外来、ICUの規模は大きく、新生児・救急医療・集中治療の研修に適しています。
- ③指導医が多く、熱意をもって指導しています。

■ 特色

当院の小児科は専門性の高いスタッフが多数おり、また救急・重症患者の診療経験が豊富なところに特色があります。小児科専門医の研修をする上では最適な環境にあります。専門領域の多くを新潟市民病院で研修しますが、一部の領域についてはさらに充実した研修が行えるように連携施設での研修を行っています。3年間で専門領域に偏りが無い総合医としての実力が十分つくプログラムとなっています。

指導医からのメッセージ

私達と一緒に新潟市民病院小児科のプログラムで専攻医をスタートしてみませんか？ 当院小児科スタッフが全力でサポートいたします。そして3年後に成長した姿を楽しみにしています。また小児科総合医としては疾患だけではありません。育児や健康も大事なテーマです。そして「こどものことは小児科医に聞け」と言われるくらい私達と一緒にこども漬けになりましょう。

■ 連携施設の病院名

新潟大学医歯学総合病院 新潟県立新発田病院 佐渡総合病院

研修期間 3年

2021年度募集人数 2名

選考方法 書類・面接・その他（筆記）

プログラム責任者 小児科 塚野 真也

■ 研修コース

①基本コース

- 専門研修1年目：新潟市民病院こども病棟で感染性疾患・内分泌代謝疾患・アレルギー疾患・呼吸器疾患・消化器疾患・腎泌尿器疾患・循環器疾患・神経疾患を担当医として研修し、総合周産期母子医療センター新生児部門で新生児疾患・先天異常疾患を研修します。
- 専門研修2年目：新潟大学医歯学総合病院で血液・腫瘍、膠原病・リウマチ性疾患、感染症コンサルテーションを6か月間研修します。新潟県立新発田病院では近年小児科医としての取り組みが重要視されている精神・心身医学を3か月間研修します。佐渡総合病院では予防接種、乳児検診など小児保健分野を含めた地域小児総合医療を3か月間研修し、小児の総合診療医としての力をつけます。
- 専門研修3年目：新潟市民病院にもどり引き続き研修します。将来のsubspecialtyを意識した研修も一部可能です。

②週間スケジュールの例

月	病棟業務、周産期合同カンファレンス（月2回）、症例検討会
火	抄読会、外来・病棟業務、総回診
水	病棟業務、ランチョンセミナー、ハンズオンセミナー
木	外来・病棟業務、CPC（月1回）、グランドラウンド（月1回）
金	病棟業務、研修ふりかえり（月1回）
土 日	合同勉強会（年3回）

問い合わせ先

担当者 教育研修室長 桑原 史郎

TEL 025-281-5151 **FAX** 025-281-5187 **E-mail** kensyu@hosp.niigata.niigata.jp

ホームページ http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/syouni_senmon.html

外科専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟市民病院を基幹施設として県内外9の連携施設と共に本研修プログラムが構成されます。専攻医の希望により2つのコースの選択が可能です。

1) 領域発展コース

基幹施設である新潟市民病院で2年間、連携施設で1年間の研修を行います。

2) 大学院コース

基幹施設である新潟市民病院で1年間、連携施設で1年間の研修の後に新潟大学大学院に進学します。

■ アピールポイント

- 1) 多数の症例が経験可能
- 2) 小外科から高難度症例までの多彩な症例が経験可能
- 3) 手術のみではなく、“Academic surgeon”を育成。

■ 特色

県内で最大の外科手術数の新潟市民病院を基幹施設としプログラム全体の年間手術数は約3,000例でHigh volume・High qualityな研修が可能です。本プログラムの目標は外科専門医に求められる全ての要素を身に着けた全国レベルのTop Surgeonを育成することです。9の中核病院を連携施設としていますが専攻医の希望に沿って連携施設を決定します。手術（art）だけでなく学会発表・論文作成などの学術活動（science）も指導しますのでart and scienceのバランスがよくとれた外科医専門医を育成します。研修後半は外科サブスペシャリティ（消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺内分泌外科・小児外科）の希望に沿ったローテーションを行います。



指導医からのメッセージ

「鉄は熱いうちに打て！」外科手術手技・周術期管理能力は、多数の臨床経験で加速度的に向上します。また、学会発表・論文作成は多彩な症例経験の疑問点から生まれます。若いときの“手術のシャワーを浴びる”3年間の研修により外科医としてのしっかりとした基礎が出来上がり、次のサブスペシャリティ研修に繋がります。やる気満々の専攻医をお待ちしています。

■ 連携施設の病院名

鶴岡市立荘内病院 県立新発田病院 県立がんセンター新潟病院 新潟大学医歯学総合病院 新潟南病院 新潟臨港病院
長岡赤十字病院 立川総合病院 県立中央病院

研修期間 3年

2021年度募集人数 3名

選考方法 書類・面接・その他（筆記試験）

プログラム責任者 消化器外科 桑原 史郎

研修コース

①基本コース

【領域発展コース】



【大学院コース】



②週間スケジュールの例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
8時				抄読会		
9時	回診	回診	回診	回診	回診	
10時	手術	手術	手術	手術	手術	
11時						
12時				CB		
13時						
14時		検査		検査		
15時						
16時		検討会		検討会		
17時						



その他参考情報

雇用・勤務形態については、http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/resident_after16.htmlを参照してください

問い合わせ先

担当者 教育研修室長 桑原 史郎

TEL 025-281-5151

FAX 025-281-5187

E-mail kensyu@hosp.niigata.niigata.jp

ホームページ http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/resident_after16.html

整形外科専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟市民病院整形外科の研修では、全ての運動器疾患、外傷症例に対し、的確な診断・治療・全身管理・社会復帰のサポートを行うために十分な能力を身につけることです。

患者さんに信頼される、安全で質の高い医療を提供できる整形外科医師を育成することを目標としています。

■ アピールポイント

- 整形外科各専門分野の指導医が所属し、広い範囲で多くの臨床経験を積むことができる。
- 全国有数の外傷症例数である、かつ整形外科各種慢性疾患の診療に携われる。
- 当院は34診療科と多くの専門診療科があり、各科の連携は良好で、気軽に相談出来る雰囲気がある。

■ 特色

当院は全国有数の救急搬送患者を受け入れ件数で（2017年の救急車搬入6,220件、ドクターカーを運用）、多様な運動器疾患、外傷の急性期治療についても対応可能となる。救命科を始めとする他科と協力しながら、超急性期から急性期の高度治療を行っており、この治療にチーム治療の一員として参加し、救命を目指しながら回復後の機能回復を最大限にするための治療を行うことを学べる。

また重症から軽症までの多数の手の外科、股関節外科、膝関節外科、脊椎脊髄外科、スポーツ外科、リハビリテーション治療を行っており、十分な経験を積むことが可能である。日々の研修の際に、遅滞なく指導を受けられる様に検討会、回診を連日行っている。

新潟大学と連携したプログラムであるため、大学において開催される検討会や研究会に参加する機会が多く、最新知識を得ることが出来る。またプログラムに参加する各病院の症例数が豊富なため、研修中に執刀可能な手術件数も多く、年間120件以上、3年9か月間で500件を目標としている。

プログラム参加病院中3施設が新潟市中心部に位置しているため、研修中の転居が最小限ですむ。佐渡市、会津市の生活環境も快適で、新潟から佐渡までは高速船で1時間と比較的近い。

指導医からのメッセージ

当科では整形外科各専門分野に対応できる指導医が所属しており、指導医のコントロールの元に多くの臨床経験を積むことが出来ます。当院は3次救急病院であり、軽症から重症まで、必ず救命科医師および整形外科指導医のバックアップがある状況で専攻医が主役となり治療を進めていくことが可能です。当院は34診療科と多くの専門診療科があり、各科の連携は良好で、気軽に相談が出来る雰囲気があります。全国有数の外傷症例数で、整形外科各種慢性疾患の診療に携わることが出来ます。4年間の研修期間中はほとんど新潟市内での研修になります。見守られた安全な環境で研修をしてみませんか。

■ 連携施設の病院名

新潟大学病院 新潟中央病院 佐渡総合病院 会津中央病院（会津若松市）

研修期間 3.9年

2021年度募集人数 2名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 整形外科 瀬川 博之

■ 研修コース

①基本コース

年次	研修領域と研修期間	
1年目	新潟市民病院（外傷、上肢、下肢）	
2年目	新潟市民病院（脊椎）	新潟中央病院（外傷）
3年目	新潟大学病院（腫瘍、リウマチ、小児整形）	
4年目	佐渡総合（地域医療）	新潟市民（専門分野）

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
8:00-9:00	検討会	抄読会 勉強会	検討会	検討会	検討会
午前	外来 手術	外来 手術	外来 手術	外来 手術	外来 手術
午後	多職種ミーティング 回診 検査	手術	手術 検査	手術 検査	手術

■ その他参考情報

2018年度 整形外科新患者数 2087例

2018年度 整形外科手術件数 1488件

手術内訳：外傷503件、脊椎388件、上肢・手180件、下肢306件、
リウマチ17件、スポーツ20件、小児44件、腫瘍30件

問い合わせ先

担当者 教育研修室長 桑原 史郎

TEL 025-281-5151

FAX 025-281-5187

E-mail kensyu@hosp.niigata.niigata.jp

ホームページ http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/seikei_senmon.html

救急科専門研修プログラム

■ 研修概要

研修プログラムでは、急病や外傷の病態や重症度に応じた総合的判断に基づき、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めるためのコンピテンシーを持った救急科専門医を養成します。特に多臓器の機能不全が重篤化する集中治療を要する病態においては中心的役割を担う医師を目指します。

さらに地域における救急医療体制、特に救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する能力の修得も目指します。

新潟市民病院救急科は「救急外来（ER）」と「集中治療（ICU）」を診療の主な柱としています。豊富な症例で臨床経験を積み、Evidence-Based Medicine（EBM）を重視し、幅広い視野と知識を持ち適切な臨床判断のできる救急医の養成を目指します。

■ アピールポイント

- ER、ICU、プレホスピタル、災害医療、満遍なく研修可能です。
- 外傷のIVRも当科で行っています。
- 常にglobal standardを意識した診療をモットーとしています。

■ 特色

勤務体制はシフト制、診療はグループ制をとり、診療の質の向上と個々の医師への負担軽減を図っています。当科は女性医師が多いのが一つの特徴で、産休・育休の取得ももちろん可能です。

指導医からのメッセージ

新潟市民病院の救急医療は、ジェネラリストである救急医による「横糸」、各専門科の「縦糸」で織りなすことで、質の高い救急医療を実践しています。一緒に新潟の救急医療を盛り上げましょう！！



■ 連携施設の病院名

新潟県立新発田病院 長岡赤十字病院 新潟県立中央病院 新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院 新潟大学医歯学総合病院 厚生連上越総合病院

研修期間 3年

2021年度募集人数 4名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 救命救急・循環器病・脳卒中センター 廣瀬 保夫

■ 研修コース

①基本コース

新潟市民病院救命救急・循環器病・脳卒中センター（救急・集中治療12ヶ月）

連携施設研修（救急・集中治療6～12ヶ月）	基幹施設研修（救急・集中治療6～12ヶ月）
地域僻地医療研修（3～6ヶ月）	希望、必要に応じて他科ローテーション研修

救急診療、集中治療、病院前救護・災害医療等は年次に拘らず弾力的に研修します。研修の順序、期間、連携施設の選択、内容については、専攻医の皆さんの希望を最大限に尊重します。

②週間スケジュールの例

時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30	ICU回診	抄読会 ICU回診	ICU回診	ICU回診	ICU回診	シフト制	
午前	ER・ICU・ドクターカー診療						
午後	総合診療内科 合同カンファ		デス カンファレンス				
17:00	トリアージ 検討会 (月1回)	Radiology conference (月1回)	プレホスピタル 検討会 (月1回)	M&Mカンファ レンス(月1回)	レジデント勉強 会(適宜開催)		
夜間	シフト制						

■ その他参考情報

勤務体制は日勤、夜勤、遅番のシフト制、診療はグループ制をとり、診療の質の向上と個々の医師への負担軽減を図っています。当院は24時間体制で救急科医師が常駐しているため、オンとオフがしっかりしています。

当科は女性医師が多いのが一つの特徴で、産休・育休の取得ももちろん可能です。

問い合わせ先

担当者 教育研修室長 桑原 史郎

TEL 025-281-5151

FAX 025-281-5187

E-mail kensyu@hosp.niigata.niigata.jp

ホームページ http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/kyukyu_senmon.html

麻酔科専門研修プログラム

■ 研修概要

本研修プログラムでは、専門研修基幹施設である新潟市民病院を核としながら、新潟大学医歯学総合病院を初めとする専門研修連携施設群と協力して、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供するとともに、下記①～⑤を併せ持つ麻酔科専門医の育成を目指す。

- ①高度な知識・優れた技術・優れた態度を備えている。
- ②習得した知識・技術を全身管理に活用できる。
- ③さまざまな疼痛を緩和できる。
- ④常にリサーチマインドを持ち、臨床上の疑問に対して自己学習ができる。
- ⑤自律的に学術的活動（学会参加、論文執筆等）ができる。

■ アピールポイント

- 新潟医療圏の三次救急病院。小児、心臓血管外科症例、救急症例が豊富。
- 市中病院でありながら、高難易度の手術や重篤な合併症を有する患者の手術も多数行われている。
- ペインクリニック外科においてペインクリニック研修が可能。

■ 特色

豊富な症例に裏付けられた実践力を養うことを第一に、新潟大学医歯学総合病院麻酔科の専門医研修プログラムと密接に連携し、各施設の指導医が総力を上げてオールラウンドな麻酔臨床医の育成を目指す。プログラム内では超音波ガイド下末梢神経ブロック、成人・小児の経食道心エコー、神経機能モニタリングの優秀な指導医の下での研修が可能。また、プログラム外では臨床・基礎研究も盛んに行われていることに加え、定期的に臨床経験・研究に関する発表の場があり、アカデミックな要求にも十分に答えられる研修となっている。

指導医からのメッセージ

新潟市民病院は、年間の麻酔科管理症例数が約4,800例と新潟県内で最も多い病院です。救命救急センター、循環器病・脳卒中センターおよび総合周産期母子医療センターを有しており、救急症例、心臓血管外科症例、脳外科症例、新生児症例も豊富であり、偏りのない研修が可能です。ロボット支援手術を初め、各科とも鏡視下手術が多いのも特徴です。忙しい病院ですが、その分やりがいを感じられると思います。皆様の応募をお待ちしています。



■ 連携施設の病院名

- 専門研修連携施設A：**新潟大学医歯学総合病院 新潟県立新発田病院 新潟県立がんセンター新潟病院 済生会新潟第二病院
長岡中央総合病院
- 専門研修連携施設B：**長岡赤十字病院 新潟県立中央病院 魚沼基幹病院

研修期間 4年

2021年度募集人数 1名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 麻酔科 西巻 浩伸

■ 研修コース

①基本コース

年次	A (標準)	B (ペイン)	C (集中治療)
初年度 前期	新潟市民病院	新潟市民病院	新潟市民病院
初年度 後期	新潟市民病院 (ペイン含む)	新潟市民病院 (ペイン含む)	新潟市民病院 (ペイン含む)
2年度 前期	新潟大学	新潟市民病院 (ペイン含む)	新潟市民病院 (集中治療含む)
2年度 後期	新潟大学	新潟大学 (ペイン重点)	新潟大学
3年度 前期	長岡赤十字病院	新潟大学 (ペイン、緩和)	新潟大学 (集中治療)
3年度 後期	長岡赤十字病院	新発田病院 (ペイン重点)	新発田病院 (集中治療含む)
4年度 前期	済生会新潟第二病院	新発田病院 (ペイン重点)	新発田病院 (集中治療含む)
4年度 後期	済生会新潟第二病院	県立中央病院 (ペイン)	新潟大学 (集中治療)

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	ペイン	手術室		
午後	手術室	手術室	手術室	ペイン	手術室		

※病院当直業務はないが、夜間や休日の麻酔科拘束当番として、平日週1回、土・日・祝日のうち月2回を指導医とともに進行。

※2年度以降は各研修施設のカリキュラムによる

■ その他参考情報

専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。例えば、ペインクリニックを学びたい者へのローテーション、集中治療を中心に学びたい者へのローテーションも可能である。また、学位の早期取得を目指すものに関しては、社会人大学院生として新潟大学大学院に入学し、麻酔科内で臨床麻酔に携わりながら、研究（基礎、臨床）を行うことも可能である。



問い合わせ先

担当者 教育研修室長 桑原 史郎

TEL 025-281-5151

FAX 025-281-5187

E-mail kensyu@hosp.niigata.niigata.jp

ホームページ <http://www.hosp.niigata.niigata.jp>

総合診療専門医研修プログラム

■ 研修概要

機関施設は新潟市民病院であり、政令指定都市、県庁所在地である新潟市にある救命救急センターなどを併設する医療機関である。プライマリケアのみならず、高度医療機関として重症疾患や特殊な疾患、専門医療を必要とする患者の診療を経験することが可能である。また都市型の医療を経験することが可能である。

連携施設は新潟県立津川病院であり、地域の小規模病院である。山間部での地域医療を、入院や外来の診療のみならず、訪問診療や地元の健康教育など、診療所の支援などを経験することが可能である。

■ アピールポイント

- 都市型の高度医療機関として重症疾患や特殊な疾患、専門医療を必要とする患者の診療を経験することが可能
- 地域の小規模病院で、外来や入院での地域医療、訪問診療や地元の健康教育、診療所の支援などを経験することが可能
- 新潟県内で総合診療を学ぶ場としては随一です

■ 特色

都市型の高度医療機関である新潟市民病院で総合診療と、その核となる内科各科、小児科、救急を中心に学ぶことが可能。重症患者、特殊な疾患をもつ患者、専門医療を必要とする患者の診療を経験する。

地域では、Common diseaseを中心とした、外来や入院での地域医療と、訪問診療や地元の健康教育、診療所の支援などの、地域医療の経験が可能。

指導医からのメッセージ

病院や地域で、患者さんや家族の支えになりませんか？ あなたが医師を志した原点は何でしょうか？ 多くの患者や家族が、日常生活の中で、様々な健康問題で悩んでいます。あなたが、力になってあげることができます。総合診療に興味のある方は是非とも来てください。

■ 連携施設の病院名

新潟県立津川病院

研修期間 3年

2021年度募集人数 2名

選考方法 書類・面接・その他（小論文）

プログラム責任者 総合診療内科 矢部 正浩

■ 研修コース

①基本コース

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	新潟市民病院						新潟市民病院					
	領域	内科						内科					
2年目	施設名	新潟市民病院		新潟市民病院			新潟県立津川病院						
	領域	小児科		救急			総診 I						
3年目	施設名	新潟県立津川病院						新潟市民病院					
	領域	総診 I						総診 II（その他を含む）					

②週間スケジュールの例

各科によって診療が異なります。

問い合わせ先

担当者 教育研修室長 桑原 史郎

TEL 025-281-5151

FAX 025-281-5187

E-mail kensyu@hosp.niigata.niigata.jp

ホームページ http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/soushin_senmon.html

下越病院



所在地

〒956-0814 新潟県新潟市秋葉区東金沢1459番地1

TEL

0250-22-4711 (代表)

ホームページ

kaetsu@niigata-min.or.jp

標榜診療科目

内科、外科、整形外科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・神経内科・皮膚科・婦人科・リハビリテーション科・麻酔科・泌尿器科・リウマチ科・糖尿病内科・腎透析・心臓血管外科

病床数

261床

医師数

常勤：37人 非常勤：2.3人（2020年4月1日現在）

患者数

入院（H29年度）年間延べ患者数 88,455人 1日平均患者数 243.8人

外来（H29年度）年間延べ患者数 107,941人 1日平均患者数 393.0人

病院の特徴等

1976年に100床の下越病院を開院し、1979年から初期研修医を受け入れてきました。地域の方々と一緒に保健予防や健康増進活動に力を入れ、差額室料を徴収しないなど、地域に根ざした無差別平等の医療活動を展開し、旧新津医療圏の中核的な病院としての役割を果たしています。また、災害拠点病院に指定されており、DMAT（災害派遣医療チーム）を保有しています。

現在、一般病床は225床・回復期リハビリテーション病棟36床の合計261床、16標榜科を持ち、救急車は秋葉区（旧新津医療圏）を中心に年間約2,000台、時間外の急患年間4,500人を受け入れています。また、健康診断を年間1,000件以上、地域の健康相談会を年間約100回行っており、在宅・介護分野でも100人以上の患者さんの往診に対応しています。

アピールポイント

1. 1979年より初期研修医を受け入れたきた実績
2. 予防からリハビリ、在宅医療まで総合的な医療・介護活動や「安心して住み続けられるまちづくり」に取り組んでいる。
3. 差額ベット料を徴収せず、無料低額診療に取り組むなど無差別・平等の医療・介護を実現を目指す。

施設等の紹介

- ・院内保育所及び病時保育室が設置されており子育て中の女性医師の働く環境を整備しています。
- ・図書室を医局に隣接し、担当事務が配置され、医中誌Web、"up to date"が無料で利用可能。各領域の主要学会誌も準備されています。また、月に1万円が研修図書費として補償されます。
- ・医局に各研修医のデスクがあり、それとは別に研修医専用の部屋があります。インターネット環境は医局内各自のデスクから常時利用可能。
- ・昼食は食堂もしくは売店にて購入できます。当直時は、夕食と翌日（朝・昼）を病院で支給します。

総合診療専門研修プログラム

■ 研修概要

下越病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに施設群を構成しています。専攻医はこれらの施設群をローテーションにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。

下越病院では総合診療専門研修Ⅱと小児科研修を行います。病院では外来、救急、病棟研修を行い、小児科は2次輪番病院です。救急は新潟大学医歯学総合病院が研修先となっており、高次救命災害治療センターです。精神科の新津信愛病院は新潟医療圏の精神科医療を幅広く提供する病院です。

総合診療専門研修Ⅰは、医療資源の乏しい県立津川病院もしくは新潟市内あるいは長岡市内の診療所にて、在宅医療、介護との連携や地域住民と協力した保健予防活動について学びます。

■ アピールポイント

- 診療所研修が可能であり、医療・介護等の分野におけるリーダーシップを学び、診療所を主体的に担える力量を目指します。
- 下越病院で病院総合医としての力量の獲得を目指します。
- 自主的な地域住民組織とまちづくりについて学び、体験します。

■ 特色

下越病院では、病棟診療にて高齢入院患者や心理・社会・倫理的問題を含む複数の健康問題を抱える患者の包括ケア、癌・非癌患者の緩和ケア等の臓器別でない研修が可能です。また、外来診療では救急や複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアについて学びます。自主的な住民組織である「新潟勤労者医療協会健康友の会」や「ながおか医療生活協同組合」を中心に、そこに居住する地域住民、各種団体、ボランティアや当院の職員などの理解と協力のもとで研修できる環境を整えています。

指導医からのメッセージ

下越病院は規模こそ大きくありませんが、地域に出て研修することができる病院です。J-HPH (Health Promoting Hospitals&Health Services) に2017年加盟し、「健康友の会」という地域住民の共同組織と伴に、健康増進にとどまらず、まちづくりを実施し、医療・福祉の専門職と連携をとりながら、取り組んでいます。地域づくり・まちづくりに興味のある方は是非来てもらいたいと思います。

■ 連携施設の病院名

新潟大学医歯総合病院 県立津川病院 新津信愛病院

研修期間 3年

H31募集人数 2名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 下越病院 副院長 本間 丈成 (小児科)

■ 研修コース

①基本コース (例)

研修 1年目	施設名	下越病院		
	領域	内科		
研修 2年目	施設名	下越病院	新潟大学医歯学総合病院	
	領域	総合診療専門研修Ⅱ	小児科	救急科
研修 3年目	施設名	下越病院	ながおか生協診療所	
	領域	総合診療専門研修Ⅱ	総合診療専門研修Ⅰ	

④週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
8:00-8:30	朝カンファレンス				
8:30-9:00	入院患者申し送り				
9:00-12:00	午前外来		午前検査	午前外来	
13:30-15:00	多職種カンファレンス 随時開催・参加				
13:30-17:00		午後救急			
14:00-17:00	午後検査			午後検査	
16:30-18:00			夜間外来		
16:00-17:00					総回診
18:30-19:30	症例 カンファレンス				
平日宿直 (1~2回/週)、土日の日直・宿直 (1回/月)					

問い合わせ先

担当者 法人医師部 高井 好文

TEL 0250-24-4711 (内線2204)

FAX 0250-24-9895

E-mail takai_y@niigata-min.or.jp

長岡赤十字病院



所在地

新潟県長岡市千秋二丁目297番地1

TEL

0258-28-3600

ホームページ

<http://www.nagaoka.jrc.or.jp>

標榜診療科目

内科、循環器内科、神経内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、形成外科、リウマチ科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

病床数

592床

医師数

常勤：158人 非常勤：1.2人（2020年4月1日現在）

患者数

入院（R1年度）年間延べ患者数 183,300人 1日平均患者数 502.1人

外来（R1年度）年間延べ患者数 380,454人 1日平均患者数 1,572.1人

病院の特徴等

当院は急性期病院であり、病床数は592床（一般582床、感染10床）、27診療科目を有し、ほぼすべての領域に経験豊富な専門医・指導医が揃っている臨床研修指定病院です。また、地域医療支援病院、救命救急センター（ドクターヘリ基地病院）、地域がん診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター、基幹災害医療センター、エイズ拠点病院、臓器移植臓器提供施設などの指定も受けており、地域完結型の総合病院です。

アピールポイント

- 高度な専門的医療とcommon diseaseの初期診療も広く担う急性期病院
- 充実した診療科と指導医による、豊富な症例数
- 救命救急センターであることから、救急症例も充実

施設等の紹介

- 院内保育所完備
- 希望者には職員寮（单身用）に入居可能
- 売店、職員食堂もあり、近隣にはショッピングモール等あります

内科専門研修プログラム

■ 研修概要

当院は急性期病院であり、病床数は592床（一般582床、感染10床）、27診療科目を有し、ほぼすべての領域に経験豊富な専門医・指導医が揃っている臨床研修指定病院です。

本プログラムは、新潟県中越医療圏の中心的な急性期病院である当院を基幹施設として、中越、近隣医療圏および新潟市にある連結施設で構成されております。

研修期間は基幹施設2年間＋連携施設1年間の3年間を基本としますが、地域枠の医師を対象とした4年コースも整備しており、専攻医の希望に応じた柔軟な研修プログラムを組み立てることが可能です。



■ アピールポイント

- 高度な専門的医療とcommon diseaseの初期診療も広く担う急性期病院
- 充実した診療科と指導医による、豊富な症例数
- 救命救急センターであることから、救急症例も充実

■ 特色

- 1) (一般コースでは) 専攻医1年目に内科の各分野を3ヶ月ずつローテーションすることで、専攻医2年間及び3年目の研修を専攻医の目指す将来像にできる限り対応できるプログラムとなっています(研修コース参照)。
- 2) 当院は県内の中でも医師数が多い病院ですが、さらに各分野・診療科同士の連携がしっかりしています(合同カンファレンス等も充実)。複数領域にまたがる症例については、各領域の指導医から熱心に指導をうけることができます、総合的な力を身につけることができます。
- 3) 3年間の基本プログラムに加えて1年以上の研修を行うことで、総合内科専門医とサブスペシャリティ領域専門医を同時に取得することも可能です。

指導医からのメッセージ

「専攻医の希望に応じた自由なプログラム」

中越地域唯一の基幹施設として、内科全般を幅広く研修することができます。また、当院では内科専門分野研修を併行して内科全般を研修するプログラムも可能にしており、研修に係る専攻医の皆さんの細かな要望にお答えできる柔軟なプログラムにしております。救急から腫瘍に渡って症例数も多くかつ指導医も充実しております。来年度の後期研修に是非ご応募ください。



■ 連携施設の病院名

新潟大学医歯学総合病院 長岡中央総合病院 立川総合病院 新潟県立十日町病院 独立行政法人国立病院機構新潟病院

研修期間(3年コース) 3年 研修期間(4年コース) 4年 2021年度募集人数 4名

選考方法 書類・面接 プログラム責任者 呼吸器内科 副院長 佐藤 和弘

■ 研修コース

①一般コース(3年)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	循環器・神経			血液・腎臓・膠原病・ 糖尿病・代謝			呼吸器・感染症			消化器		
2年目	選択研修①			選択研修②			選択研修③			選択研修④		
3年目	選択研修⑤			選択研修⑥			各内科領域を自由選択 及び未経験の症例がある内科領域を選択					

※受け入れ医師ごとに、研修する診療科の順番は変更する可能性があります

※複数の施設を選択して研修することも可能ですが、1つの連携施設には最低6ヶ月以上は研修すること

- 1年目の12ヶ月は、当院で研修を行います。
各領域を4つのクールに分けて、それぞれ3ヶ月間ずつ研修を行う。(総合内科、アレルギー、救急についても、上記の期間に経験する。)
- 2年目から3年目前半の18ヶ月間は、3ヶ月を1クールとして、連携病院で最低1年間(4クール以上)の研修および基幹病院にて各内科領域を自由選択して研修する。
- 3年目後半は、各内科領域を自由選択及び未経験の症例がある内科領域を選択して研修する。

②地域コース(4年)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	立川総合病院											
2年目	新潟県立十日町病院											
3年目	長岡赤十字病院											
4年目	長岡赤十字病院											

主に新潟県修学資金貸与者向けのコースになります。

初期臨床研修修了後に義務付けられている地域施設での勤務要件を満たすことが可能となります。

各施設内で必要な症例数を経験しつつ、自身の希望に合わせたローテーションの作成ができます。

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金	土日
午前	内科朝カンファレンス(各診療科)			内科朝合同カンファレンス	内科朝カンファレンス(各診療科)	当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/講習会や学会参加
	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	
内科外来診療(総合)	内科外来診療(各診療科)		内科外来診療(各診療科)			
午後	入院患者診療	内科検査	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	
		入院患者診療	内科外来診療(各診療科)		内科外来診療(各診療科)	
	内科合同検討会/CPC	救命救急センターオンコール対応	院内会議参加	救命救急センターオンコール対応	院内講習会参加	

問い合わせ先

担当者 教育研修推進室 福井 大介

TEL 0258-28-3600

FAX 0258-28-9000

E-mail kensyu@nagaoka.jrc.or.jp

ホームページ <http://www.nagaoka.jrc.or.jp/contents/organization/rinsho/kenshui01-2/>

総合診療科専門研修プログラム

■ 研修概要

当院は急性期病院であり、病床数は592床（一般582床、感染10床）、27診療科目を有し、ほぼすべての領域に経験豊富な専門医・指導医が揃っている臨床研修指定病院です。また、二次医療圏で唯一の地域医療支援病院、救命救急センター（県内2カ所目のドクターヘリ基地病院でもあります）、総合周産期母子医療センター、基幹災害医療センター、エイズ拠点病院、臓器移植臓器提供施設などの指定も受けており、地域完結型の総合病院です。当院での研修は、紹介状を持たない初診患者対応、不明熱など診断困難例の入院対応、多領域に渡る問題点を持つ他科入院患者のコンサルテーションや内科的管理、救急部と連携したER患者の診断などを中心に、教育熱心な指導医達から病院総合医としての基礎を習得できます。



■ アピールポイント

- 高度な専門的医療とcommon diseaseの初期診療も広く担う急性期病院
- 充実した診療科と指導医による、豊富な症例数
- 救命救急センターであることから、救急症例も充実

■ 特色

- 1) 当院での研修に加えて、新潟県内の多くの病院と連携しており、それぞれの地域に応じた多様な総合診療研修を経験することができます。
 - 2) 隣接する特別養護老人ホームや老人保健施設など福祉施設との連携が密であり、多職種間の協力体制も充実していることから、地域の中心施設としての診療を経験することが可能です。
 - 3) いずれの地域も高齢化が進み、医療需要は増大しています。新潟県は医師不足の状況が続いており、今後ますます総合診療医の活躍すべきフィールドが広がってくるのが期待できます。
- 上記での研修を通じて、病院総合医としても家庭医としても十分な技量を身に付けることが可能になります。

指導医からのメッセージ

長岡市は人口27万人の中越地方の中核都市です。越後山脈を望む市内の中心を、日本を代表する大河信濃川が流れる自然豊かな街です。毎年8月2・3日に行われる長岡まつり大花火大会では100万人もの人が熱狂します。さらに長岡にはおいしい食べ物、日本酒があります。研修中は様々なイベントなどにも参加して頂き、長岡の良さを実感頂ければ幸いです。



■ 連携施設の病院名

新潟県立松代病院 新潟県立柿崎病院 魚沼市立小出病院 湯沢町保険医療センター 新潟県立妙高病院 魚沼基幹病院
新潟県立十日町病院 佐渡総合病院 新潟大学医歯学総合病院

研修期間 3年

H31募集人数 2名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 副院長 山崎 肇

■ 研修コース

①基本コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修 1年目	長岡赤十字病院 or 佐渡総合病院 or 新潟県立十日町病院						長岡赤十字病院 or 佐渡総合病院 or 新潟県立十日町病院					
	内科						内科					
研修 2年目	長岡赤十字病院 or 魚沼基幹病院 or 新潟県立十日町病院						長岡赤十字病院					
	総診Ⅱ						救急		小児科			
研修 3年目	新潟県立松代病院・魚沼市立小出病院・新潟県立妙高病院・ 新潟県立柿崎病院、湯沢保健C						長岡赤十字病院 or 魚沼基幹病院 or 新潟県立十日町病院					
	総診Ⅰ（連携施設を選択）						総診Ⅱ					

※代表的なコース例です。

【連携施設での研修内容】

総合診療専門研修Ⅰ：県立松代病院、県立柿崎病院、市立小出病院、湯沢町保険医療センター、県立妙高病院

総合診療専門研修Ⅱ：魚沼基幹病院、県立十日町病院

内科：佐渡総合病院、県立十日町病院

臨床疫学・社会疫学：新潟大学医歯学総合病院

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前	朝カンファレンス			内科朝合同カンファレンス	朝カンファレンス
	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療
	総合診療科外来		総合診療科外来		総合診療科外来
午後	入院患者診療	内科検査	入院患者診療	総合診療科外来	入院患者診療
		総合診療科外来	救命救急センター オンコール対応		内救命救急センター オンコール対応

※総合診療専門研修Ⅱの代表例

問い合わせ先

担当者 教育研修推進室 福井 大介

TEL 0258-28-3600

FAX 0258-28-9000

E-mail kensyu@nagaoka.jrc.or.jp

ホームページ <http://www.nagaoka.jrc.or.jp/contents/organization/rinsho/kenshui01-2/>

立川メディカルセンター 柏崎厚生病院



所在地

新潟県柏崎市大字茨目字二ツ池2071-1

TEL

0257-22-0111

ホームページ

<http://www.tatikawa.or.jp/kousei/>

標榜診療科目

精神科・内科・歯科

病床数

300床

医師数

常勤：9人 非常勤：3.1人（2020年4月1日現在）

患者数

入院（R1年度）年間延べ患者数 104,317人 1日平均患者数 286人

外来（R1年度）年間延べ患者数 35,085人 1日平均患者数 131人

病院の特徴等

柏崎厚生病院は、新潟県長岡市にある立川総合病院を中心とする立川メディカルセンターに含まれる精神科と内科の病院で、主に新潟県中越の民間精神科病院として、精神障害者や認知症高齢者の治療およびリハビリを行ってきました。精神障害の人々の置かれている現在の状況は、まだ十分に充実しているとは言えません。それは治療方法の困難さはもとより、社会復帰にむけての諸施策が立ち遅れていることにも起因しています。私たちはその現状をふまえつつ、地域に根ざした精神科医療に率先して取り組んできました。職員も専門職としての医師、看護師はもとより多くのPSW・OT・心理職を擁してより充実したサービスの提供に努めています。また臨床的な連携は柏崎総合医療センターや立川メディカルセンターの各病院とも密接に行い、専門的な治療が必要な時にすぐ行えるのも特徴となっています。私たちはこれからも治療至上主義に陥ることなく、人権を尊重し社会で安心して生活できるよう、お手伝いをさせていただきたいと思います。本プログラムはその実績を踏まえ、民間精神科病院の特徴を生かし、地域医療を中心とした臨床精神医学、精神医療、精神保健福祉を学ぶことを念頭に作成されました。連携病院の三交病院、関病院、さいがた医療センター、そして東京医科大学メンタルヘルス科と共に多彩な研修ができると考えています。

アピールポイント

- 自然豊かな環境でゆったりと幅広く精神科領域の研修ができる。
- 内科病棟も併設しており、身体疾患への対応も可能。
- 専攻医の希望に沿った柔軟性に富んだ研修スケジュールが組める。

施設等の紹介

当院は、精神科病床240床（精神科急性期治療病棟34床、精神療養病棟106床、認知症治療病棟100床）、内科病床60床を有する病院です。認知症疾患医療センターの指定を新潟県より受けており、周辺には介護老人保健施設米山爽風苑、指定障害福祉サービス事業所自在館、認知症老人グループホーム五楽庵、茨内地域生活支援センターがあり、訪問看護など多職種によるアウトリーチ活動にも力を入れています。また当院は平成16年度から実施された医師臨床研修制度の当初から、立川総合病院の協力型研修病院として多くの初期研修医や後期研修医の精神科臨床研修の場となってきました。現在も立川総合病院や柏崎総合医療センターの協力型臨床研修病院だけでなく、東京医科大学の地域医療研修施設にもなっており、新宿区の東京医大病院から初期研修医が来ています。

精神科領域専門医研修プログラム

■ 研修概要

基本的には柏崎厚生病院でのプログラム制に沿った研修を行います。専攻医の希望によりスケジュールを柔軟に組み立てることができよう配慮します。今後は積極的にカリキュラム制の導入も考慮します。

三交病院では、薬物依存症を主な対象とした認知行動療法の志向をもつ外来の治療プログラムやアルコール関連問題等を持つ当事者ご本人の家族を対象としたCRAFTプログラムが行えます。

関病院では、外来で、不安障害の薬物療法や認知行動療法的アプローチを行う「不安ストレス専門外来」や女性特有の悩みに対し女性医師が診療する「女性のこころの専門外来」を開設しています。

独立行政法人国立病院機構さいがた医療センターでは、医療観察法に基づく指定入院病棟で司法精神医学について研修を行います。

東京医科大学メンタルヘルス科では、コンサルテーション・リエゾンサービス（CLS）を中心に学び、内科、外科、救命救急センターなど様々な科から依頼を受け、他科との連携、精神科治療にあたります。

■ アピールポイント

- 専攻医の希望によりスケジュールを柔軟に組み立てることができる。
- 各連携病院で興味のある分野が学べる。
- 指定医、専門医の症例が豊富である。

■ 特色

各病院の特徴として共通して言えることは、それぞれの病院で幅広く精神医学、精神科医療、精神保健福祉について幅広く学べることであります。各指導医もそれぞれの研究分野を持ちながら幅広く臨床の中で技術を研鑽してきた職人的な医師がそろっています。また東京医科大学などの初期研修病院であり、臨床的な連携は近隣の柏崎総合医療センターや長岡市の立川総合病院のとも密接に行い、専門的な治療が必要な時にすぐに対応できることも特徴としています。

指導医からのメッセージ

臨床を現場で教えることはとても難しいことです。特に精神科は言葉だけで伝えることができない、教科書には載っていない、患者さんとの間、時間経過のとらえ方などがあります。また薬理や生理など生物学的な知識、心理学的知識、司法など社会的な知識など幅広く学ばなければなりません。柏崎厚生病院にはみなさんの後輩である初期研修医が毎月入れ替わり来ています。みなさんにもその指導医になっていただき、共に教え学び、また我々もこれまでの経験を伝えていくことが専門医への道と考えています。

■ 連携施設の病院名

三交病院（新潟県上越市） 関病院（新潟県柏崎市） 国立病院機構さいがた医療センター（新潟県上越市） 東京医科大学メンタルヘルス科（東京都新宿区）

研修期間 3年

2021年度募集人数 4名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 立川メディカルセンター柏崎厚生病院精神科 吉濱 淳

■ 研修コース

①基本コース

1年目	2年目	3年目
柏崎厚生病院で精神科臨床の基礎的なマナーを学習し、基本的な問診、検査、心理教育の方法等を学ぶ。PSW、OT、看護助手などの多職種の業務も短期間体験し、チーム医療を学ぶ。	連携病院に出張研修し、各病院の特徴的な臨床を学ぶ。年4回の柏崎臨床精神医学研究会や学会主催の学術総会で研究の発表を行う。また発達障害など児童思春期疾患についても専門医より指導を受ける。	病棟、外来で主治医として専門的知識を生かして治療を行う。精神鑑定に立会い、司法精神医学について学ぶ。精神保健指定医と精神科専門医の資格を取るための学習をする。

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金	土
午前	院長外来初診 問診・陪席	精神科 デイケア業務	院長外来初診 問診・陪席	病棟業務 院内勉強会	院長外来初診 問診・陪席	休院日
午後	入院報告会・ 医局会 病棟業務	病棟業務	病棟業務当直 (週1回)	病棟業務	病棟業務	

■ その他参考情報

年俸や年次有給休暇等については立川メディカルセンターの規定に準拠する。それぞれの連携施設においては各施設が独自に定めた就業規定に則って勤務する。各種学会への出席につき経費を施設より支給する。住宅は病院直近に研修医専用のアパートがあり、管理人や総務担当者が生活全般の相談・対応を行う。

当グループでは、研修医一人ひとりのオーダーメイドな研修プログラムを作っていくことを考えています。研修医本人の興味や希望、ライフスタイルに合わせて、その上で充実した精神科全般の研修を受けられるようにスケジュールを組むようにします。ぜひお話を聞かせてください。

問い合わせ先

担当者 吉濱 淳

TEL 0257-22-0111

FAX 0257-22-0112

E-mail kouseihp@tatikawa.or.jp

ホームページ <http://www.tatikawa.or.jp/kousei/>

国立病院機構新潟病院



所在地

新潟県柏崎市赤坂町3-52

TEL

0257-22-2126

ホームページ

<http://www.niigata-nh.go.jp>

標榜診療科目

内科、脳神経内科、小児科、皮膚科、外科、整形外科、脳神経外科、リウマチ科、精神科、心療内科、放射線科、リハビリテーション科、歯科

病床数

350床

医師数

常勤：22人 非常勤：0.83人（2019年4月1日現在）

患者数

入院（H30年度）	年間延べ患者数	118,920人	1日平均患者数	325.8人
外来（H30年度）	年間延べ患者数	48,902人	1日平均患者数	200.4人

病院の特徴等

当院は一般診療、救急医療、高度専門医療、政策医療（筋ジストロフィー医療、重症心身障害児者医療）などを通じて柏崎・刈羽地区および周辺地域の医療に日夜貢献しています。2014年7月には免震構造7階建の新病棟の運用を開始し、最新型MRI装置、CT装置、SPECT装置などを備えています。神経内科は脳卒中の超急性期・急性期治療から回復期リハビリテーションまで一貫して行うとともに、社会復帰に向けた教育と支援を積極的に行っています。また、神経変性疾患などの神経難病や筋ジストロフィーを含む筋疾患の専門的医療と研究を行っています。小児科は小児診療の中核施設として一般診療、小児科救急診療を行っています。さらに、小児腎疾患、小児神経疾患の専門医療と全県下を対象として小児慢性疾患の専門医療を行っています。また、当院では遺伝医療にも力を入れており、遺伝カウンセリングや次世代シーケンサーを用いた遺伝子診断を行なっています。

アピールポイント

- 各診療科間の垣根が低く、とても相談しやすい雰囲気の病院です。
- 研究活動や学会活動を出張費等を含め手厚く支援します。
- ロボットスーツHALのリハビリテーションを行なっています。

施設等の紹介

病児保育室あり、食堂あり、売店あり、ATMあり、職員宿舎あり

総合診療専門研修プログラム

■ 研修概要

国立病院機構新潟病院は基幹施設として、県内外の連携施設と共に研修プログラムを構成します。

病院、診療所などで活躍する高い診断・治療能力を持つ総合診療専門医を養成するために、ER型救急や急性期専門各科を有する地域拠点病院のなかで、専門各科と協働し全人的医療を展開しつつ、自らのキャリアパスの形成や地域医療に携わる実力を身につけていくことを目的としています。

■ アピールポイント

- 当院は神経疾患全般に強く、神経疾患全般の診断、治療を研修することが可能です。
- 仕事と生活の調和がとれている職場環境であり、無理なく研修を行うことができます。
- 多種多様の連携病院があり、研修内容を選択することが可能です。
- 地域医療に貢献しており、科の垣根が低くとても相談しやすい雰囲気の病院。

■ 特色

当院は他院と連携の元で柏崎市全域の医療を担い、乳児期から高齢者までの全人的医療を行っています。慢性期から急性期の医療を研修します。総合診療Ⅰでは県内の施設で研修を行います。家庭医研修、へき地研修、神経難病患者の在宅医療、訪問診療および地域における活動等から、専攻医自身が選択し、深い学びを得ることが可能です。

指導医からのメッセージ

急性期から慢性期まで内科、外科、小児科、神経内科の症例が豊富。研修指導が懇切丁寧で専門医の修得が容易。電子カルテシステム、画像システムを利用し退院病歴サマリーの作成が電子化されています。各専門科、臨床遺伝学や遺伝カウンセリングに関しても指導が受けられ、次世代シーケンサーを用いたDNA解析などの最新の機器の利用と診断技術が学べます。最新の呼吸療法が学べます。各種治験、臨床研究にも参加可能です。総回診、症例検討会、セミナーも開催され、専門医試験対策や学会発表指導も受けられます。

■ 連携施設の病院名

独立行政法人国立病院機構東京医療センター 厚生連柏崎総合医療センター 湯沢町保健医療センター（町立湯沢病院）
新潟県立妙高病院 清華ファミリークリニック 医療法人社団笹川医院

研修期間 3年

2021年度募集人数 2名*

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 脳神経内科医長 大田 健太郎

※希望に応じてwebカンファレンスシステムを利用した面談、情報提供が可能ですので、お気軽にご連絡ください。

■ 研修コース

①基本コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年目	施設名	NHO 新潟病院											
	領域	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科
2年目	施設名	NHO 新潟病院			△			NHO 新潟病院					
	領域	小児科	小児科	小児科	救急	救急	救急	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ
3年目	施設名	NHO 新潟病院						*					
	領域	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ

NHO新潟病院：国立病院機構新潟病院

△：柏崎総合医療センターもしくは国立病院機構東京医療センターから一つを選択

*は湯沢保健医療センター、新潟県妙高病院、精華ファミリークリニック、医療法人団笹川医院のいずれか一つを選択

②週間スケジュールの例

総合診療科（総合診療専門研修Ⅱ）

		月	火	水	木	金	土	日
8:00-9:00	朝カンファレンス							
9:00-12:00	病棟業務							
13:00-17:00	総合診療外来（初診、再来）							
13:00-16:00	症例カンファレンス							
17:00-18:00	抄読会、研究発表							
	平日宿直（1回/週）、土日の日直・宿直（1回/月）							

内科

		月	火	水	木	金	土	日
8:00-9:00	朝カンファレンス							
9:00-12:00	病棟業務							
	消化器分野研修							
	呼吸器分野研修							
	神経内科分野研修							
13:00-17:00	総回診および症例検討							
	リウマチ膠原病分野研修							
	総合診療外来							
	病棟業務							
17:00-18:00	抄読会、研究発表（適宜）							
	平日宿直（1回/週）、土日の日直・宿直（1回/月）							

参考として総合診療科、内科研修を例示。

問い合わせ先

担当者 職員係長 古越 大介

TEL 0257-22-2126

FAX 0257-24-9812

E-mail 225-syokuinkkc@mail.hosp.go.jp

ホームページ <http://www.niigata-nh.go.jp/html/bosyuu/kensyu.html>

魚沼基幹病院



所在地

新潟県南魚沼市浦佐4132番地

TEL

025-777-3200

ホームページ

<http://www.uonuma-kikan-hospital.jp/>

標榜診療科目

総合診療科、循環器内科、内分泌・代謝内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ・膠原病科、呼吸器・感染症内科、消化器内科、神経内科、精神科、小児科、消化器外科・一般外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科^(※)、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科、矯正歯科、歯科口腔外科、病理診断科

※現在診療を行っておりません

病床数

454床

医師数

常勤：85人 非常勤：6.3人（2020年4月1日現在）

患者数

入院（R1年度）年間延べ患者数 101,223人 1日平均患者数 276.5人

外来（R1年度）年間延べ患者数 201,597人 1日平均患者数 839.9人

病院の特徴等

従来医療過疎圏であった魚沼圏域に、地域医療再編の要として新たに作られた病院である。当院は、従来隣接する医療圏に送らざるを得なかった三次救急患者や高度医療を必要とする患者を受け入れる。また、今回の再編で慢性期病床へ転換した周辺病院、開業医および介護施設などと協力し、「地域全体でひとつの病院」としてこの地域で完結できる医療を目指している。

アピールポイント

- 新潟大学魚沼地域医療教育センター併設による診療機能向上
- 24時間対応ER型救命救急・外傷センター開設
- 総合診療専門医、総合診療の知識、技術、使命感を持った専門医の養成

施設等の紹介

院内保育所、職員食堂、売店（セブンイレブン）完備

病院隣接地の研修医宿舎（1Kまたは1DK）を使用可能。

産婦人科研修プログラム

■ 研修概要

地域周産期母子医療センターとしてNICUを備え、合併症妊娠、多胎妊娠などを管理することが可能で、高度な周産期医療を行っている。婦人科腫瘍領域では婦人科悪性腫瘍に対する手術、化学療法、放射線治療を行い、婦人科良性疾病に対しては、幅広く腹腔鏡下手術を行っている。更年期・思春期の外来患者数も多く、女性のヘルスケア領域の研修を行うことが可能である。また、当院では体外受精・顕微授精を施行していないが、連携施設での生殖・内分泌領域の研修が可能である。

■ アピールポイント

- 3D腹腔鏡手術システムを用いた腹腔鏡下手術（腹腔鏡下子宮体癌根治手術・腹腔鏡下仙骨腔固定術を含む）
- 適応を満たした場合は骨盤位経腔分娩

■ 特色

新潟県内に専門領域が異なる12の連携施設が存在し、1年あるいは6ヶ月毎に研修することで、様々な地域で多くの指導医のもとでの研修が可能である。

指導医からのメッセージ

当院は2015年6月に開院し、新潟県魚沼地域の医療の中心的役割を果たしている病院です。自然に囲まれた当院で、多くの指導医と一緒に、楽しく産婦人科の研修を行いましょう。



■ 連携施設の病院名

新潟市民病院 済生会新潟病院 新潟県立がんセンター新潟病院 長岡赤十字病院 長岡中央総合病院 立川総合病院 新潟県立新発田病院 新潟県済生会三条病院 新潟県立中央病院 村上総合病院 上越総合病院 佐渡総合病院

研修期間 3年

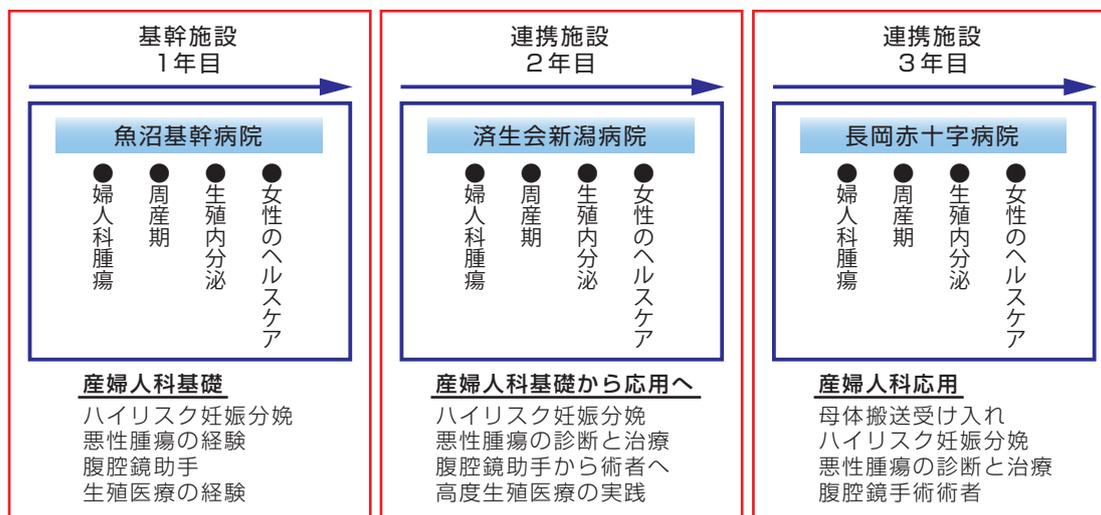
2021年度募集人数 2名

選考方法 書類

プログラム責任者 診療部産婦人科 加嶋 克則

■ 研修コース

①基本コースの例



②週間スケジュール

時間	8:35	9:00	13:00	17:00
曜日	病棟連絡会	手術・病棟実習	手術・病棟実習	病棟連絡会
月曜日	病棟連絡会	手術・病棟実習	手術・病棟実習	病棟連絡会
火曜日	病棟連絡会	外来・病棟実習	外来・病棟実習	周産期カンファレンス
水曜日	病棟連絡会	手術・病棟実習	手術・病棟実習	病棟連絡会
木曜日	病棟連絡会	外来・病棟実習	外来・病棟実習	病棟連絡会
金曜日	病棟連絡会	手術・病棟実習	手術・病棟実習	病棟連絡会

■ その他参考情報

- 日本周産期・新生児医学会 母体・胎児認定指定施設
 - 日本産科婦人科内視鏡学会 認定研修施設
 - 新潟県医師会母体保護法施設
- * 日本周産期新生児医学会母体胎児専門医・日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医・日本生殖医学会生殖医療専門医・日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医（腹腔鏡）・母体保護法指定医が常勤

問い合わせ先

担当者 産婦人科部長 加嶋 克則

TEL 025-777-3200

FAX 025-777-5067

E-mail kashimak@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ www.jsog.or.jp

県立十日町病院



所在地

十日町市高田町三丁目南32-9

TEL

025-757-5566

ホームページ

<http://www.tokamachi-hosp-niigata.jp/>

標榜診療科目

内科、脳神経内科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科

病床数

275床

医師数

常勤：22人 非常勤：3.6人（2020年4月1日現在）

患者数

入院（R1年度）	年間延べ患者数	73,919人	1日平均患者数	202.5人
外来（R1年度）	年間延べ患者数	106,840人	1日平均患者数	445.2人

病院の特徴等

当院は新潟県内の中山間地にあり、越後妻有地区（十日町市、津南町、長野県栄村）に住む68,000人の命を預かる地域中核病院です。以前から救急告示病院として全科対応の救急医療を実践していましたが、中越地震を契機として、災害拠点病院としてのさらなる拡充、DMAT配備、2016年には院内に十日町地域救急ステーションが設置されました。地域の救急を一手に担う自負があり、科の垣根を越えて診療にあたる毎日です。

アピールポイント

- 十日町市から年額100万円の貸与制度（1年間勤務で返還免除）
- 院内ステーションを通じ、救急隊との密な連携
- 断らない救急、地域救急の8割が当院へ

施設等の紹介

- 研修医専用室、Wi-Fi完備、院内にコンビニあり
- Up To Date、医中誌Web利用可能
- 家賃補助あり
- 十日町市から年額100万円の研究資金補助（最大3年間）あり。
- 成果物不要で、1年間十日町市内に勤務すると返額が免除される制度あり。

総合診療専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟県立十日町病院総合診療専門研修プログラムは病院、診療所などで活躍する高い診断・治療能力を持つ総合診療専門医を養成するために、ER型救急や急性期専門各科を有する地域拠点病院のなかで、専門各科と協働し全人的医療を展開しつつ、自らのキャリアパスの形成や地域医療に携わる実力を身につけていくことを目的として創設されました。専攻医は、日常遭遇する疾病と傷害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供するとともに、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看とりなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組み、絶えざる自己研鑽を重ねながら人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応する総合診療専門医になることを目指します。

■ アピールポイント

- 新潟県内の複数の県立病院と連携
- 個人のニーズに合わせて施設を選択できる
- 救急症例8,000件/年（うち救急車2,000件/年）と豊富な症例

■ 特色

豊富な一般症例・救急症例を持ち、救急に強い総合診療専門医を目指すことができます。その上で、県内の救命センターを有する施設と連携しているため更なる高度な救急医療を学ぶことができます。また、小規模病院での研修では医療・介護・福祉・行政との連携を学び、地域医療を最先端で学ぶことができます。

指導医からのメッセージ

各臓器別専門医だけでなく、ゲートキーパーのスペシャリストが必要とされる時代となりました。一生学びは終わりませんが、当プログラムを通して全人的に患者さんを診ることのできる医師と一緒に目指しましょう。

（プログラム責任者 齋藤 悠）

■ 連携施設の病院名

新潟大学医歯学総合病院 県立新発田病院 県立中央病院 魚沼基幹病院 県立吉田病院 県立坂町病院 県立松代病院
県立妙高病院 県立津川病院

研修期間 3年

R2募集人数 2名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 内科部長 齋藤 悠

■ 研修コース

①基本コース

コース例1 (十日町圏域重点)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
後期研修 1年目	新潟県立十日町病院					新潟県立十日町病院						
	総合診療専門研修Ⅱ											
後期研修 2年目	新潟県立十日町病院					新潟県立十日町病院						
	内科											
3年目後期 研修	新潟県立十日町病院		新潟県立松代病院			魚沼基幹病院						
	小児科		総合診療専門研修Ⅰ			救急						

コース例2 (多医療圏)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
後期研修 1年目	新潟県立新発田病院											
	内科				小児科				救急科			
後期研修 2年目	新潟県立津川病院				新潟県立坂町病院							
	総合診療専門研修Ⅰ				内科							
3年目後期 研修	新潟県立十日町病院											
	総合診療専門研修Ⅱ											

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金	土	日
9:00-13:00 総合診療外来							
9:00-13:00 病棟業務+救急当番							
14:00-18:00 病棟業務 (午後検査) 週1回+救急当番		14:00-16:00 総回診 (内科と合同)		17:00-18:00 カルテ診察 (内科と合同)			
平日内科拘束 or 宿直 (1-2回/週)、 土日直・宿直or拘束 (2回/月)							

問い合わせ先

担当者 庶務課 滝沢 哲也

TEL 025-757-5566

FAX 025-752-3955

E-mail shomu@tokamachi-hosp-niigata.jp

県立中央病院



所在地

新潟県上越市新南町205

TEL

025-522-7711 (代表)

ホームページ

<http://www.cent-hosp.pref.niigata.jp/>

標榜診療科目

内科、循環器内科、脳神経内科、消化器内科、小児科、外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、精神科、麻酔科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、形成外科、病理診断科、救急科

病床数

530床 (一般524床、感染症6床)

医師数

常勤：108人 非常勤：1.6人 (2020年4月1日現在)

患者数

入院 (R1年度)	年間延べ患者数	160,492人	1日平均患者数	438人
外来 (R1年度)	年間延べ患者数	270,023人	1日平均患者数	1,125人

病院の特徴等

新潟県上越地方最大の基幹病院で、救命医療、癌医療、脳血管障害、周産期・新生児医療、人工透析などの地域最終医療センターの役割を果たしています。特殊施設として、救命救急センター (ICU 8床・CCU 4床)、NICU (6床)、無菌治療室 (2床)、人工透析室 (40床) を持ち、CT、MRI、ガンマカメラ、PET-CT、リニアック、体外衝撃波結石破碎装置などの高度医療機器を備えています。また、内科学会、外科学会など18件の学会指定の教育病院となっています。



アピールポイント

- ・高度先進医療への対応
 - ・がん医療～無菌室の設置、定位放射線治療装置、外来化学療法室の設置
 - ・新生児医療～NICUの設置
 - ・手術部門～無菌手術室を含む9室の手術室
- ・救命救急センターの設置
 - ・1次から3次救急
 - ・災害拠点病院としてDMATも活躍
- ・機能的な部門間の連絡体制
 - ・電子カルテシステム整備
 - ・地域連携センター設置



施設等の紹介

- ・公舎提供あり (民間アパート・マンション)
- ・食堂・売店あり (弁当宅配利用可)
- ・図書室 (24時間開放、国内図書 約4,000冊、国外図書 約1,000冊、国内雑誌 約100種類、国外雑誌53種類、Up To Date、文献データベース、教育用コンテンツ)
- ・院内保育所あり



内科専門研修プログラム

■ 研修概要

本プログラムは、新潟県上越医療圏の中心的な急性期病院である新潟県立中央病院を基幹施設として、新潟県上越医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て新潟県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として新潟県全域を支える内科専門医の育成を行います。

研修期間は基幹施設2年間+連携施設1年間の3年間になります。

■ アピールポイント

- 上越地域の基幹病院での急性期症例を中心とした内科研修
- 高齢化社会を反映した内科各分野の幅広い研修と専門研修
- 地域連携病院での慢性期疾患の管理と病病連携

■ 特色

本プログラムは、新潟県上越医療圏の中心的な急性期病院である新潟県立中央病院を基幹施設として、新潟県上越医療圏にある連携施設（厚生連上越総合病院、県立柿崎病院）および新潟県新潟市にある新潟大学医歯学総合病院とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。

指導医からのメッセージ

新潟県立中央病院は内科各分野および救急医療の専門医が内科全般を幅広く実践的に研修指導します。また内科全体での検討会を週1回開催し、診断困難症例、難治症例などに対して各分野の専門医が意見を出し合いながら、症例検討を行っています。

■ 連携施設の病院名

厚生連上越総合病院 新潟県立柿崎病院 新潟大学医歯学総合病院

研修期間 3年

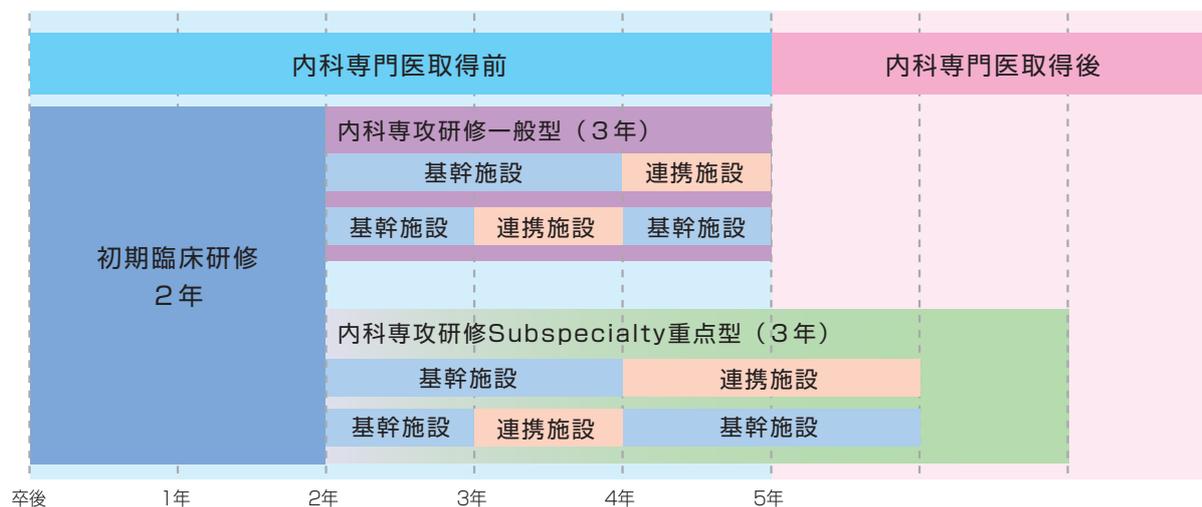
2021年度募集人数 5名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 内科 副院長 永井 孝一

■ 研修コース

①基本コース



②週間スケジュールの例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	内科各科 朝カンファレンス (Subspecialty)						担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/講習会/学会参加など
	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療		
	内科外来診療 (総合/新患)	内科検査 (各診療科 Subspecialty)	内科外来診療 (各診療科 Subspecialty)	内科検査 (各診療科 Subspecialty)	内科検査 (各診療科 Subspecialty)		
午後	入院患者診療	内科検査 (各診療科 Subspecialty)	内科検査 (各診療科 Subspecialty)	入院患者診療	救命救急センターオンコール		
			内科総合検討会	CPC/講習会	講習会/研究会/講演会		
	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直など						

■ その他参考情報

新潟県立中央病院内科専門研修プログラムのほかに、新潟大学が実施しているオール新潟内科専門研修プログラムにも参加しています。現在新潟大学から内科専門医研修目的で7名の内科医師が研修中です。

問い合わせ先

担当者 庶務課 中村 翼

TEL 025-522-7711

FAX 025-521-3720

E-mail shomu@cent-hosp.pref.niigata.jp

ホームページ http://www.cent-hosp.pref.niigata.jp/chuumoku/senkoui_boshu.html

麻酔科専門研修プログラム

■ 研修概要

本研修プログラムでは、専門研修基幹施設である新潟県立中央病院を核としながら、専門研修連携施設A（新潟大学医歯学総合病院、新潟県立新発田病院、新潟県立がんセンター新潟病院、新潟市民病院、済生会新潟病院、長岡中央総合病院）、および専門研修連携施設B（長岡赤十字病院、魚沼基幹病院）において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供するとともに、下記①～⑤を併せ持つ麻酔科専門医の育成を目指します。

■ アピールポイント

- 症例数が非常に豊富なプログラムであるため、専攻医全員が偏りのない麻酔管理を経験することができる
- 超音波ガイド下神経ブロックおよび中心静脈穿刺、経食道心エコー（成人）に関し、優れた指導医が在籍している
- 臨床麻酔を背景にもった基礎研究に早期から触れ、それらの基本的な知識について学習・指導を受ける機会も選択可能

■ 特色

新潟県上越地区の三次救急病院で新潟県立中央病院麻酔科専門研修プログラムの基幹研修施設にて主な研修を行います。症例が豊富で、高齢者の大腿骨近位部骨折から新生児の麻酔まで偏りのない研修が可能です。

指導医からのメッセージ

当プログラムでは、豊富な症例から様々な研修が可能です。専攻医をお待ちしています。

■ 連携施設の病院名

〈専門研修連携施設A〉

新潟大学医歯学総合病院 新潟県立新発田病院 新潟県立がんセンター新潟病院 新潟市民病院 済生会新潟病院 長岡中央総合病院

〈専門研修連携施設B〉

長岡赤十字病院 魚沼基幹病院

研修期間 4年

2021年度募集人数 1名

選考方法 面接

プログラム責任者 麻酔科 渡邊 逸平

■ 研修コース

①基本コース

	A (標準)	B (ペイン)	C (集中治療)
初年度 前期	新潟県立中央病院	新潟県立中央病院	新潟県立中央病院
初年度 後期	新潟県立中央病院	新潟県立中央病院	新潟県立中央病院
2年度 前期	新潟県立中央病院	新潟大学 (ペイン含む)	新潟県立中央病院
2年度 後期	新潟県立中央病院	新潟大学 (ペイン・緩和)	新潟県立中央病院
3年度 前期	新潟大学 (ペイン含む)	新発田病院 (ペイン含む)	新潟大学
3年度 後期	新潟大学	新発田病院 (ペイン含む)	新潟大学
4年度 前期	魚沼基幹病院	新潟県立中央病院 (ペイン重点)	新潟大学 (集中治療)
4年度 後期	魚沼基幹病院	新潟県立中央病院 (ペイン含む)	新潟大学 (集中治療)

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直	拘束番		拘束番			拘束番	

問い合わせ先

担当者 庶務課 中村 翼

TEL 025-522-7711

FAX 025-521-3720

E-mail shomu@cent-hosp.pref.niigata.jp

ホームページ http://www.cent-hosp.pref.niigata.jp/chuumoku/masuika_program.html

総合診療科専門研修プログラム

■ 研修概要

本プログラムは新潟県上越地方を中心として、継続的にその地域に関わり、県立病院群を中心とした医療連携などを通し、地域の実情を理解し、地域のニーズに即した医療を構築・実践できる医師を養成します。ここで養われる力は、場所や状況が変わっても同じように発揮できるものです。また、小規模・地域医療病院から広域基幹・地域医療支援病院、外来から入院まで、幅広い診療の場で、大部分の健康問題に対応する実践的な診療能力を身につけます。人間中心の医療・ケア、包括的統合アプローチ、連携重視のマネジメント、地域志向アプローチなど、総合診療医・家庭医として重要な能力とともに、医師としてのプロフェッショナリズムや人間性を重視し、継続的に養います。

■ アピールポイント

- 各診療科、病院間の垣根が低く、コンサルテーションしやすい環境です。
- 新潟県立中央病院は上越地方の基幹病院であり、多種多様な疾患を診療できます。
- 研修内容は、希望に応じて柔軟に対応可能です。

■ 特色

新潟県立中央病院は上越地方の平野部に位置する救急救命センターとNICUを併設した530床の広域基幹・地域医療支援病院で、高度医療や災害医療を行うとともに、周辺地域の二次医療の中心を担っています。新潟県立柿崎病院、新潟県立妙高病院、新潟県立松代病院の3病院は高齢化・過疎化が進んだ上越地方の海岸部、豪雪山間部に位置する地域医療病院です。高齢化率30～40%台のへき地を抱え、地域に特徴的な医療を展開しその中核を担っています。これら4つの県立病院群を中心に、他の病院、診療所・開業医と連携し、上越地方全体の地域医療を構築しています。また、上越圏域外の病院も研修病院に含み、新潟県の医療を広く見据える研修も可能となっています。

指導医からのメッセージ

上越は新潟県の南西に位置し、北陸新幹線などにより三大都市圏との交通ネットワークが整った地方です。四季の変化、美しい景観や多様な自然に恵まれ、とてもいいところです。生活も楽しみながら、私たちと一緒に働いてみませんか。

■ 連携施設の病院名

県立柿崎病院 県立妙高病院 県立松代病院 県立津川病院 県立十日町病院 厚生連佐渡総合病院 県立新発田病院 県立がんセンター新潟病院 県立精神医療センター 厚生連糸魚川総合病院 佐渡市立両津病院

研修期間 3年

2021年度募集人数 1-2名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 内科 古川 俊貴

■ 研修コース

①基本コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	新潟県立中央病院・十日町病院・柿崎病院・佐渡総合病院のいずれか										
	領域	内科										
2年目	施設名	新潟県立中央病院・十日町病院（小児科、総診Ⅱ）のいずれか										
	領域	小児科	救急				総合診療Ⅱ					
3年目	施設名	新潟県立柿崎病院・妙高病院・松代病院・津川病院・佐渡市立両津病院のいずれか										
	領域	総合診療Ⅰ										

希望や事情により、プログラムに準ずる範囲でローテーションは変更・休止可能です。

研修先は、随時更新しています。詳細はお問い合わせ下さい。

②週間スケジュールの例

総診Ⅱの一例

希望に応じて、柔軟に調整可能です。

	月	火	水	木	金	土・日
8:30-9:00	毎朝カンファで症例検討					適宜拘束番、 月0-1回程度 日直
9:00-12:00	外来	上部消化管 内視鏡	病棟	外来	腹部工コー	
12:45-17:15	病棟	他科入院症例 の往診	自由研修	病棟	検討会/抄読会	
夜	適宜拘束番、月1-2回程度当直					

■ その他参考情報

令和2年度は1名が研修中です。

問い合わせ先

担当者 庶務課 中村 翼

TEL 025-522-7711

FAX 025-521-3720

E-mail shomu@cent-hosp.pref.niigata.jp

ホームページ http://www.cent-hosp.pref.niigata.jp/chuumoku/senkoui_boshu.html

上越総合病院



所在地

新潟県上越市大道福田616番地

TEL

025-524-3000（内線3701）

ホームページ

<https://joetsu-hp.jp/>

標榜診療科目

内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、循環器内科、外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科、腎・糖尿病内科、放射線治療科、乳腺外科、歯科・口腔外科

病床数

313床

医師数

常勤：72人 非常勤：7.94人（2020年4月1日現在）

患者数

入院（H30年度）	年間延べ患者数	93,439人	1日平均患者数	255.9人
外来（H30年度）	年間延べ患者数	208,496人	1日平均患者数	838.0人

病院の特徴等

新潟県上越二次医療圏の急性期基幹病院です。急性期のみならず病院の理念に「医療を通じて上越地域の発展に貢献する」と謳い、地域に根付いた医療を実践しています。地域のニーズに応え、救急部門では一次から二次、一部三次救急まで幅広い救急医療を提供しています。また、教育研修センターを設置して職種を問わず医療人の人材教育に力を入れています。初期研修、専門研修でも、研修の成果が挙がるように強力にサポートします。



アピールポイント

- 多大学から集まる医局：各診療科の垣根が低く診療連携が取りやすい環境です。多様な考え方から新しい文化が生まれます。
- 福利厚生が充実：職員の健康管理がきちんとなされています。同好会活動（テニス・野球・バトミントン・華道等）や院内親睦会行事も盛んです。
- 女性医師サポートあり：院内保育所があります。また他の保育所利用やベビーシッターに係る費用の助成制度もあります。専用の休憩スペース、シャワー室があります。



施設等の紹介

- 院内は明るく清潔な働きやすい環境です。
- 研修に必要な図書室やインターネット環境（電子ジャーナル）などを完備しています。文献検索サイトもあります。
- 院内保育所があり、女性医師の働き方をサポートします。
- 教育研修センターを有し、卒前卒後の医師教育や職員のスキルアップを支援しています。
- 住居は、病院から徒歩圏内で斡旋いたします。病院借上げ住宅ですので、面倒な手続きは不要です。



内科専門研修プログラム

■ 研修概要

本プログラムは、富山県、長野県に接して新潟県西南部に位置する上越糸魚川医療圏の中心的な急性期病院の一つである上越総合病院を基幹施設として、上越糸魚川医療圏ならびにこれまで連携を行ってきた新潟県、富山県、長野県の連携施設・特別連携施設とともに研修を行います。

専攻医は本プログラム専門研修施設群で3年間（基幹施設1年+連携施設及び特別連携施設1年+選択1年）に豊富な経験を持つ指導医の適切な指導の下で研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を行います。研修を通じて標準的かつ総合的な内科的医療の実践に必要な知識・技能・態度を身につけます。また、個人のサブスペシャリティ専攻に合わせ、より習熟した専門領域の研修も行われます。

■ アピールポイント

- 上越総合病院では医師派遣が多大学の医局からあり、文化の違いに刺激があり、診療科の垣根が低く診療連携が取りやすい。
- 連携施設が多く、研修の場の選択肢が広がる。
- 教育研修センターが研修の成果が挙がるようサポートします。

■ 特色

基幹施設である上越総合病院では循環器、呼吸器、消化器、神経、腎・糖尿病のサブスペシャリティをはじめ、コモンディーズから老年医療、複数の病態を併せ持つ複雑な症例、診断困難症例などを総合内科診療科で経験可能です。厚生連病院として地域に根ざした第1線の医療を行っており、医療を通じて上越地域の発展に貢献するという理念のもと、急性期から慢性期まで幅広い領域に係る研修ができます。救急は二次救急、一部三次救急までを担っており、救急車受入実績は2017年度 2,790件、2018年度 2,709件です。walk-in救急患者は2017年度 3,905件、2018年度 4,072件です。半数程度は内科系救急であり、十分な症例を経験できます。

連携施設は新潟、富山、信州の各大学病院に加え、近隣の中核医療施設で構成され、基幹施設で経験が困難な領域の研修や、サブスペシャリティー研修の場となります。特別連携施設は地域の第一線での医療を行っている近隣施設で構成され、主に地域医療の研修の場となります。

教育研修センターを有し「学習者第一」の視点で卒前卒後の医師教育や職員のスキルアップを支援しています。

指導医からのメッセージ

当院は上越医療圏の基幹病院として救急医療から急性期疾患、そして慢性期疾患（高齢者、終末期）、地域医療といった様々な医療現場を経験することができます。

また、総合診療にも力を入れており、ジェネラリストを目指す研修も可能です。病院全体で若手医師の育成に取り組んでいる当院での研修をぜひご検討ください。

■ 連携施設の病院名

連携施設：新潟県立中央病院 柏崎総合医療センター 新潟大学歯学総合病院 富山大学附属病院 信州大学医学部附属病院 糸魚川総合病院

特別連携施設：上越地域衣装センター病院 知命堂病院 けいなん総合病院 新潟県立柿崎病院 新潟県立妙高病院 新潟県立松代病院

研修期間 3年

2021年度募集人数 3名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 副院長・内科部長 佐藤 知巳

■ 研修コース

①基本コース

○内科総合コース

(ホスピタリストコースと地域医療コースがあります)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科1		内科2		内科3		内科4		内科5		内科6	
	外来診療											
基幹施設（上越総合病院）												
2年次	内科7				地域医療							
	外来診療は連携施設の状況で考慮						外来診療					
	連携施設						特別連携施設					
3年次	選 択											
	外来診療は基幹施設では推奨、連携施設・特別連携施設では施設毎に判断											
	基幹施設（上越総合病院）または連携施設、特別連携施設のいずれか											

○内科サブスペシャリティコース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科1		内科2		内科3		内科4		内科5		内科6	
	外来診療											
基幹施設（上越総合病院）												
2年次	内科7				地域医療							
	外来診療は連携施設の状況で考慮						外来診療					
	連携施設						特別連携施設					
3年次	サブスペシャリティ研修											
	外来診療は基幹施設では推奨、連携施設では施設毎に判断											
	基幹施設（上越総合病院）または連携施設											

②週間スケジュールの例

上越総合病院（総合内科・救急）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	朝カンファレンス	総回診	朝カンファレンス	抄読会	朝カンファレンス	・必要に応じて担当入院患者診療 ・拘束担当医の場合病棟患者診療/オンコールなど ・講習会・学会参加 ・日当直	
	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療		
	ER診療	内科外来	ER診療	内科外来	ER診療		
午後	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療		
	内科時間外外来診療	ER診療	病棟他職種カンファレンス	ER診療	内科時間外外来診療		
	症例検討会	症例検討会	症例検討会	症例検討会	症例検討会		
夜	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直など						

- ・診療科ごとにスケジュールは異なります。
- ・スケジュール作成に際しては、専攻医の希望を考慮し、相談のうえ決定します。
- ・入院患者診療には、各診療科の入院患者の診療を含みます。
- ・外来患者診療は、一般内科外来でプログラム開始時に日程を決めます。ローテートする診療科との時間的な調整が必要な場合には日程の変更を考慮することがあります。
- ・日当直や夜間・休日の待機当番などは内科の一員として担当します。これら時間外の研修に際しては、過重労働にならないよう代休などの配慮をします。基幹施設である上越総合病院は週休二日制です。
- ・連携施設における時間外研修は、施設の状況によって異なります。
- ・CPC、地域参加型カンファレンス、各種講習会などは随時開催され、事前にアナウンスをします。学会や院外の研究会などは、各々の開催日に参加します。

問い合わせ先

担当者 教育研修センター 佐藤 真由美

TEL 025-524-3000 (内線3702)

FAX 025-524-3002

E-mail rinsho@joetsu-hp.jp

ホームページ https://joetsu-hp.jp/latter_resident/

麻酔科専門研修プログラム

■ 研修概要

上越総合病院を責任専門研修基幹施設として、専門研修連携施設Aの富山大学附属病院、富山県立中央病院、富山赤十字病院、専門研修連携施設Bの富山市民病院、黒部市民病院、済生会富山病院、済生会高岡病院、糸魚川総合病院など主に新潟県上越地区と富山県内の施設を中心にして、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

■ アピールポイント

- 当院では一般診療でよくある症例の麻酔を幅広く経験できます。全身麻酔に硬膜外麻酔や超音波ガイド下神経ブロックを積極的に併用した、術後鎮痛を重視した麻酔を学べます。
- 連携施設の富山大学病院では小児心臓手術の麻酔症例数が大変豊富です。小児心臓麻酔のスペシャリストを育てます。
- 当院ならびに連携施設では、出産、育児をしながら麻酔科専門医習得を目指す医師に「ママさん麻酔科医コース」が整備されています。もちろん男性医師が選択することも可能です。(http://www.med.u-toyama.ac.jp/anesth/clin_training.html)

■ 特色

- 専攻医がそれぞれの経験目標に必要な麻酔症例数を達成できるように柔軟に対応できるローテーションを構築する。
 - ①すべての領域を万遍なく回る基本ローテーション
 - ②小児診療（特に複雑心奇形修復術の麻酔管理）を中心としたローテーション
 - ③ペインクリニックを中心に学ぶローテーション
 - ④集中治療を中心に学ぶローテーション
 などから自由に選択可能。

指導医からのメッセージ

当院は富山大学を中心とした連携施設群のひとつです。当院での麻酔科研修は1年目に麻酔の基本的な手技について学び、それ以外の2年間は専攻医がそれぞれの経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、連携施設での研修も含め、専攻医の希望に添った柔軟なローテーションを構築できます。

■ 連携施設の病院名

富山大学附属病院 富山県立中央病院 富山赤十字病院 富山市民病院 黒部市民病院 済生会富山病院 済生会高岡病院 糸魚川総合病院

研修期間 3年

2021年度募集人数 3名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 麻酔科部長 朝日 丈尚

■ 研修コース

①基本コース

	A (標準)	B (小児・心臓)	C (ペインクリニック)	D (集中治療)
1年目	上越総合病院	上越総合病院	上越総合病院	上越総合病院
2年目	富山赤十字病院	富山県立中央病院	富山市民病院	富山県立中央病院
3年目	富山県立中央病院 または富山大学付属病院	富山大学付属病院	富山大学付属病院	富山大学付属病院 もしくは富山県立中央病院
4年目	上越総合病院	富山大学付属病院	富山県立中央病院	富山大学付属病院 (集中治療)

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	術前・術後 診察	手術室	術前・術後 診察	術前外来 ペインクリ ニック	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み

認定医（標榜医）取得後は、週1回～2回の麻酔当番（いわゆるon call）があり、夜間の実労働次第で翌日の勤務軽減を考慮する。

問い合わせ先

担当者 教育研修センター 佐藤 真由美

TEL 025-524-3000 (内線3702)

FAX 025-524-3002

E-mail rinsho@joetsu-hp.jp

総合診療専門研修プログラム

■ 研修概要

本プログラムでは、7つの資質・能力（①包括的総合アプローチ ②一般的な健康問題に対する診療能力 ③患者中心の医療ケア ④連携重視マネジメント ⑤地域包括ケアを含む地域志向アプローチ ⑥公益に資する職業規範 ⑦多様な診療の場に対する能力）を獲得することを目指しています。

当院は、総合診療科を有しており、臓器別でない病棟診療（高齢入院患者や心理・社会・倫理的問題を含む複数の健康問題を抱える患者の包括ケア、癌、非癌患者の緩和ケア等）と臓器別でない外来診療（救急や複数の健康問題をもつ賢者への包括的ケア）を提供することができる総合診療専門医の育成を目指します。

■ アピールポイント

- 上越総合病院では医師派遣が多大学の医局からあり、文化の違いに刺激があり、診療科の垣根が低く診療連携が取りやすい。
- 連携施設が多く、研修の場の選択肢が広がる。
- 教育研修センターが研修の成果が挙がるようサポートします。

■ 特色

新潟県の南西部に位置する上越地域は、北陸新幹線開通を機に首都圏からの高齢者の移住先として注目されています。また上越地域は、新潟県の中でも高齢化や過疎化が進んでおり、包括的視点からの医療ニーズが極めて高くなっています。当プログラムは、基幹施設である上越総合病院と新潟県および北陸3県の医療機関を含む広域な連携施設でも研修が展開されます。

指導医からのメッセージ

2016年4月より当院の総合診療科で勤務しています。入院患者の年齢層はどんどん高くなっています。高齢者の診療の際、決まって困ることは治療に手間取ったわけではないのに①立てなくなる、②肺炎を起こす、③尿道カテーテル抜去後自尿が出なくなる、④夜大騒ぎをするのです。そのたびに専門医に伺いを立てられません。必然的に総合診療に仕事やってきます。まさにこの地域が高齢化医療の最先端です。

総合診療科は、ドクターGのように難解な病気を一発で診断できるようになることも大事ですが、高齢者医療でよく遭遇する上記問題を面倒くさいと言わない医師に育ってもらいたいと日々後輩の指導を行っています。

■ 連携施設の病院名

新潟県厚生連糸魚川総合病院 新潟県厚生連けいなん総合病院 新潟県立柿崎病院 新潟県立妙高病院 新潟県立松代病院
上越地域医療センター病院 三交病院 湯沢保健医療センター 清華ファミリークリニック 揚石医院内科小児科循環器科
新潟大学医学総合病院 北陸総合診療コンソーシアム連携病院^(※)

※北陸総合診療コンソーシアム連携施設（38施設）

公立穴水総合病院 恵寿ローレルクリニック 金沢大学附属病院 金沢医科大学病院 石川県立中央病院 城北病院 市立敦賀病院
珠洲市総合病院 市立輪島病院 市立輪島病院船倉診療所 公立宇出津総合病院 公立穴水総合病院児診療所 公立能登総合病院
恵寿総合病院 町立宝達志水病院 公立羽咋病院 河北中央病院 金沢市立病院 国立病院機構金沢医療センター 公立松任石川中央病院 公立つるぎ病院 独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院 石川県済生会金沢病院 北陸病院 金沢赤十字病院 浅ノ川総合病院 けんろく診療所 紺谷内科婦人科クリニック 小松市民病院 能美市立病院 芳珠記念病院 加賀市医療センター 寺井病院 富山協立病院 水橋診療所 光陽生協クリニック 光陽生協病院 つるが生協診療所

研修期間 3年

2021年度募集人数 3名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 総合診療科部長 大堀 高志

■ 研修コース

①基本ローテーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科											
	上越総合病院											
2年目	総合診療専門研修Ⅱ						小児科			救急科		
	上越総合病院						上越総合病院					
3年目	総合診療専門研修Ⅰ						総合診療専門研修Ⅱ					
	連携施設						上越総合病院					

※日本専門医機構認定プログラムでは、内科研修を1年以上、小児科、救急科を必須の研修科としています。

※総合診療専門研修はへき地で1年以上の研修を行うこととなりますが、基幹施設のある上越市、連携施設がある糸魚川市、十日町市、その他北陸総合診療コンソーシアム内においてもへき地と定められた研修施設は複数あります。

②週間スケジュールの例

基幹施設（上越総合病院）総合診療科（総合診療専門研修Ⅱ）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30	モーニングカンファレンス						
8:30-12:00	総合診療科外来						
8:30-12:00	病棟業務						
13:00-16:00	救急外来						
13:00-16:00	病棟業務						
16:00-17:00	症例カンファレンス・抄読会						
平日宿直2-3回/月、土日の日直・宿直1-2回/月							

午前中の総合診療科外来の担当曜日、午後の救急外来担当曜日は、他の専攻医の状況に応じて、研修開始前にプログラム統括責任者と協賛のうえ決定します。これらの担当でない曜日は病棟業務となります。

内科（循環器内科を一例として示す）

	月	火	水	木	金	土	日
7:30-8:30	総回診						
8:30-12:00	外来（主として新患を担当）						
8:30-12:00	病棟業務						
13:00-16:00	午後検査						
13:00-16:00	病棟業務						
16:00-17:00	症例カンファレンス						
平日宿直2-3回/月、土日の日直・宿直1-2回/月							

外来の曜日は変更する場合があります。

■ その他参考情報

日本病院会認定「上越総合病院 病院総合医育成プログラム」を有しています。

問い合わせ先

担当者 教育研修センター 佐藤 真由美

TEL 025-524-3000（内線3702）

FAX 025-524-3002

E-mail rinsho@joetsu-hp.jp

ホームページ https://joetsu-hp.jp/latter_resident/

糸魚川総合病院



所在地

新潟県糸魚川市竹ヶ花457番地1

TEL

025-552-0280

ホームページ

<http://www.itoigawa-hp.jp/>

標榜診療科目

内科・循環器内科・消化器内科・外科・呼吸器外科・心臓血管外科・消化器外科・整形外科・脳神経外科・精神科・小児科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・救急科・歯科

病床数

261床

医師数

常勤：43人 非常勤：7.6人（2019年4月1日現在）

患者数

入院（H30年度）	年間延べ患者数	87,261人	1日平均患者数	239人
外来（H30年度）	年間延べ患者数	156,326人	1日平均患者数	643人

病院の特徴等

糸魚川総合病院は糸魚川市で唯一の総合病院です。地域の診療所や福祉施設と協力して地域住民の健康と福祉、保健活動を行っており、多くの紹介患者を受け入れるとともに、市内で発生する救急件数の約9割は当院へ搬送され、この半ば隔絶された地域において2.5次までの医療を精力的に地域住民に提供しています。領域は小児から高齢者までのあらゆる世代に及び、しかも高齢化率が36%という高齢化地域であるために複数の疾患を併せ持つ患者を診療することが多く、総合診療医は、この地域にはなくてはならない存在です。研修に当たっては、「はつらつ健康都市」を提唱している糸魚川市、そこに居住する地域住民、JAひすいを含む各種団体、ボランティアや当院の全職員等の理解と協力のもとで研修できる環境を整えています。

アピールポイント

- ・内科においては、循環器、消化器、腎臓病などの診療グループを持ち、地域への専門医療を提供
- ・小児科においては、乳幼児健診、予防接種、幅広い外来診療、病棟診療を提供
- ・救急部においては、重度外傷への救急医療からER救急まで幅広い救急医療を提供している。

施設等の紹介

災害拠点病院
へき地中核病院
介護老人保健施設併設

総合診療専門研修プログラム

■ 研修概要

本研修プログラムでは、①総合診療専門研修Ⅰ（外来診療・在宅医療中心）、②総合診療専門研修Ⅱ（病棟診療、救急診療中心）、③内科、④小児科、⑤救急科の5つの必須診療科と選択診療科で3年間の研修を行います。このことにより、1. 包括的統合アプローチ、2. 一般的な健康問題に対する診療能力、3. 患者中心の医療・ケア、4. 連携重視のマネジメント、5. 地域包括ケアを含む地域志向アプローチ、6. 公益に資する職業規範、7. 多様な診療の場に対応する能力という総合診療医に欠かせない7つの資質・能力を効果的に習得することが可能になります。

本研修プログラムは専門研修基幹施設（以下、基幹施設）と専門研修連携施設（以下、連携施設）の施設群で行われ、それぞれの特徴を生かした症例や技能を広く、専門的に学ぶことができます。

■ アピールポイント

- 糸魚川という過疎地に密着したプログラムで、全ての研修を糸魚川で行うことが可能です。
- 充実した初期臨床研修に引き続き総合診療を学ぶことができる。

■ 特色

- 糸魚川市唯一の総合病院、地域救急センターを有し、災害拠点病院、へき地中核病院の指定を受け、広汎な初期から2.5次までの救急医療や高度な医療を提供している。また、全国の総合診療医による定期的な教育プログラムが組まれている。
- 総合診療科においては、幅広い疾患に対する初診を中心とした外来診療、専門各科にまたがる問題を持つ患者に対する病棟診療、救急部と連携した初期救急などを提供している。

指導医からのメッセージ

糸魚川地域に密着して専攻医を育てます。地域住民と共に医療のみならず、地域づくりを行いましょ。

■ 連携施設の病院名

糸魚川市能生国民健康保険診療所・県立柿崎病院・厚生連けいなん総合病院・あがの市民病院・県立中央病院

研修期間 3年

2021年度募集人数 2名

選考方法 面接

プログラム責任者 診療部長 松木 晃

■ 研修コース

①基本コース

総合診療専門研修は、卒後3年目からの専門研修（後期研修）3年間で構成されます。

- 1年次修了時には、患者の情報を過不足なく明確に指導医や関連職種に報告し、健康問題を迅速かつ正確に同定することと目標とします。主たる研修の場は内科研修となります。
- 2年次修了時には、診断や治療プロセスも標準的で患者を取り巻く背景も安定しているような比較的単純な健康問題に対して的確なマネジメントを提供することを目標とします。主たる研修の場は総合診療専門研修Ⅱとなります。
- 3年次修了時には、多疾患合併で診断や治療プロセスに困難さがあったり、患者を取巻く背景も疾患に影響したりしているような複雑な健康問題に対して的確にマネジメントを提供することができ、かつ指導することができることを目標とします。主たる研修の場は総合診療専門研修Ⅰとなります。
- また、総合診療専門医は日常遭遇する疾病と傷害等に対する適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を提供するだけでなく、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看取りなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組むことが求められますので、18ヶ月の総合診療専門研修Ⅰ及びⅡにおいては、後に示す地域ケアの学びを重点的に展開することとなります。

②週間スケジュールの例

総合診療専門研修Ⅱ

		月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30	朝カンファレンス・勉強会		○	○		○		
8:30-12:30	外来業務（検査等も含む）	○		○		○		
8:30-12:30	病棟業務（検査等も含む）		○		○			
13:30-16:30	病棟業務（検査等も含む）	○	○	○	○	○		
16:30-17:00	症例カンファレンス	○	○	○	○	○		
17:00-18:00	総回診				○			

平日宿直を1-2回/月、土日の日当直を1-2回/月

金曜午後のTVカンファレンスを2回/月、TV経験省察研修録勉強会を1回/月

問い合わせ先

担当者 総務課長 渡部 利和

TEL 025-552-0280

FAX 025-552-3819

E-mail somukacho@itoigawa-hp.jp

ホームページ <http://www.itoigawa-hp.jp/info/detail.php?id=487>

● 医学生・研修医等への情報提供



○卒後臨床研修合同ガイダンス

新潟県の臨床研修病院が一堂に会し、説明会を開催します。各病院ブースで、実際に研修、指導をしている先生方が、魅力あるプログラムを紹介します。臨床研修に関する講演では、最新の情報や、専門研修まで見通した病院選びに役立つお話が聞けます。懇談会もあり、新潟県外から参加の医学生や、先輩研修医、指導医と気軽に情報収集をすることができます。

○専門研修合同ガイダンス

新潟県内の専門研修期間施設が一堂に会し、説明会を開催します。各基幹施設ブースで、基幹施設のプログラム責任者等がプログラムの魅力等を紹介します。懇談会もあり、参加しているプログラム責任者・先輩専攻医に直接質問や相談ができ、気軽に情報収集することができます。



○広報事業

県内の医療・研修情報を提供するため、「にいがた医療・研修ニュースレター」を発行しております。研修病院のインタビュー記事を始め、実際に研修をしている先生方の記事や、若手医師からのメッセージ等を掲載しています。

○大学訪問

県外の医学部へ進学した学生を対象に「新潟県出身者等の集い」として交流会を行っています。県内の指導医や研修医から実際の研修についての話を聞くことができます。



● 新潟県臨床研修フォーラム ～新潟レジデントフォーラム～

○平成31年度レジデントフォーラム（4月6日開催）

毎年、4月に開催しているレジデントフォーラムは、新潟県の1年目研修医が一堂に会します。平成31年度は代表の挨拶のあと、指導医からのお祝い、激励等のメッセージがあり、参加者全員による、午餐会が行われました。県内で共に働く研修医として、交流が深まり、士気を高める機会となったようです。



● 医師ナビにいがた

新潟県では、医師及び研修医の皆様、医師を目指している皆様へ向けた情報ポータルサイト、「医師ナビにいがた」を開発しました。本サイトでは、新潟県内の臨床研修、専門研修情報や、良医育成新潟県コンソーシアムの実施するイベントなど、様々な情報を随時発信しています。専門研修合同ガイダンス等の情報はこちらでチェックしてください。

● 新潟県医療情報提供バンク

新潟県医療情報提供バンクに申し込まれた方には、新潟県や「良医育成新潟県コンソーシアム」より、医療・研修情報等をお送りします。また、県内専門研修プログラムの基幹施設より直接イベント等のご案内をすることもあります。

なお、費用はかかりません。

ご提供情報の例

- 医学生向け 臨床研修合同ガイダンスの案内、「新潟県臨床研修病院案内」送付
- 研修医向け 臨床研修フォーラムの案内、専門研修合同ガイダンスの案内、「新潟県専門研修プログラム案内」送付
- にいがた医療・研修ニュースレター、メールマガジンの送付 など

【申込方法】

お名前、学校・大学・病院名、学年、郵便番号・住所、メールアドレスを、郵送、電話、FAX、メール、メールフォームでお知らせください。

*新潟県医療情報の提供は郵送・メールで行っております。ご希望の方法についてご記入ください。

<https://www.ishinavi-niigata.jp/>

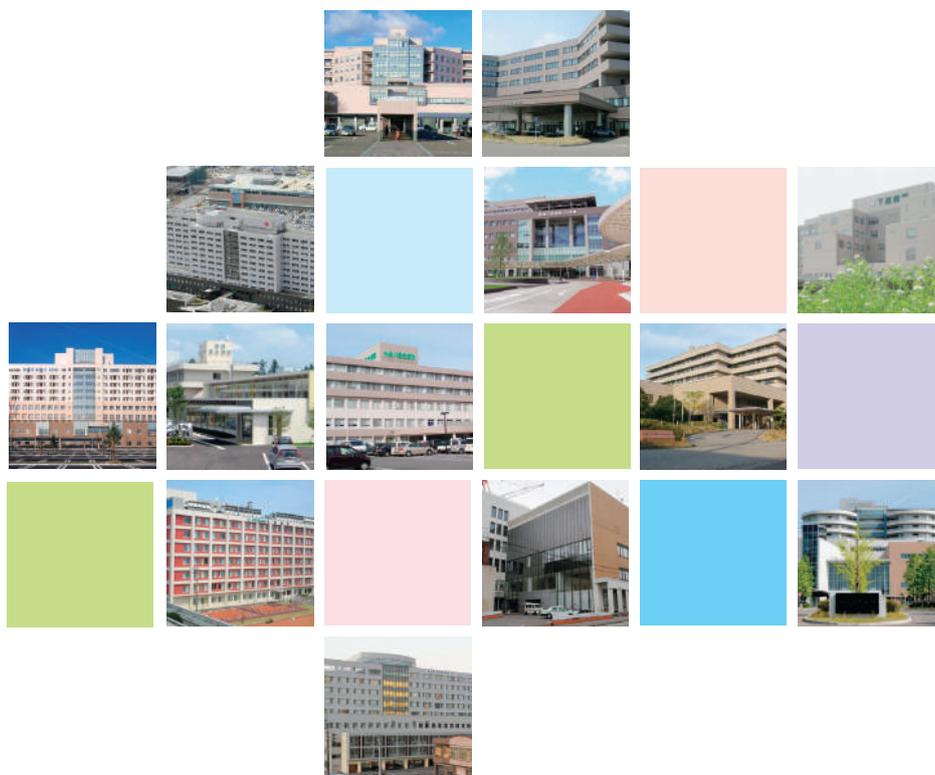
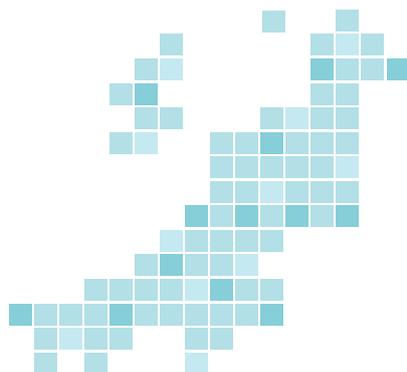
医師ナビにいがた

検索



- 良医育成新潟県コンソーシアムは、皆様の個人情報を個人情報保護法の定めに従って収集し、当会の業務を実施するために利用し、必要に応じて、当会を構成する新潟県及び新潟県内の臨床研修病院及び専門研修基幹施設、新潟の医療・研修情報提供のための業務委託先に情報を提供させていただきます。
- 皆様よりお預かりした個人情報は、新潟県の医療・研修情報、皆様に有益と思われる情報等をご案内する以外に利用することは一切ありません。
- なお、詳しくは医師ナビにいがたホームページをご覧ください。

2021年度
新潟県専門研修プログラム
Niigata Prefecture Specialized Training Program



令和2年5月発行
【良医育成新潟県コンソーシアム事務局】
新潟県福祉保健部医師・看護職員確保対策課

〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町4番地1
TEL 025-280-5960 FAX 025-280-5641 e-mail ngt040290@pref.niigata.lg.jp
URL <https://www.ishinavi-niigata.jp>